

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

15

2011年11月

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府内における埋蔵文化財の調査と保護につきまして、日頃より皆様のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。大阪府では、近年の公共事業の見直しや行財政改革などの影響により文化財保護行政も大きく変わろうとしています。また、府民の文化財に対するニーズも多様化し、これまでの発掘調査中心から普及・公開・活用が強く求められるようになりました。文化財調査事務所では、こうした府民のニーズに少しでも応えられるよう日々努力しているところです。

文化財調査事務所は、大阪府の文化財調査の拠点となる施設として、平成9年4月にオープンしました。文化財保護課の埋蔵文化財調査部門が事務所に配置され、発掘調査について事業者との協議から実施、調査終了後の遺物整理と報告書の作成、整理終了後の資料の管理を行っています。

ところで、ここ数年、収蔵庫の統廃合があり、それを契機に昨年度から収蔵遺物の再点検及びデータ化を実施しています。大阪府にはこれまでの発掘調査で出土した約15万箱にも上る膨大な遺物が保管されています。すべてをデータ化するには今後数年を要する見込みですが、活用のための重要な基礎作業となるものです。また、この再点検によりこれまで報告されていたがその所在が不明であった遺物、あるいはすぐにでも展示に供せられるような貴重な遺物がかなりの数、見つかっていますし、これからも見つかっていくと思われれます。さしあたって、これらの遺物の中から「誉田山古墳群出土遺物」について、本年報の資料紹介の中で報告いたしております。

こうした貴重な遺物、特に未報告の遺物については順次、機会を見て報告してまいりたいと思います。それとともに文化財調査事務所では、「文化財」という貴重な遺産を活用できるように発掘の調査成果を速やかに報告書として情報公開し、積極的な普及広報活動を通して社会に還元して行きたいと考えています。そのためにも、これまで以上に文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成23年10月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長 野口 雅昭

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第 15 冊である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成 22 年度の発掘調査及び普及公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。

なお、概要報告表題の調査番号は表 3・4・5 の調査番号に一致する。

遺跡名（平成 22 年度調査番号）

- (1) 所在地
- (2) 調査の原因となった事業
- (3) 調査担当者

4. 各項の執筆分担は、次のとおりである。

・「平成 22 年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第一グループ
・「主要発掘調査の概要報告」	調査管理・第一・第二グループ
・「資料紹介」	調査管理グループ
・「活動報告」	調査管理・第二グループ
・「平成 22 年度研究等及び資料」	調査管理グループ
・「平成 22 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
・「平成 22 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
・「平成 22 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ

5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。

6. 本書は 500 部作成し、一部あたりの単価は 267 円である。

目 次

はじめに	
例 言	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
グラフ目次	
平成 22 年度における埋蔵文化財調査の概況	1
【主要発掘調査の概要報告】	6
和泉寺遺跡 (10001)	7
久宝寺遺跡 (10002・10003・10016・10075)	8
大町遺跡 (10004)	10
七ノ坪遺跡 (10006)	11
ミヤケ北遺跡 (10009・10074)	13
瓜生堂遺跡 (10015)	14
寺田遺跡 (10026)	15
高井田横穴群・平尾山古墳 (10028)	16
奥田井遺跡 (10035)	17
招提中町遺跡・九頭神遺跡 (10036・10076)	18
芹生谷遺跡 (10050)	19
高木遺跡 (10056)	20
太井遺跡 (10058)	21
宮園遺跡 (10061)	22
金龍寺旧境内跡 (10087)	23
【資料紹介】	25
誉田山古墳群の概要－14・15・20号墳について－	25
【活動報告】	34
文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業	34
収蔵遺物の再点検－緊急雇用促進事業－	38
平成 22 年度研究会等及び資料	39
平成 22 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	39
平成 22 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	40
実物資料・複製資料長期貸出	40
実物資料・複製資料短期貸出	42
資料撮影・写真・図面等貸出・掲載	43
資料閲覧	47
平成 22 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	50
調査事務所平面図	51

挿図目次

図 1	主要調査位置図	6	図 38	調査位置図	20
図 2	調査区位置図 (1/5,000)	7	図 39	1区航空写真	20
図 3	久宝寺遺跡調査区位置図	8	図 40	2区航空写真	20
図 4	調査区配置図	9	図 41	調査区位置図	21
図 5	8区井戸 39 土器出土状況 (西から)	9	図 42	調査区全景	21
図 6	8区9層中土器群出土状況 (東から)	9	図 43	出土縄文土器	21
図 7	住棟区下面全景 (南東から)	10	図 44	調査地周辺図	22
図 8	住棟区東半部下面全景 (北西から)	10	図 45	Bトレンチ溝検出状況	22
図 9	065 土坑遺物出土状況	10	図 46	試掘の位置と新たに発見された遺跡の範囲	22
図 10	2区西半土層	11	図 47	Aトレンチ土層断面模式図	22
図 11	3区西半河道検出状況	11	図 48	トレンチ配置図	23
図 12	調査区の位置	11	図 49	遺構・遺物が見つかった調査区3周辺遠景	23
図 13	2・3区西半土層断面	12	図 50	調査区1・3区出土遺物	23
図 14	3区検出河道平面図	12	図 51	金龍寺跡	24
図 15	2区河川出土遺物	12	図 52	四丁町石	24
図 16	調査地位置図	13	図 53	五丁町石	24
図 17	第2次調査北部の遺構検出状況	13	図 54	『摂津名所図会』に描かれた金龍寺跡	24
図 18	土器棺出土状況	13	図 55	「金龍時旧境内跡」遺跡範囲	24
図 19	第3次調査北部の遺構検出状況	13	図 56	誉田山古墳群位置及び分布 (S = 1/10,000)	25
図 20	調査地位置図	14	図 57	14号墳石室	25
図 21	方形周溝墓検出状況	14	図 58	15号墳石室	26
図 22	周溝断面	14	図 59	15号墳羨道部遺物出土状況	26
図 23	調査地位置図	15	図 60	同上詳細	26
図 24	第2調査区全景	15	図 61	20号墳石室	26
図 25	高井田支群位置図	16	図 62	誉田山14号墳石室実測図及び出土遺物	27
図 26	横穴式石室平面図	16	図 63	誉田山15号墳石室実測図及び出土遺物 (1)	28
図 27	玄門・羨道部 (西から)	16	図 64	誉田山15号墳出土遺物 (2)	29
図 28	羨道部南壁 (北西から)	16	図 65	誉田山15号墳出土遺物 (3)	30
図 29	調査区位置図	17	図 66	誉田山15号墳出土板状土製品	31
図 30	水田面1 (手前は現代床土上面) 右奥は水田面2・3	17	図 67	誉田山20号墳石室実測図及び出土遺物	32
図 31	水田面2 (左)・水田面3 (右)	17	図 68	寺田遺跡現地説明会風景	34
図 32	調査地位置図	18	図 69	芹生谷遺跡での発掘体験風景	34
図 33	九頭神遺跡検出竪穴住居	18	図 70	「南河内の縄文展」展示風景	34
図 34	体験発掘	19	図 71	歴史講座講演風景	35
図 35	調査地点と金山古墳	19	図 72	点検後の再収納状況 (泉大津収蔵庫)	38
図 36	調査地全景	19	図 73	コンテナの内側に貼られた番号を記入したシール	38
図 37	調査地位置図	19	図 74	文化財調査事務所平面図	51

表目次

表 1	原因別調査種別表	1	表 6	平成22年度久宝寺遺跡調査区一覧表	6
表 2	地域別調査面積・件数一覧表	2	表 7	誉田山古墳群観察表	33
表 3	平成22年度調査箇所一覧表 (1)	3	表 8	平成22年度普及・啓発・公開事業一覧表 (1)	35
表 4	平成22年度調査箇所一覧表 (2)	4	表 9	平成22年度普及・啓発・公開事業一覧表 (2)	36
表 5	平成22年度調査箇所一覧表 (3)	5	表 10	平成22年度普及・啓発・公開事業一覧表 (3)	37

グラフ目次

グラフ 1	原因別調査面積の推移	2	グラフ 3	原因別調査件数の推移	2
グラフ 2	地域別調査面積の推移	2	グラフ 4	地域別調査件数の推移	2

平成 22 年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数および面積

平成 22 年度の調査件数は、発掘調査 19 件、試掘調査 20 件、確認調査 15 件、立会調査 42 件、計 96 件で、調査面積の合計は 14,786㎡であった。

件数は、平成 21 年度から増える傾向にあるが（グラフ 3・4）、これは確認・試掘調査および立会調査の数が増えているためであり、本調査の件数は平成 18 年度以来 20 件前後でほぼ一定している。

一方調査の面積は平成 18 年度以来、毎年減少が続いている（グラフ 1・2）。これは各事業者の単年度あたりの執行規模が縮小され、小刻みに進める傾向があることによって、発掘調査も小刻みになったことによるとと思われる。

主な調査成果

平成 22 年度の調査成果について、時代ごとに概観する。

縄文時代

南河内郡太子町ミヤケ北遺跡（10009）では、平成 21 年度の晩期のピット群の発見につづいて、平成 22 年度ではやはり晩期の甕棺とピット群および石器の製作跡が見ついている。標高 44m、蛇行する梅川の氾濫原に接する微高地にある。

河内長野市太井遺跡（10058）では、後期前葉の土器が出土している。遺跡は奈良の五条との境の大沢峠から、大阪側に約 4 km 下った標高 320m の地点で、山間部の谷あいの地にある。湧水を利用したキャンプサイトであろうか。縄文後期の遺跡はこれまで海岸に近い低地や、低地を見晴らす段丘上などで見ついていたが、このような高地での発見は

珍しく注目される。

弥生時代

八尾市久宝寺遺跡（10002）では、前期中葉の土器が入る大溝が見つかり、同じ溝中から縄文晩期末の突帯文土器が出土している。

枚方市九頭神遺跡（10076）では、中期の円形竪穴住居が見ついている。過去数年間の調査で、中期前半の住居群が幾つかのグループを構成していたことが分かっているが、今回の発見により、もう一つの新たなグループもあったことを明らかにした。

岸和田市大町遺跡（10004）では、前年度の調査で自然流路内から中期後半の土器が見つかりはいたが、今回、同じ中期後半の土器の廃棄土坑が見つかり、当時の集落がごく近くに埋もれていることが確実となった。

古墳時代

和泉地域で調査された 4 箇所の遺跡で、前期～中期頃に埋没した自然流路が見ついている。北から七ノ坪遺跡（10006）、和泉寺跡（10001）、寺田遺跡（10026）、大町遺跡（1004）で、いずれも沖積段丘あるいは低位段丘上に位置している。このうち寺田遺跡では流路の最終埋没が中期頃で、この頃に集落としての密集度が高まっていたらしい。古墳時代中期頃には、過剰な水を生活域の外に逃がす術を、ある程度獲得していた可能性を考えさせる。寺田の集落では玉類、鉄製品を製作し、馬を飼養した痕跡があり、韓式系土器が出土している。注目すべき遺跡となった。

表 1 原因別調査種別表

*面積は㎡である

	13 年度		14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
住宅	11,340	11	7,905	10	12,522	19	13,817	17	15,453	7	14,730	15	11,169	10	488	8	1,799	9	6,454	14
農林	15,250	14	8,147	12	12,441	7	10,308	6	9,068	9	1,970	4	1,564	5	672	3	587	4	1,754	4
道路	1,518	18	4,256	20	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27
下水	22,698	14	16,846	12	13,017	6	13,150	7	8,174	9	2,181	5	180	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16
河川	1,389	6	146	4	1,598	4	5,204	5	9,063	2	3,883	2	204	2	10	2	0	1	36	4
学校	526	4	8	1	1,054	7	144	9	809	7	24	8	12	1	140	1	361	5	0	1
その他	2,000	6	1,199	6	745	6	246	10	2,793	12	1,269	12	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30
合計	54,721	73	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96

表 2 地域別調査面積・件数一覧表

*面積は㎡である

	13 年度		14 年度		15 年度		16 年度		17 年度		18 年度		19 年度		20 年度		21 年度		22 年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
大阪市	1,880	2	1,304	3	258	5	238	6	245	2	120	4	0	0	96	2	30	2	85	4
泉南	5,723	17	450	5	8,971	8	4,782	11	1,417	13	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6
泉北	834	6	5,043	10	3,897	9	7,861	16	7,357	13	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9
南河内	19,747	16	9,381	18	14,250	14	8,388	12	16,433	15	4,942	10	6,534	9	9,660	11	7,945	10	2,620	12
中河内	3,385	15	949	14	3,319	13	887	9	50	11	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28
北河内	16,263	4	17,664	4	15,733	10	18,064	9	20,923	15	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21
三島	6,572	9	2,175	8	5,957	11	14,060	8	11,287	8	6,677	12	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11
豊能	317	5	1,541	3	0	0	12	1	360	2	50	1	204	4	0	0	187	6	70	5
合計	54,721	74	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96

八尾市久宝寺遺跡（10002）では前期の方墳群が以前から見つかったが、そのすぐ南側に接して同時期の耕作地が見つかった。広がったはずの平野部でも、古墳時代には土地利用の集約度が高まっていたことが明らかとなった。

柏原市高井田横穴群・平尾山古墳群（10028）では、有名な史跡の横穴墓群から東へ500m離れた尾根上で、解体した建物の基礎の下から横穴式石室が見つかった。石材は大型で、新しいタイプの石室であったが、この場での建物新設計画が撤回されたため、羨道のごく一部を除いて、床面まで掘り下げることを取りやめ、埋め戻している。なお、奥壁側での墳丘裾の確認によれば、一辺約30mの方墳と見られる。

奈良時代

高槻市金龍寺旧境内跡（10087）は、試掘調査によって新規に発見された遺跡である。標高28mの扇状地上で奈良時代の須恵器や、中世の遺物が出土している。北東へ急な坂を上った標高175mの金龍寺は長岡京期の創建とされ、出土した須恵器はそれよりも古いようである。

河内長野市高木遺跡（10056）では落ち込み状遺構から奈良時代の須恵器の壺が出土している。

平安時代～中世

堺市宮園遺跡（10061）は試掘調査によって新規に発見された遺跡で、平安時代前期から中世後期にわたる遺物が見つかり、今後の府営住宅建替に先立って、本調査が必要となる。

岸和田市大町遺跡（10004）では洪水堆積らし

い細かい砂に覆われた平安時代末の水田が見つかり、その砂の上では直後の時期に畝耕作が行われていたことも判明した。

和泉市和泉寺跡（10001）では寺域の隅とみられる地区から13～15世紀の多くの柱穴群が見つかった。しかし古代の寺院関連の遺構は依然として判明しなかった。

河内長野市奥田井遺跡（10035）では標高270mの現代の棚田の下から、13世紀後半以降の土器・磁器が出土しており、14世紀の文書の記載ともあわせて棚田開発時期の想定がなされた。

河南町芹生谷遺跡（10050）は、国史跡金山古墳の北西に接した標高130mの地点で、石川右岸条里型地割の南限にあたる地である。坪界は掘れなかったが、内部の鎌倉時代の溝は坪界線とは平行ではなかった。

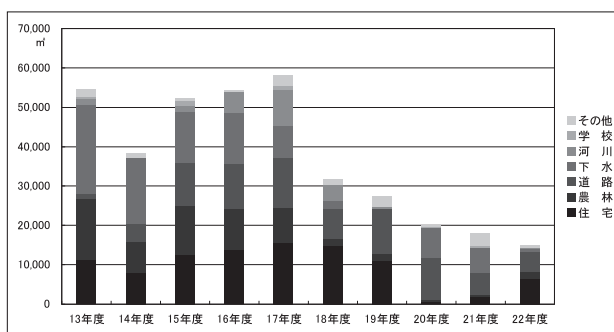
普及・活用事業

調査現場の公開を、和泉寺跡、大町遺跡、寺田遺跡、芹生谷遺跡の4遺跡で行なった。現場で発掘体験を同時に行なったものもある。重要な成果があっても多数の見学者の接近が危険な場合もあるため、すべての現場で可能とはいかないが、できるだけ公開することとしている。

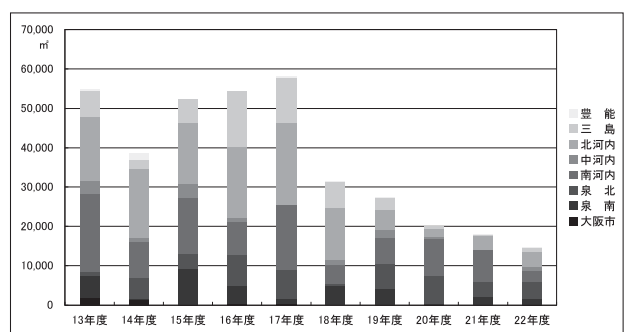
市町村の事業や市民グループその他の企画に協力・応援し、講師の派遣なども行なう「でかける博物館事業」を36件行なった。ほとんどがいわゆる社会教育施設を実施場所とした一般向けのものであるが、学校教育現場での実施も数件ある。

逆に学校教育現場から、調査事務所や発掘の現場

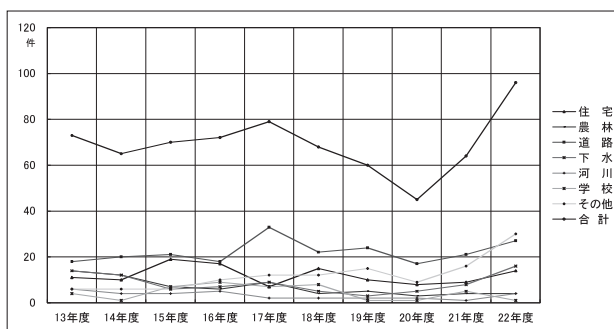
グラフ1 原因別調査面積の推移



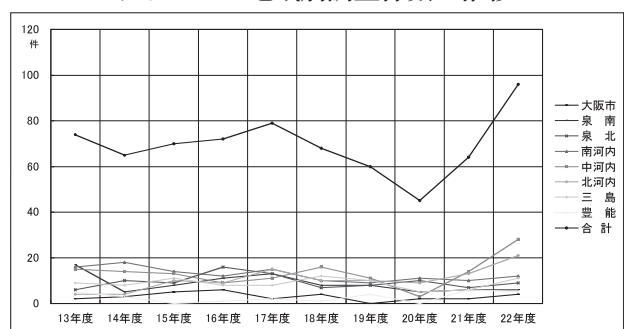
グラフ2 地域別調査面積の推移



グラフ3 原因別調査件数の推移



グラフ4 地域別調査件数の推移



に出向いて行なう体験学習が、中学・高校あわせて5校分あった。調査事務所で行なわれる学習は、単なる見学とはちがって実習が主となるため、生徒たちへのインパクトは大きいと思われる。

出土遺物の展示では、指定管理者が管理する府立の弥生文化博物館および近つ飛鳥博物館にて、スポット展示(特設コーナーでの展示)を5件行なった。展示テーマにあわせた講演も同時に行なっている。

平成22年4月1日に府立泉北考古資料館が堺市に移管されて、「堺市立泉北すえむら資料館」となったため、上記のようなスポット展示およびその他の府立の施設での展示が貴重な公開の場となっている。その際、新しい成果だけでなく、以前の調査によるものであってもその後の整理の進捗によって判明したことなどがあれば、それをテーマにして小規模な展示を行なっている。(藤永正明)

表3 平成22年度調査箇所一覧表(1)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
10001	和泉寺跡	和泉市府中町4丁目	発掘	平成22年4月1日	平成22年9月6日	1,240㎡	土屋	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線建設事業
10002	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	発掘	平成22年4月1日 (昨年度から継続)	平成22年5月25日	180㎡	松岡 宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (下水管設置工事)
10003	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	発掘	平成22年4月1日 (昨年度から継続)	平成22年6月22日	200㎡	松岡 宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (高圧線関連工事)
10004	大町遺跡	岸和田市大町4丁目	発掘	平成22年7月1日	平成23年1月11日	1,480㎡	三木 杉本	住宅経営室 住宅整備課	府営岸和田大町住宅建替工事
10005	小阪合遺跡	八尾市小阪合町1丁目	立会	平成22年5月10日	平成22年5月11日	—	岩瀬	下水道室 事業課	寝屋川流域下水道事業
10006	七ノ坪遺跡	泉大津市北豊中町	発掘	平成22年5月17日	平成22年8月31日	48㎡	三木 三好	南部水道 事業所	泉大津・豊中分岐改良工事
10007	川尻遺跡	豊能郡豊能町川尻地内	確認	平成22年5月10日	平成22年5月10日	20㎡	小林 林	箕面整備 事務所	箕面北部丘陵地区受水管敷設工事
10008	山賀遺跡	東大阪市新家4丁目	立会	平成22年5月24日	平成22年5月24日	—	岩瀬	下水道室 事業課	寝屋川流域下水道事業
10009	ミヤケ北遺跡	南河内郡太子町太子	発掘	平成22年6月2日	平成22年7月15日	290㎡	山田	交通道路室 道路環境課	府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線交差点改良工事
10010	遺跡外	守口市大日町1丁目	試掘	平成22年5月25日	平成22年5月25日	10㎡	岡本	阪神高速 道路部	阪神高速守口JCT建設工事
10011	穂積遺跡	豊中市豊町2丁目	立会	平成22年5月31日	平成22年5月31日	—	小林	交通道路室 道路環境課	府道豊中吹田線歩道設置工事
10012	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町2丁目	立会	平成22年6月1日	平成22年6月1日	—	岩瀬	交通道路室 道路整備課	都市計画道路枚方藤阪線整備
10013	長尾谷町遺跡	枚方市田口山3丁目	立会	平成22年4月23日	平成22年4月23日	—	横田	住宅経営室 住宅整備課	府営招提第2住宅耐震補強工事
10014	遺跡外	門真市江端町	試掘	平成22年6月18日	平成22年6月18日	10㎡	岩瀬	住宅経営室 住宅整備課	府営門真下馬伏住宅耐震補強工事
10015	瓜生堂遺跡	東大阪市若江西 新町1丁目	発掘	平成22年6月8日	平成22年6月12日	4㎡	岩瀬	下水道室 事業課	柏原八尾増補幹線整備工事
10016	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	発掘	平成22年6月24日	平成22年9月7日	400㎡	宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (放流管設置工事)
10017	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	立会	平成22年7月6日	平成22年9月10日	—	宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (下水管設置工事)
10018	中宮ドンパ遺跡	枚方市宮之阪3丁目	立会	平成22年6月21日	平成22年6月21日	—	岩瀬	交通道路室 道路環境課	一般府道枚方茨木線拡幅工事
10019	瓜生堂遺跡	東大阪市若江西 新町1丁目	立会	平成22年6月21日	平成22年6月21日	—	岩瀬	下水道室 事業課	中央南補幹線(二)管理棟建設
10020	遺跡外	堺市中区深井中町	試掘	平成22年6月1日	平成22年6月23日	15㎡	阿部	住宅経営室 住宅整備課	府営深井北町住宅耐震改修工事
10021	遺跡外	岸和田市春木旭町	試掘	平成22年6月18日	平成22年6月18日	10㎡	阿部	住宅経営室 住宅整備課	府営春木旭住宅耐震改修工事
10022	遺跡外(西の庄東 遺跡隣接地)	吹田市西ノ庄町	立会	平成22年7月2日	平成22年7月2日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (貨物専用道路進入路建設工事)
10023	新家遺跡	東大阪市新家東町~中町	立会	平成22年6月27日	平成22年9月13日	—	岩瀬	東部水道 事業所	φ300送水管敷設工事
10024	遺跡外(西の庄東 遺跡隣接地)	吹田市西ノ庄町・清和園町	試掘	平成22年7月9日	平成22年9月13日	125㎡	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (貨物専用道路建設工事)
10025	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	立会	平成22年7月21日	平成22年7月28日	—	宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (電気管設置工事)
10026	寺田遺跡	和泉市寺田町	発掘	平成22年8月24日	平成23年2月28日	1,603㎡	三好	住宅経営室 住宅整備課	府営和泉寺田住宅建替工事
10027	中宮ドンパ遺跡	枚方市宮之阪3丁目	立会	平成22年7月27日	平成22年7月28日	—	松岡 横田	交通道路室 道路環境課	一般府道枚方茨木線拡幅工事 (埋設管敷設工事)
10028	平尾山古墳群	柏原市大字高井田809	確認	平成22年7月20日	平成22年7月28日	100㎡	藤永 松岡・林	家庭支援課	府立修徳学院改築工事

表4 平成22年度調査箇所一覧表(2)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
10029	佐堂遺跡	八尾市佐堂町	立会	平成22年7月22日	平成22年7月22日	—	広瀬	東部水道事業所	送水管位置確認
10030	鬼虎川遺跡	東大阪市弥生町 ～西石切6丁目	確認	平成22年7月22日	平成22年7月29日	36㎡	岩瀬	東部水道事業所	送水管位置確認
10031	遺跡外 (恩智遺跡隣接地)	八尾市曙川東1丁目	立会	平成22年8月18日	平成22年8月21日	—	岩瀬	交通道路室 道路環境課	主要地方道八尾茨木線歩道設置工事
10032	遺跡外	枚方市牧野北町	試掘	平成22年8月3日	平成22年8月4日	96㎡	横田	住宅経営室 住宅整備課	府宮牧野北住宅建替工事
10033	遺跡外	守口市佐太中町	試掘	平成22年8月4日	平成22年8月4日	40㎡	小林	住宅経営室 住宅整備課	府宮佐太住宅耐震改修工事
10034	国府遺跡 (錦塚古墳周溝)	藤井寺市国府1丁目	立会	平成22年8月5日	平成22年8月6日	—	西川	交通道路室 道路環境課	主要地方道堺大和高田線交通安全事業
10035	奥田井遺跡	河内長野市鳩原	発掘	平成22年7月20日	平成22年11月24日	860㎡	阪田	農政室 整備室	府宮農村振興総合整備事業 「河内長野和泉地区」
10036	招提中町遺跡 九頭神遺跡	枚方市東牧野町	発掘	平成22年8月16日	平成23年3月25日	2,388㎡	岩瀬	住宅経営室 住宅整備課	府宮東牧野住宅建替工事
10037	遺跡外 (安松田遺跡隣接地)	泉佐野市東羽倉崎町	立会	平成22年8月18日	平成22年9月29日	—	三木	大阪ガス㈱	東羽倉崎導管整備工事
10038	田尻遺跡	田尻町吉見	立会	平成22年5月11日	平成22年6月18日	—	三木	交通道路室 道路環境課	一般府道新家田尻線歩道設置工事
10039	遺跡外	門真市三ツ島	試掘	平成22年9月9日	平成22年9月9日	4㎡	藤永	住宅経営室 住宅整備課	府宮門真三ツ島住宅耐震改良工事
10040	長尾遺跡	枚方市長尾元町2丁目	立会	平成22年9月14日	平成22年9月14日	—	小林	交通道路室 道路環境課	府道杉田口禁野線歩道設置工事
10041	山田池竊跡群 出屋敷遺跡	枚方市山田池南町	立会	平成22年11月4日	平成22年11月7日	—	岩瀬	公園課	府宮山田池公園裏りの里整備事業 (便所等新築工事)
10042	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成22年7月28日	平成22年7月28日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (旧地下道桁受台撤去工事)
10043	佐堂遺跡	東大阪市金岡4丁目	立会	平成22年9月29日	平成22年9月29日	—	広瀬	八尾土木 事務所	中環の森かん水施設設置工事
10044	百済寺遺跡	枚方市宮之阪3丁目	立会	平成22年10月4日	平成22年10月4日	—	岡本	府立病院機 構	府立精神医療センター建替工事
10045	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	確認 立会	平成22年10月7日	平成22年10月7日	8㎡	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (荷捌上屋新築他工事)
10046	讃良郡条里遺跡	四條畷市砂～岡山	立会	平成22年10月29日	平成22年10月29日	—	岩瀬	下水道室 事業課	なわて水みらいセンター整備事業 (送水管理設工事)
10047	百済寺遺跡	枚方市宮之阪3丁目	立会	平成22年10月21日	平成22年10月21日	—	岡本	府立病院機 構	府立精神医療センター再整備事業 に伴う解体工事
10048	高井田遺跡	東大阪市高井田西～川俣	立会	平成22年10月24日	平成22年10月24日	—	宮崎	八尾土木 事務所	一般国道308号中央分離帯基盤整備 工事
10049	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町2丁目	発掘	平成22年10月28日	平成22年12月24日	268㎡	林	交通道路室 道路整備課	都市計画道路枚方藤阪線整備
10050	芹生谷遺跡	南河内郡河南町芹生谷	発掘	平成22年11月1日	平成22年12月16日	320㎡	橋本	交通道路室 道路整備課	一般国道309号河南赤阪バイパス 道路改良事業
10051	駒ヶ谷遺跡	羽曳野市飛鳥市市谷	確認 試掘	平成22年11月11日	平成22年11月12日	36㎡	山田	富田林土木 事務所	一級河川飛鳥川改修工事
10052	遺跡外	大阪市城東区中央1丁目	試掘	平成22年11月18日	平成22年11月19日	4㎡	小林	府警本部 施設課	城東警察署建替工事
10053	長保寺遺跡	寝屋川市中木田町 ～讃良西	発掘	平成22年11月16日	平成22年11月16日	10㎡	岩瀬	下水道室 事業課	門真複屋川(三)増補幹線(二) (第1工区)敷設工事
10054	遺跡外	大阪市城東区中央1丁目	試掘	平成22年10月25日	平成22年10月27日	24㎡	小林	府警本部 施設課	城東警察署仮庁舎建設工事
10055	大里遺跡	豊能郡能勢町大里	確認	平成22年11月8日	平成22年11月8日	30㎡	小林	交通道路室 道路整備課	主要地方道園部能勢線交通安全整備 事業
10056	高木遺跡	河内長野市日野	発掘	平成22年11月8日	平成23年3月31日	604㎡	阪田	農政室 整備室	府宮農村振興総合整備事業 「河内長野和泉地区」
10057	並松町遺跡	堺市堺区並松町	立会	平成22年4月5日 平成22年10月29日	平成22年4月5日 平成22年10月29日	—	岡本	阪神高速 道路㈱	阪神高速大和川線建設工事 (旧防火水槽等撤去工事)
10058	太井遺跡	河内長野市小深	発掘	平成22年11月15日	平成22年12月28日	270㎡	西川	農政室 整備室	府宮農村振興総合整備事業 「河内長野和泉地区」
10059	豊浦谷古墳群	東大阪市東豊浦	立会	平成22年11月25日	平成22年11月25日	—	宮崎	八尾土木 事務所	府宮枚岡公園落石対策工事
10060	上白原遺跡	岸和田市稲葉町	確認	平成22年11月11日	平成22年11月11日	30㎡	阿部	交通道路室 道路整備課	一般府道春木岸和田線整備事業
10061	遺跡外 (宮園遺跡)	堺市中区宮園町	試掘	平成22年11月29日	平成22年12月20日	140㎡	阿部	住宅経営室 住宅整備課	府宮宮園住宅建替工事
10062	岡町北遺跡	豊中市岡町北3丁目	試掘	平成22年11月19日	平成22年11月20日	10㎡	小林	交通道路室 道路環境課	主要地方道伊丹豊中線歩道設置工 事

表5 平成22年度調査箇所一覧表(3)

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
10063	遺跡外	大阪市此花区伝法2丁目	試掘	平成22年11月25日	平成22年11月25日	24㎡	小林	住宅経営室 住宅整備課	府宮千鳥橋住宅建替工事
10064	木の本遺跡	八尾市空港1丁目	確認	平成22年11月30日	平成22年11月30日	24㎡	小林 宮崎	医療対策課	緊急医療対策SCU建設工事
10065	待兼山遺跡	池田市石橋3丁目	確認	平成22年11月18日	平成22年11月18日	10㎡	小林	北部農と緑の 総合事務所	中山池改修工事
10066	遺跡外	堺市堺区霞ヶ丘町1丁目	試掘	平成22年12月8日	平成22年12月8日	3㎡	阪田	府警本部 施設課	霞ヶ丘交番新築工事
10067	遺跡外	東大阪市吉田8丁目	立会	平成22年12月2日	平成22年12月2日	—	藤永	東部水道 事業所	工業用水路(消火栓)設置工事
10068	千里丘1丁目 所在遺跡	摂津市千里丘1丁目	立会	平成22年12月6日	平成22年12月6日	—	藤永	府警本部 施設課	千里丘交番建替工事
10069	大泉遺跡	柏原市平野1丁目	確認	平成22年12月7日	平成22年12月9日	19㎡	広瀬 藤永	交通道路室 道路環境課	旧170号線交通安全施設等整備
10070	久宝寺遺跡 佐堂遺跡	八尾市西久宝寺 ～久宝寺園1丁目	確認	平成22年12月16日	平成22年12月16日	50㎡	岡本	西日本高速 道路橋	近畿自動車道天理～吹田線八尾 パーキングエリア新設工事
10071	遺跡外(吹田操車 場遺跡隣接地)	吹田市芝田町	確認 立会	平成22年12月16日	平成22年12月16日	6㎡	岡本	UR都市機構 西日本支社	吹田操車場跡地区画整理事業に係 る駅前広場整備事業
10072	八尾南遺跡	八尾市木本	確認 立会	平成22年12月17日 平成23年2月10日	平成22年12月17日 平成23年2月10日	25㎡	岡本	国土交通省 大阪航空局	八尾空港西側跡地地下埋設物調査
10073	遺跡外(吹田操車 場遺跡隣接地)	吹田市芝田町	立会	平成22年12月17日	平成22年12月17日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (土留壁撤去工事)
10074	ミヤケ北遺跡	南河内郡太子町太子	発掘	平成23年1月5日	平成23年1月31日	240㎡	山田	交通道路室 道路環境課	府道柏原駒ヶ谷千早赤阪線交通安 全事業
10075	久宝寺遺跡	八尾市竜華2丁目	立会	平成23年1月5日	平成23年3月31日	67㎡	宮崎	下水道室 事業課	竜華水みらいセンター整備事業 (送水管敷設工事)
10076	九頭神遺跡	枚方市東牧野町	発掘	平成23年1月5日	平成23年3月18日	640㎡	岩瀬	住宅経営室 住宅整備課	府宮東牧野住宅建替工事
10077	船橋遺跡	藤井寺市川北3丁目	立会	平成23年1月5日	平成23年3月1日	—	阪田	国土交通省大和 川河川事務所	大和川南堤防井出口南樋門撤去工 事
10078	和泉寺跡	和泉市府中町4丁目	発掘	平成23年2月1日	平成23年3月31日	1,320㎡	土屋	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪府和南海線建 設事業
10079	平尾山古墳群	柏原市大字高井田	確認	平成23年1月19日	平成23年1月21日	85㎡	松岡 林	家庭支援課	府立修徳学院校舎建替
10080	遺跡外	岸和田市土生5丁目	試掘	平成23年1月25日	平成23年1月25日	14㎡	三木	住宅経営室 施設保全課	府宮岸和田市土生宅第2期耐震工 事
10081	高安古墳群	八尾市服部川	立会	平成23年2月3日	平成23年2月14日	—	広瀬	八尾土木 事務所	一の谷(恩智川)砂防えん堤工事
10082	久宝寺遺跡	八尾市西久宝寺	確認	平成23年2月16日	平成23年2月16日	22㎡	宮崎	東部水道 事業所	中央南補幹線(一)外電機設備工事
10083	遺跡外(遠里小野 遺跡外隣接地)	堺市堺区香ヶ丘5丁目	試掘	平成23年3月3日	平成23年3月3日	75㎡	岡本	阪神高速 道路橋	府道高速大和川線に伴う浅香山換 気所建設工事
10084	遺跡外	大阪府北区南扇町7丁目	試掘	平成23年2月21日	平成23年2月23日	33㎡	小林	府警本部 施設課	天満警察署仮庁舎建設工事
10085	谷川遺跡	富田林市谷川	立会	平成23年3月6日	平成23年3月6日	—	阪田	府立富田林 高校同窓会	府立富田林高校同窓会館建設工事
10086	吹田操車場遺跡 明和池遺跡	吹田市芝田町 摂津市千里丘7丁目	立会	平成23年3月9日	平成23年3月9日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (電気信号基礎工事)
10087	遺跡外 (金龍寺旧境内跡)	高槻市成合南の町・宮が谷 町・紅葺町	試掘	平成22年8月2日	平成23年2月28日	1,036㎡	岡本	西日本高速道路 茨木土木事務所	新名神高速道路(高槻～箕面)建 設・高槻東道路建設工事
10088	吹田操車場遺跡	吹田市芝田町	立会	平成23年3月18日	平成23年3月18日	—	岡本	鉄道・運輸機構 国鉄清算事業	吹田信号場整備工事 (擁壁等構造物撤去工事)
10089	遺跡外	茨木市千提寺	試掘	平成23年2月23日	平成23年3月7日	30㎡	岡本	西日本高速 道路橋	新名神高速道路(高槻～箕面)建 設工事
10090	遺跡外 (大堀遺跡隣接地)	松原市大堀4丁目	立会	平成23年3月24日	平成23年3月24日	—	岡本	阪神高速 道路橋	阪神高速松原JCT建設工事
10091	禁野本町遺跡	枚方市禁野本町2丁目	立会	平成23年3月30日	平成23年3月30日	—	岡本	財務省 近畿財務局	公務員宿舍枚方住宅整備に伴う埋 設管設置
10092	山賀遺跡	八尾市新家4丁目	立会	平成23年2月14日	平成23年2月14日	—	岩瀬	下水道室 事業課	柏原八尾増補幹線外整備工事
10093	若江北遺跡	東大阪市若江西新町3丁目	立会	平成23年2月14日	平成23年2月14日	—	岩瀬	下水道室 事業課	柏原八尾増補幹線外整備工事
10094	北口遺跡	四條畷市砂～岡山	確認	平成23年1月17日	平成23年1月18日	150㎡	岩瀬	下水道室 事業課	なわて水未来センター整備工事 (送水管築造工事)
10095	讃良郡糸里遺跡	四條畷市砂～寝屋川市東 町	立会	平成23年1月17日	平成23年1月18日	—	岩瀬	下水道室 事業課	なわて水未来センター整備工事 (送水管築造工事)
10096	逢阪遺跡	四條畷市大字逢阪	立会	平成22年12月14日	平成23年2月24日	—	岩瀬	枚方木 事務所	讃良川改修工事



图1 主要調査位置図

いずみでら
和泉寺跡（10001）

- (1) 和泉市府中町4丁目
- (2) 都市計画道大阪岸和田南海線建設事業
- (3) 土屋みづほ

はじめに 平成20年度より、道路予定地内の発掘調査を実施している。平成22年度は、09049-1区、10001-2・3区、10078-1～3区の調査を行った(図2)。いずれも和泉寺跡内に所在し、10001-3区は府中遺跡内にも含まれる。なお、09049-1区は、平成21年度に調査を開始したが、調査終了は平成22年度であるため、ここで報告する。また、10078-1～3区は、擁壁設置予定箇所、現況の里道および水路沿いの部分などで、既往調査区の外周部分にあたる。

調査の概要(09049-1区・10001-2区・10078-2・3区) 09049-1区と外周部分10078-2区、10001-2区と外周部分10078-3区とは里道により区切られているが、層序、遺構の状況とも類似する。いずれも2面の遺構面を確認した。

第1面では、自然流路、溝、土坑、柱穴を検出した。自然流路は09049-1区・10078-2区から10001-2区・10078-3区に連続して検出した。柱穴は直径0.3～0.4mの円形である。遺構内からは、瓦器、瓦質土器、須恵器、瓦などが出土した。各遺構の詳細な時期は決定し難いが、13～15世紀におさまるものと推定できる。

第1面のベース層である褐色粘土層を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は北東方向に向かって最大で約0.5m落ち込んでおり、自然流路跡と考えられる。埋土である褐色粘土層からは、弥生時代後期から古代の遺物が出土した。

第2面は上述の砂礫層上面に該当し、土坑、柱穴を検出した。柱穴は一辺0.5～0.7mの隅丸方形および直径0.3～0.4mの円形である。遺構内からは少量であるが土師器などが出土しており、古墳時代前期頃に属するものと推定できる。

調査の概要(10001-3区) 3面の遺構面を確認した。

第1面では、北一南方向および東一西方向の耕作溝、ピットを検出した。遺構内からは、磁器、土師質土器などが出土した。近世に属するものと推定できる。

第2面では、土坑、柱穴、北一南方向の耕作溝を検出した。柱穴は直径0.3～0.5mの円形で、790基を検出した。1間×2間、約2m×3mほどの小規模な掘立柱建物10棟以上を構成するものと考えられる。遺構内からは、瓦器、瓦質土器などが出

土した。14～15世紀頃に属するものと推定できる。

第3面では、溝状遺構、土坑、柱穴を検出した。溝状遺構は東西方向で、西側は調査区外へと伸びる。遺構内からは、瓦器、土師質土器などが出土した。12～13世紀頃に属するものと推定できる。

第3面のベース層である褐色シルト層を除去すると、砂礫層を検出した。砂礫層上面は北および南方向に向かって最大で約0.8m落ち込んでおり、自然流路跡と考えられる。埋土である褐色シルト層からは、弥生時代後期から古墳時代の遺物が出土した。

調査の概要(10078-1区) 年報14で報告した09-01区の外周部分にあたる。2面の遺構面を確認した。

第1面では、柱穴と、北東一南西方向の耕作溝を検出した。柱穴は直径0.3～0.4mの円形である。遺構内からは、土師質土器、須恵器、瓦などが出土した。13世紀頃に属するものと推定できる。

第2面では、調査区の南東部で、溝1条を検出した。溝は09-01区第2面で検出したものに連続する。遺構内からは、土師器が出土した。09-01区の調査成果より、8世紀頃に属するものと考えられる。

まとめ 今回の調査では、全ての調査区において中世の柱穴を検出し、特に10001-3区では数多い。機能を明らかにし得ていない柱穴が多いものの、中世の集落が広い範囲にわたって存在していたものと推定できる。10001-3区は和泉寺跡の推定寺域に隣接しており、和泉寺跡以後の盛衰を考えるうえでも重要な成果である。



図2 調査区位置図(1/5,000)

久宝寺遺跡（10002・10003・10016・10075）

- (1) 八尾市竜華2丁目
- (2) 竜華水みらいセンター整備事業
- (3) 宮崎泰史・松岡良憲

はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市南久宝寺一丁目を中心として東西1.8km、南北1.6kmの範囲に広がる縄文時代晩期から近世にかけての府域を代表する大規模な複合遺跡である。とくに、古墳時代では広範囲にわたって遺構が検出されている。

今回の調査は竜華水みらいセンター敷地内において、その付帯工事（電気、下水管等埋設管設置）に伴う事前調査及び立会調査である。工事に合わせて調査地点をそれぞれ3・6～10区と呼称している。なお、1・2・4・5区は2009年度に調査を実施している。

調査の経緯

3・6・10区は下水管設置、7区は高压電線設置、8区は放流管設置、9区は電気管設置に伴う調査である。

3区は幅1m、延長250mの調査区であるが、掘削深度が中世の遺構面に達しない部分については立会調査とし、既存の下水管と交叉する部分（A～E）については、機械と人力を併用して、TP+5.1～6.3mまで調査を実施した。6区、9区については幅1mで、工事深度が中世包含層に達しないことから立会調査とした。7区は、高压電線布設部分については立会調査とし、四ヶ所のハンドホール（A～D）部分についてはTP+5.8～6.7mまで調査を実施した。8区は工事によって破壊される深

表6 平成22年度久宝寺遺跡調査区一覧表

調査区	調査番号	調査面積	掘削物件	取り扱い	工事掘削
3区	10002	180㎡（延長250m）	送水管（φ450mm）築造工事	発掘・立会	TP+5.1、6.3、7.2m
6区	10017	（延長164m）	送水管（φ300mm）築造工事	立会	TP+7.2m
7区	10003	200㎡（延長122m）	管渠（高压電線）築造工事	発掘・立会	TP+5.8～7.1m
8区	10016	400㎡	放流管（φ900mm）築造工事	発掘	TP+5.8m
9区	10025	29㎡	通函監視制御設備工事	立会	TP+7.5m
10区	10075	67㎡（延長59m）	送水管（φ250mm）築造工事	発掘・立会	TP+3.46～6.62m

さ（TP+5.8m）まで調査を行った。10区は8区の南側にあたり、東側部分はTP+6.62m、西側部分については今回の調査区では最も深い、TP+3.46mまで調査を実施することができた。

調査の概要

発掘調査の結果、3-A区で中世の包含層、落ち込み、古墳時代前半の古墳（44号墳）の墳丘の一部、古墳時代初頭の包含層を検出している。3-B区では中近世の遺構面、古墳時代後期の溝一条を検出した。3-C・D区は近世～古墳時代の水田跡、そして東端の3-E区では中近世～弥生時代の水田跡を検出した。いずれも調査面積が小さい（下位で1m四方）ため規模等については明らかすることができなかった。

7区（A～C）では、近世の島畑、平安時代（12世紀）の柱穴、土坑や平安時代（9世紀）の柱穴、奈良時代（8世紀）の溝、古墳時代後期の畦畔を検出している。

8区では調査の結果、1～10の遺構面を確認している。1層上面では近世の島畑、2層上面では近

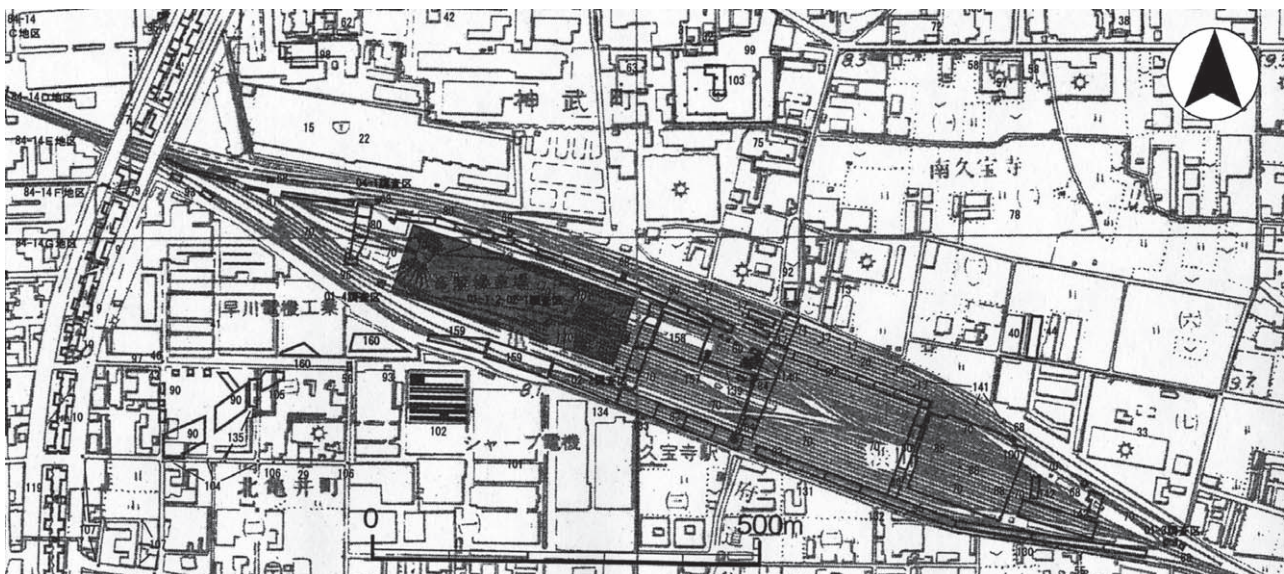


図3 久宝寺遺跡調査区位置図

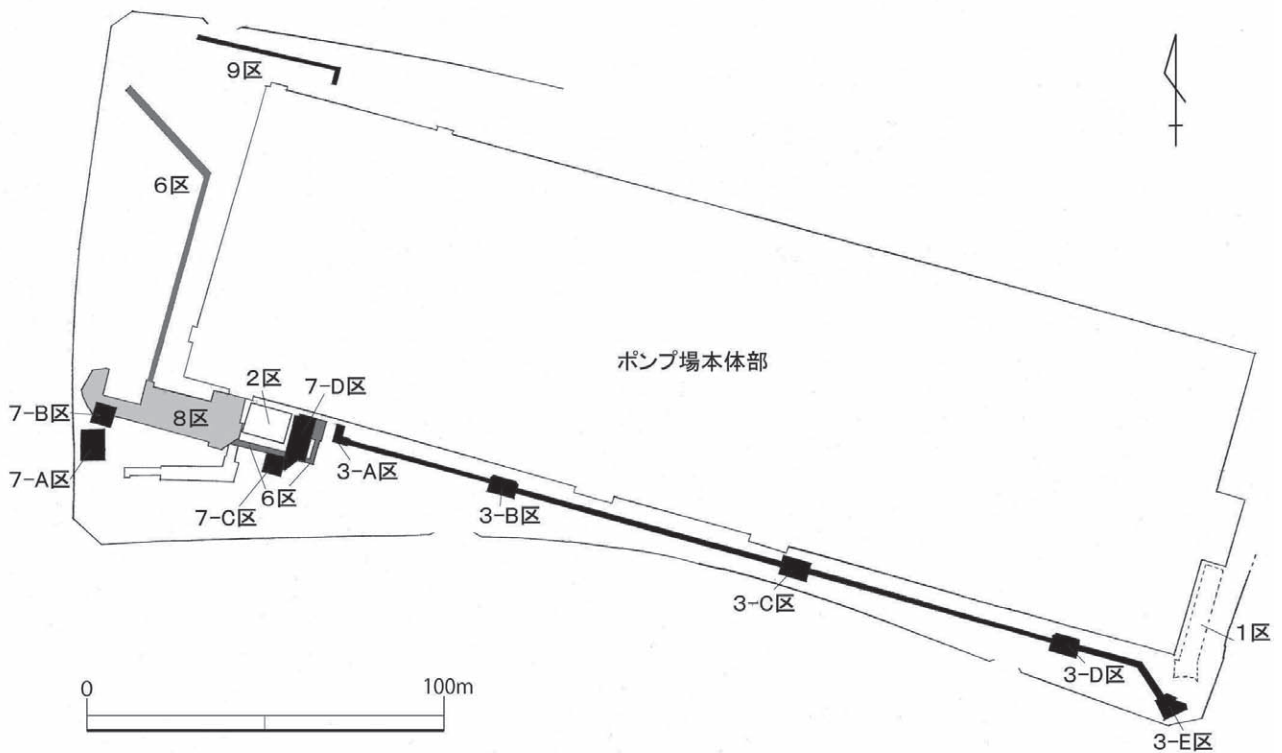


図4 調査区配置図

世の小溝、3層上面では平安～鎌倉時代の柱穴・溝、4層上面では奈良時代時代の井戸・掘立柱建物・溝を検出している。井戸は径約1.5m、深さ約1.55mをはかり、最下層から須恵器広口壺2点、土師器皿、櫛、数珠などが出土している（図5）。5～8層上面では古墳時代の畦畔・落ち込み、9層上面では周溝状遺構・溝・土坑、10層上面では小溝（畝溝）、土坑を確認している。

なお、9層中から庄内甕3点以上、壺、高坏、鉢などが1m四方の範囲内からまとまった状態で出土している（図6）。10層上面の小溝（畝溝）からも庄内甕、弥生系甕が出土している。

10区では調査の結果、1～26の層序を確認している。10層上面までは8区と同じ堆積状況を示

し、4層上面で奈良時代の溝2条が検出され、墨書土器が出土している。18層上面から弥生時代後期の土器、20層上面で弥生時代前期の大溝が検出され、溝中から突帯文土器が出土している。

まとめ

今回の調査は、調査区ごとに工事深度が異なることから、各時代の遺構面を面的に把握することができなかった。しかし、部分的であれ、弥生時代前期から中近世の遺構面を確認することができた。

また、10区の20層上面で検出した大溝は、周辺の調査では、出土遺物から遺構の時期を決定することが出来なかったが、今回見つかった土器から、少なくとも弥生時代前期の中頃に人為的に埋められたことが明らかとなった。



図5 8区井戸39 土器出土状況（西から）

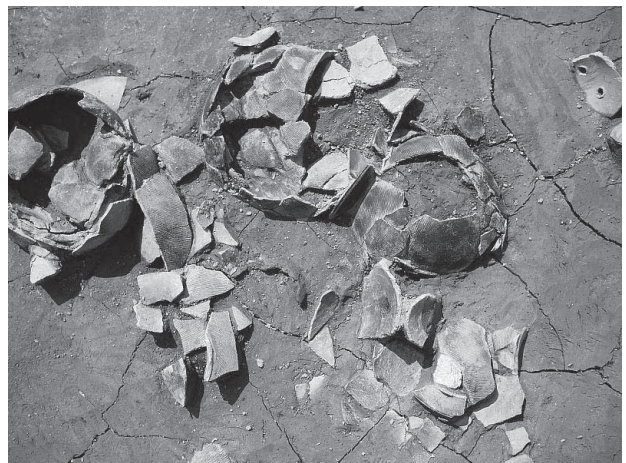


図6 8区9層中土器群出土状況（東から）

おおまち
大町遺跡（10004）

- （1）岸和田市大町4丁目
- （2）府営岸和田大町住宅建替工事
- （3）三木 弘・杉本清美

はじめに

府営岸和田大町住宅の建替え工事に伴う発掘調査を、平成15年以来断続的に行ってきた。今回は住棟1棟、防火水槽1箇所および団地内道路（約42m）の工事に伴う調査である。

調査成果

住棟区と防火水槽区は、大町遺跡の最北に当たっている。基現地表面下の盛土と旧耕作土・床土（層厚10cm）の下に灰黄色・灰色砂シルトが10cmほど堆積し、その下に褐灰色粘質土などからなる基盤層となる。シルト層および基盤層の上面で遺構を検出した。

住棟区の上面では近世に比定できる水田段差、耕作痕、溝を検出した。耕作痕と溝は正方位に長軸をとるものと、それに斜交するものがある。耕作痕から磁器が出土した。

住棟区の下面では、12世紀後葉に埋没した水田、水田を埋めた洪水堆積土の上に形成された13世紀以降の畝地が調査区のほぼ全域に広がっていた。さらに、弥生Ⅳ期の遺物廃棄土坑（065土坑）、庄内式期に埋没した河道、小穴、溝も検出した。065土坑からは壺、鉢、高杯、甕、蛸壺の破片のほか、石包丁、石剣、砥石、サヌカイト剥片が出土した。石剣は基部の小片である。

防火水槽区の上面では耕作痕、小穴が検出された。住棟部と同じく近世に比定できると考える。

下面では河道が検出された。弥生Ⅳ期の土器の小破片が少量出土したが、周囲の状況から、その埋没時期は庄内式期だと考えられる。

道路区では攪乱が著しく、住棟区・防火水槽区の下面に対応する基盤層上面で遺構が検出されたのみである。検出遺構は、水田、河道、溝、小穴および耕作痕である。水田は約1mの段差をもって下がる面で、耕作土が良好に残っている。耕作土は上下に分かれ、上層は近世、下層は13世紀とみられる。河道は布留式期に埋没したと考えられる。溝は13～14世紀の廃絶である。小穴や耕作痕からは比定年代を示す遺物の出土はなかったが、耕作痕については近世であると考えられる。

このたびの調査によって発見された弥生Ⅳ期の土坑と平安時代と考えられる水田（および畦）は、これまでの調査で未発見であった時期の遺構であり、

その存在が明らかになった点は重要である。

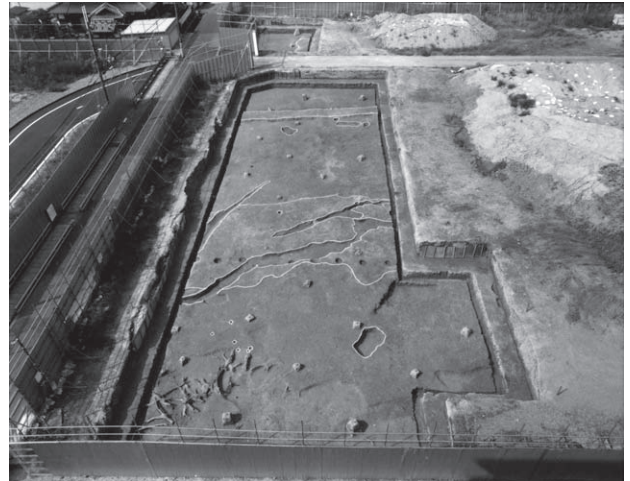


図7 住棟区下面全景（南東から）



図8 住棟区東半部下面全景（北西から）



図9 065土坑遺物出土状況

しちのつぼ
七ノ坪遺跡 (10006)

- (1) 泉大津市北豊中1丁目
- (2) 泉大津・豊中分岐改良工事
- (3) 三木 弘・三好 玄

はじめに

水道分岐改良工事に伴い発掘調査を実施した。調査地は府立泉大津高校の裏門の接する市道に位置する。七ノ坪遺跡の中央付近にあたる。

七ノ坪遺跡は、和泉丘陵から大阪湾に向かって派生する小尾根上に立地する弥生時代末から古墳時代前期を中心とした集落遺跡であり、これまでに住居址をはじめ水田跡などが検出されている。

調査の経緯

まず4月末に既設の埋管位置確認のための試掘掘削に立会い、攪乱状況を確認した。その結果、既設管の掘方による攪乱はあるものの、工事対象範囲内には遺構が残っている可能性が高く、工事に伴って発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、空気制御弁室部3箇所および人孔部2箇所を対象とし、管の敷設工事に際しては適宜立会することとした。そして工事の進捗にあわせ、弁室部は5月下旬、人孔部は8月末に発掘調査を行った。

調査の概要

【1区 弁室部・2.9 × 3.3 m】

現地盤面下0.7 mまでは埋土（盛土）であった。その下に灰色砂質土～砂シルト（0.4 m）、明緑灰色砂シルト（0.1 m）、そして灰白色砂シルトが続く。遺構は検出されなかったが、明緑灰色砂シルトから近世の陶器2点、瓦1点が出土した。いずれも小破片である。

【2区 弁室部・3.4 × 5.0 m】

現地盤面下0.4 mまでは埋土（盛土）である。その下に砂を基調とした河川内堆積土が0.4 ~ 0.8 m



図10 2区西半土層

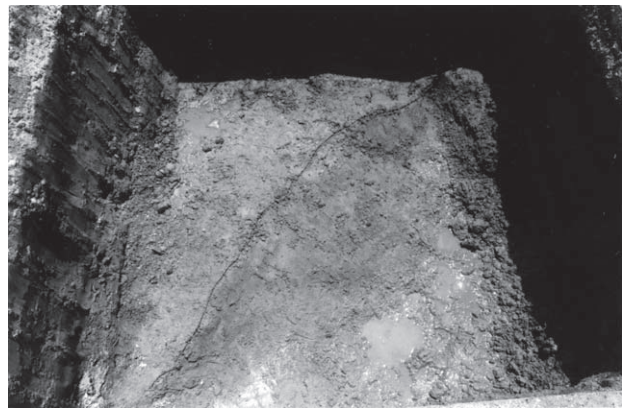


図11 3区西半河道検出状況

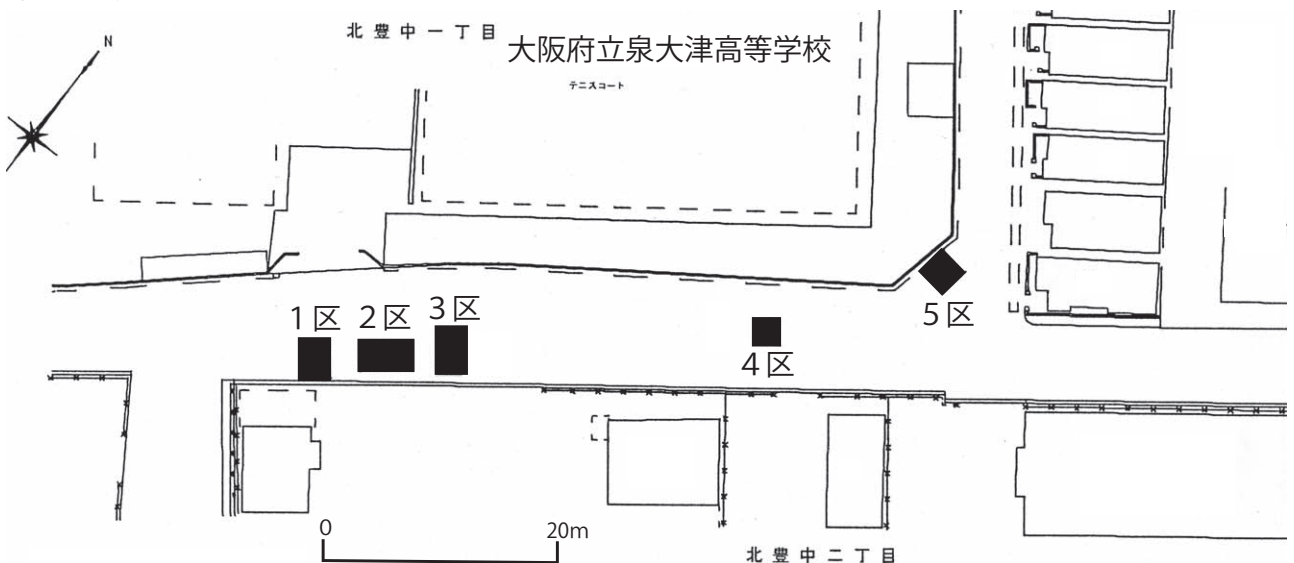


図12 調査区的位置

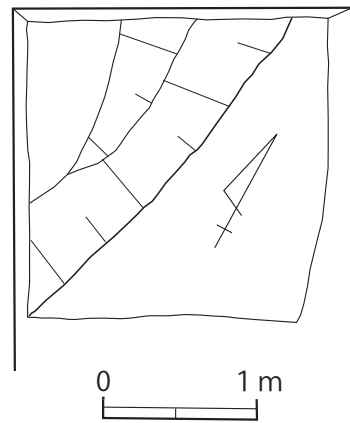
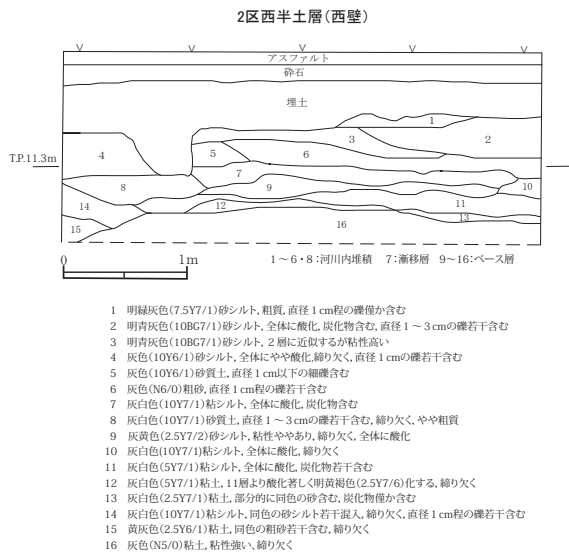


図14 3区検出河道平面図

る。その下に旧耕作土(0.1m)、黄褐色粘質土(0.1~0.2m)、そして褐灰色粘土(0.3m以上)が続く。褐灰色粘土から土器の小破片1点が出土したが、器種や時期は不明である。

出土遺物

出土遺物の大半は、いわゆる庄内式期の古式土師器である。そのうち掲示できたものは2区の河川から出土した2点のみであった(図15)。1は椀状の杯部を持つと思われる高杯の脚部で、内湾気味に立ち上がる。外面にはミガキ調整が僅かに認められ、さらに円孔が穿かれていた痕跡が残る。

2は甕の胴部下半であり、全体的に丸味を呈する。底部は突出するが、その度合いは低く、いわゆる平底である。胴部外面にはタタキの痕跡が幾分残る。これら遺物から、2区の河川は庄内式期に埋没したと推定される。

まとめ

今回の発掘調査は小規模な調査であり、しかも当初はかなりの攪乱・削平を受けているものと考えられ、遺構や遺物を検出することができるか危ぶまれたが、幸いにも2・3・5区で庄内式期の河川が存在が確認された。

これらの河川の詳細については、残念ながら明らかにはできなかったが、土器が出土していることから庄内式期の集落と何らかの関係にあったことは間違いなく、例えば、これらの河川を利用して周辺で検出されている水田に用水等を供給していたとも考えられる。また、集落を画する河川であったかもしれない。今後の調査に期待したい。

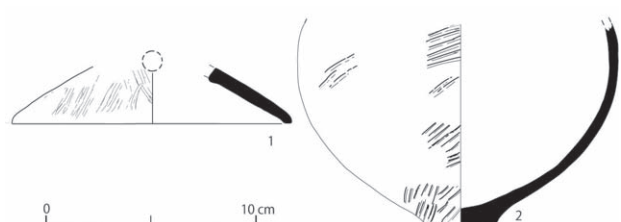


図15 2区河川出土遺物

の厚さで堆積する。さらにその下は灰色系の粘土・シルトからなるいわゆる基盤層となる。河川内堆積土からは28点の土器破片が出土し、そのうち2点を図示した(図14)。

【3区 弁室部・2.2×2.2m/1.9×3.2m】

東西2分割して調査を実施した。現地盤面下0.2~0.6mまでは埋土(盛土)で、その下に河川内堆積土が0.4~0.7mの厚さで堆積する。西半調査区で9層を切り込んだ河川の肩を検出した(図11)。土層図(図13)の8・9層の境界線がその肩の形状を示している。堆積土から有稜高杯の杯部破片が出土した。小片のため図示できないが、庄内式期に比定することができる。

【4区 人孔部・2.2×3.2m】

既設管と旧道路の擁壁のために、著しく攪乱されていて、埋土(盛土)内で調査を終了し、それより下層については確認できなかった。

【5区 人孔部・2.1×2.6m】

現地盤面下0.6~0.7mまでは埋土(盛土)であ

みやけきた
ミヤケ北遺跡 (10009・10074)

- (1) 南河内郡太子町太子
- (2) 主要地方道柏原駒ヶ谷千早赤阪線交差点改良工事
- (3) 山田隆一

はじめに

ミヤケ北遺跡は、平成20年度の試掘調査で確認された新規発見の遺跡であり、その結果を受けて平成21年度に「太子町南」交差点の南東隅で、発掘調査(第1次)を実施した。今年度の調査は、その交差点から南方(第2次)と北方(第3次)の工事予定範囲である。調査面積は、第2次調査が約290㎡、第3次調査が約240㎡である。

調査成果

概要 第1次調査と同様に、縄文時代晩期中頃から後半の遺構・遺物が確認できた。第2次調査地の北部と南部に縄文晩期の遺構の集中が確認できた。第3次調査地の南半でも若干の遺構が確認できたが、北に向かって遺構密度は低くなる。

第2次調査北部の遺構集中範囲 調査地の北約15mの範囲に多数の遺構が密集する。この範囲の包含層は厚く、遺物量も多い。遺構はピットと土坑が主体であり、土器棺1基のほか、有溝砥石、磨石の出土した土坑もある。

土器棺 88cm×68cm程度の楕円形の土坑に、

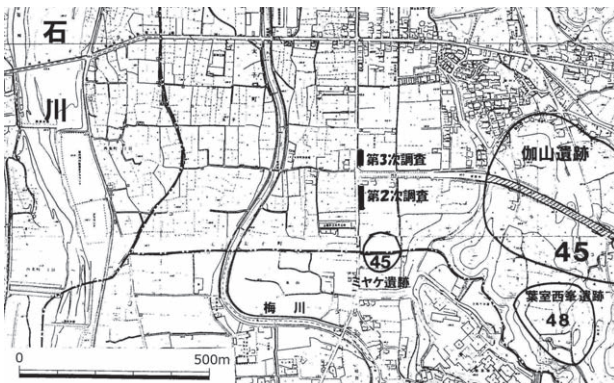


図16 調査地位置図

砲弾形の深鉢を斜方向に据え置いたものである。蓋は存在しないが、棺内への土の流れ込み状況から、木蓋等が想定できる。土器棺の外面には煤が付着するので、日常土器を転用したと考えられる。棺内埋土からの人骨や副葬品は未確認である。

第2次調査南部の遺構 調査地の南端約12mの範囲でピット・土坑・溝が確認できた。他にサヌカイト剥片が径2m程度の範囲で出土した。製品は含まれず、多数の剥片や石核の他、突帯文土器片も含まれ、晩期後半の石器製作跡と考えられる。

第3次調査南部の遺構 調査地の南部約25mの範囲でピットと土坑が疎らな状況で確認でき、それ以北では遺構は未確認である。

まとめ

今回調査でミヤケ北遺跡の広がりや推定できるようになった。遺跡は、南北道路に沿った埋没微高地上に存在し、第1次と第2次調査の北部15mのあたりが集落の中心部と考えられる。また第3次調査の状況から、北部にはのびないであろうと考えられる。



図18 土器棺出土状況

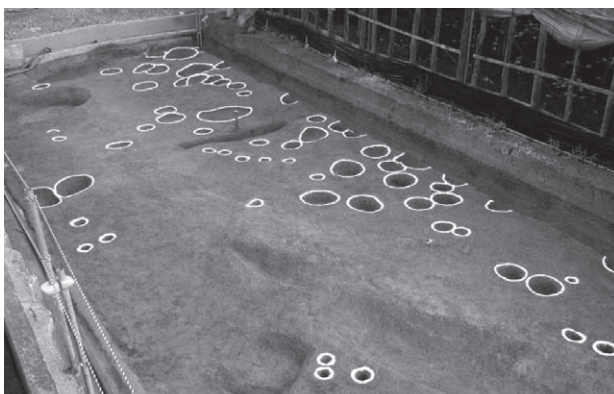


図17 第2次調査北部の遺構検出状況



図19 第3次調査南部の遺構検出状況

瓜生堂遺跡 (10015)

- (1) 東大阪市若江西新町 1 丁目
- (2) 柏原八尾増補幹線整備工事
- (3) 岩瀬 透

はじめに

瓜生堂遺跡は、東大阪市の中央部やや南西よりに位置する弥生時代を中心とした弥生時代から近世の複合遺跡である。地形的には、沖積低地の微高地上に位置する。

今回の調査は、大阪府都市整備部東部流域下水道事務所が実施している下水道柏原八尾増補幹線外整備事業のうち、東大阪市若江西新町 1 丁目に位置する推進立坑部分にあたる。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である瓜生堂遺跡の範囲内に所在することから、鋼矢板で囲まれた一辺 2 m 四方の正方形形状のトレンチ 4 m を対象に発掘調査を実施した。

調査概要

調査地は大阪中央環状線の中央緑地帯の南行き車線側にあたる場所である。調査は、近畿自動車道大阪線建設に伴う盛土および整地土約 1.3 m を機械掘削し、それ以下を人力で掘削した。

盛土・整地土除去後の第 1 層（上面が T.P. + 2.2 m を測る）から第 15 層（上面が T.P. + 0.3 m を測る）に至るまで、約 1.9 m の間に 15 層の堆積層が認められたが、この間は明確な遺構・遺物は検出されなかった。しかし、その下層の第 16 層灰青色微砂上面（T.P. + 0.1 m ~ 0.2 m）をベースとした遺構面と遺構を検出した。

検出した遺構は方形周溝墓と見られ、調査区中央で北東から南西方向の周溝と考えられる溝（幅 1.0 m、深さ 0.2 m）と、その南東側に盛土（黒色微砂と灰青色微砂の互層）が認められた。周溝の埋土は 3 層に分層が可能であるが、基本的には暗灰青色な

いは灰黒色の微砂であった。洪水等で埋まったのであろう。

残念ながら遺物等が出土しなかったため、時期については明確にしがたいが、周辺地域からも同様の方形周溝墓が検出されていること、特に隣接する近畿自動車道大阪線建設に伴う発掘調査で検出されている方形周溝墓の成果等を参考にすれば、弥生時代中期の方形周溝墓と考えられる。

まとめ

今回の調査は、極めて小規模な調査であったが、弥生時代中期と考えられる方形周溝墓の周溝と墳丘裾部の一部を検出した。

当該地域を含めた周辺部からはこれまでに 100 基以上の方形周溝墓が検出されており、弥生時代中期から後期の墓域とされてきた地域である。今回の調査からもそれが立証されたといえよう。



図 21 方形周溝墓検出状況

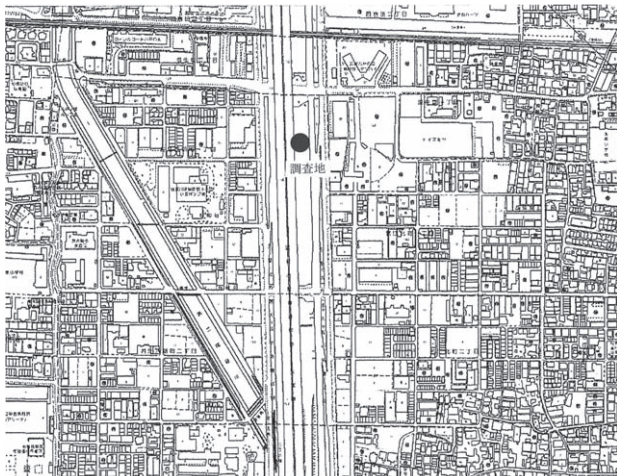


図 20 調査地位置図



図 22 周溝断面

寺田遺跡（10026）

- (1) 和泉市寺田町
- (2) 府営和泉寺田住宅建替工事
- (3) 三好 玄

はじめに

本遺跡は、府営和泉寺田住宅建替え工事に先立つ試掘調査によって発見・周知された遺跡である。本調査は、平成16年度、平成19・20年度に続く第3次調査にあたり、調査面積は1675㎡（既往調査面積との合計約7000㎡）を測る。

調査地は、平成16年度調査区、平成19・20年度調査区の間に位置し、1区から3区に分けて調査を実施した。

1区の調査成果

調査区のおお半が大規模な旧河川流路内に含まれる。第1次調査で検出された河川跡につながるものと思われる。流路内の堆積は、古墳時代初頭の土器を含む下層と古墳時代中期の土器を大量に含む上層とに分けられる。上層からは、滑石製白玉および双孔円盤も出土した。玉類には未完成の状態と考えられるものが含まれている。

そのほか流路の埋没後に建てられた掘立柱建物2棟、溝1条を検出した。

2区の調査成果

掘立柱建物6棟以上、竪穴建物6棟、溝、井戸、土坑、落ち込みなどを検出した。これまでの調査成果と総合すると集落中心部（北東）から縁辺（南西）にかけての建物や施設の配置を確認することができる。

古墳時代中期の遺構面の下層において、弥生時代後期～終末期にかけての旧流路を検出した。さらにその下層の確認によって、弥生時代中期の土器を含む流路を検出した。

3区の調査成果

掘立柱建物3棟以上、溝、土坑を検出した。集

落中心部の状況を知ることができる。2区同様、下層で流路を検出した。

まとめ

今回の調査では、古墳時代中期を中心に多くの遺構・遺物を検出した。これらの成果と平成16年度調査において検出された多数の建物等の存在をあわせて考えると、寺田遺跡は5世紀中ごろには泉州でも有数の人口を抱える集落であったと推測される。

遺物の面でも玉類素材・製作途中品（碧玉・滑石）、鉄滓・鞆羽口（第1次調査）などから集落内における手工業の存在が窺われる。また多数の韓式系土器、馬歯（第1次調査）の出土をみたことも渡来系の人々の活動と関わるものとして特筆される。

さらに下層調査の成果として、弥生時代終末期ごろまでの堆積の進行によって流路跡が微高地化し、その上に古墳時代集落が立地することが明らかとなった。

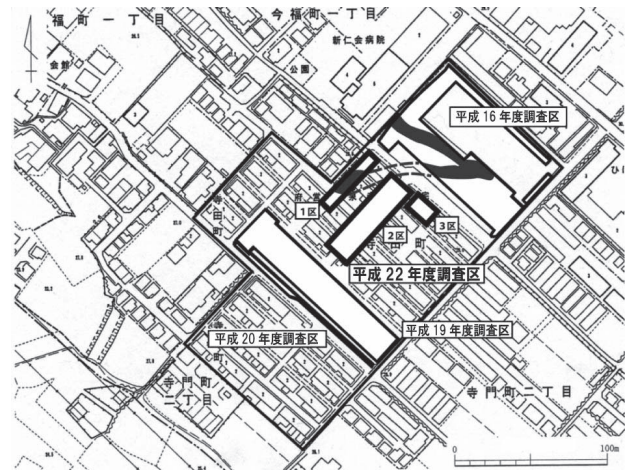


図23 調査地位置図

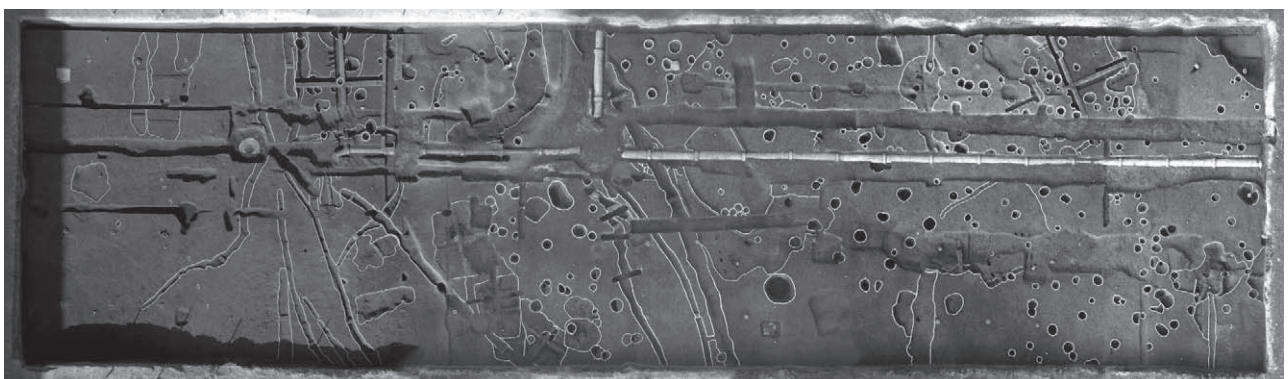


図24 第2調査区全景

たかいだ ひらおやま
高井田横穴群・平尾山古墳群 (10028)

- (1) 柏原市大字高井田 809
- (2) 府立修得学院改修工事
- (3) 林 日佐子

はじめに

大阪府立修徳学院（児童自立支援施設）の第6寮舎建て替え工事に先立つ確認調査において、横穴式石室を新規発見した。

平尾山古墳群高井田支群の東端に位置し、第1～4支群とは距離が離れているため、新たに支群を設けて高井田第5支群1号墳と命名された（図25）。

石室検出面にはセメントが付着しており、旧寮舎の基礎にしていたとみられる。石室上面の整地土を除去し、石室内埋土を1.2mの深さまで掘削して、羨道部・玄門部・玄室東部の石材輪郭を検出した。石室主軸部にトレンチを設け、奥壁と墳丘の確認をおこなった。

調査成果

横穴式石室は両袖式で、東方に開口する。石材は石室内面を平滑に加工している。石積方法は、羨道南壁の玄門側1石、羨門側上下2石、羨道北壁は上下2石、羨門側は大型石材の間隙に小型石材を詰め

ている（図27・28）。

石室規模は玄室長約5.4m、羨道長（北壁）4.0m・（南壁）3.6m、石室全長約9.4m、玄室幅2.4m、右袖幅0.4m、左袖幅0.6m、玄門部幅1.4m、羨門部幅1.3m、羨道部高2.0m（検出面～床面）を測る（図26）。

墳丘は奥壁から西へ約10.5mの地点で掘割内側の肩部、この西方に最下段のテラス、約15mの地点で墳丘斜面を検出した。東西約30m程度の方墳の可能性はある（図26）。

まとめ

南に延びる尾根の先端部に築造された大形の古墳で、横穴式石室の規模や構造を勘案すると、当時の有力者の墳墓であったと推定される。石室の特徴からみて、古墳の築造時期は7世紀前半と考えることができる。新第6寮舎は、当初計画を変更して、敷地内別地点にて建設することになった。石室は埋め戻し、現状のまま保存した。

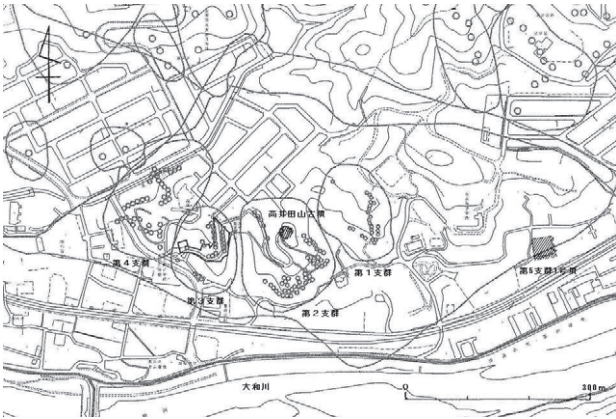


図25 高井田支群位置図



図27 玄門・羨道部（西から）

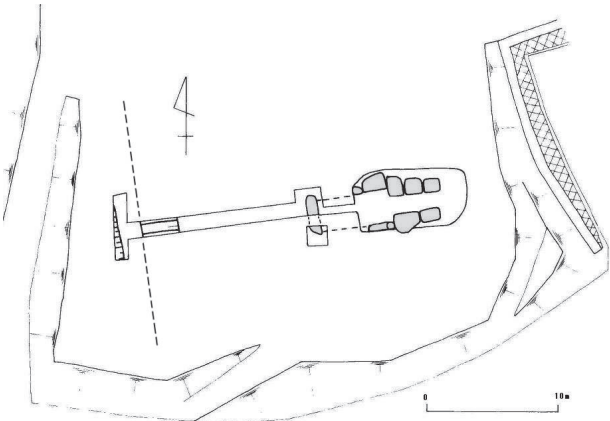


図26 横穴式石室平面図



図28 羨道部南壁（北西から）

おくだい
奥田井遺跡（10035）

- (1) 河内長野市鳩原字奥田井
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 阪田育功

調査着手前の状況

調査は、平成21年度調査区（09023）の西側に接して続く圃場整備予定地のうち約860㎡を対象として実施した。調査区は石見川沿いの緩傾斜面に開発された、東西に狭長な5面の棚田を形成している。

調査地の標高は270m程度。棚田の幅は2mから8m、長さは最長で40m程度、各水田面の段差は0.8mから2.3mに及ぶ。棚田斜面は土坡の法面であるが、一部石垣が露出している部分もあった。

調査成果

棚田水田は土坡や石垣で土留めされており、谷側に厚く旧耕土が堆積していた。水田2の下り面の石垣（図31）・水田1の下り面の石垣は現代の構築。裏込めからは現代遺物が出土した。

耕作土下には粘土の床土を暑さ5cm程度貼っている。床土下には、中世から近世の遺物を含む旧耕土が最大厚さ1m以上にわたって堆積している。

旧耕土上面には等高線平行の耕作溝（幅0.5m、深さ5cm程度）が数条検出された。地山上面では井戸（平面円形、直径1.8m、深さ1.6m）1基検出（時期不明 近世か）。

13世紀後半以降の瓦器碗・瓦質羽釜、中国製磁器、土師器小皿などが出土したほか、縄文時代の石匙が旧耕作土から出土している。



図29 調査区位置図

まとめ

奥田井遺跡周辺は、観心寺文書に残る売地券（1341年）に「鳩原郷内字奥平」とあることから、これ以前に開発されていたことは明らかである。水田の開発時期は、出土遺物からみて13世紀後半ごろと推定される。

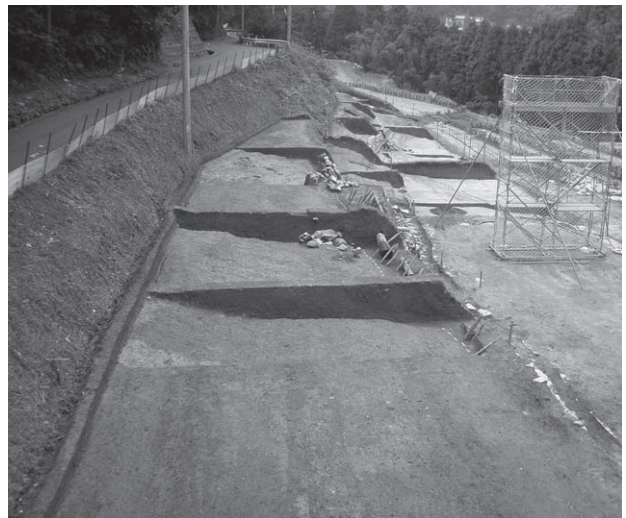


図30 水田面1(手前は現代床土上面) 右奥は水田面2・3



図31 水田面2(左)・水田面3(右)

しょうだいなかまち くずがみ
招提中町遺跡・九頭神遺跡（10036・10076）

- (1) 枚方市東牧野町
- (2) 府営牧野東住宅建替工事
- (3) 岩瀬 透

はじめに

住宅まちづくり部が実施している府営枚方牧野東住宅建替第5期工事のうち、住宅建設部分の工事については当該地が九頭神遺跡の範囲内に含まれるため、平成19年度に建物部分全域を対象に発掘調査を実施しているが、平成22年度から23年度にかけては、周辺的生活道路整備に伴う事前発掘調査を実施している。今回はその1年目で、対象地は九頭神遺跡と招提中町遺跡に含まれる地域である。調査は建替工事と平行して実施しているため、平成22年度調査分については、前半部を10036、後半部を10076として2分割して実施した。

調査対象地は大きく南西部と北東部の2地域に分かれており、南西部は九頭神遺跡、北東部は招提中町遺跡に含まれている。以下、概要を記す。

九頭神遺跡

九頭神遺跡では、平成19年度に調査された住宅建設部分と、その南側の公園予定地の間および周縁を廻る生活道路の拡幅部分を対象として調査した。

調査対象となったのが既存の生活道路の拡幅部分であるため、調査区は幅2m～4mの細長いトレンチであり、検出された遺構のうち、全体の形状が確認できたものはごくわずかであった。

旧府営枚方牧野東住宅が建設された昭和40年代までは、付近は耕作地となっていたが、住宅建設の際に整地されたため、耕土が残存していたのはごく限られた範囲にすぎず、大方は住宅建設および解体に伴う整地土の下は、周辺の調査で検出された弥生時代中期の集落のベースとなる地山の黄褐色粘土層で、解体の際にその廃材を廃棄するために、地山を

掘り込んだ土坑が各所に多数認められる状態であった。

平成19年度には、攪乱を免れた地点で弥生時代中期の墓域がわずかに認められたが、今回の調査では検出されず、墓域が平成19年度調査区内に限定されることが確認された。

墓域の南西方にあたる公園予定地の西側の区画のうちの中央部南寄り、縦穴住居1基、土坑1基、溝1条などの遺構が検出された。縦穴住居は中央部に炭や焼土の堆積した炉穴を有する。調査区が幅3mほどの縦長であったため全体を検出することはできなかったが、検出部分から推定すると径約6mのやや歪な楕円形状を呈するものである。覆土内出土の土器から、弥生時代中期末に比定できる。

招提中町遺跡

招提中町遺跡では、周縁を廻る生活道路の拡幅部分および用地内を東西方向に走る新設道路部分を対象として調査した。

調査区は、生活道路の拡幅部分が幅2m～4m、新設道路部分が幅8mのトレンチである。

こちらも調査区の大部分が住宅建設の際の整地によって削平されていたため、耕土が残存していたのはごく限られた範囲にすぎず、整地土の下は、周辺の調査で検出された弥生時代中期の集落のベースとなる地山の黄褐色粘土層であり、機械による攪乱が多数認められる状態であった。

遺構は土坑、溝、井戸などが検出されたが、出土遺物の大半は陶磁器で、包含層からの出土が多く、遺構からは時期を特定できるような遺物が出土しなかった。

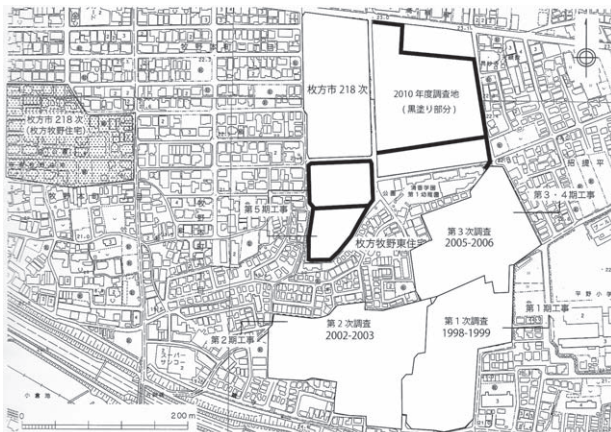


図32 調査地位置図

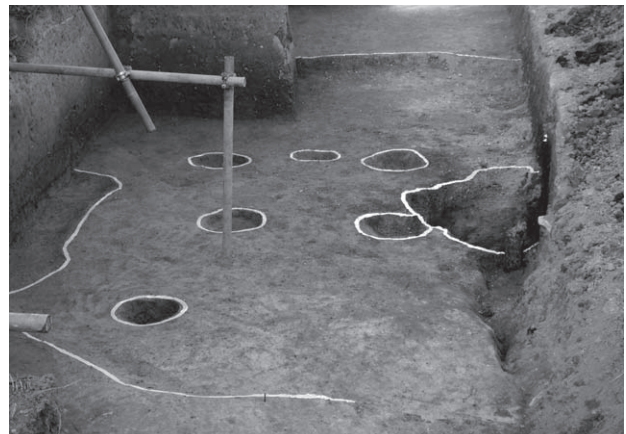


図33 九頭神遺跡検出縦穴住居

せ る た に 芹生谷遺跡（10050）

- (1) 南河内郡河南町大字芹生谷
- (2) 一般国道 309 号（河南赤阪バイパス）整備事業
- (3) 橋本高明

調査概要 芹生谷遺跡は、南河内郡河南町芹生谷と千早赤阪村川野辺にまたがって所在し、いわゆる河南台地の最南端の標高 125～140 m に位置し、国道 309 号河南赤阪バイパス整備事業に伴い実施した試掘調査の結果、新たに発見された遺跡である。

今回調査を実施した地点は、国史跡金山古墳と同じ丘陵上の最も古墳に近い場所といえる。検出した遺構は溝と土坑で、溝は等高線に平行して掘削されていて、中世（鎌倉時代）の水田耕作に関連するものと考えられる。また、壁が赤く焼けた長方形の土坑を 1 基検出した。土坑の埋土には炭や焼土が多量に含まれていたが、遺物は出土しなかった。中世の溝に切られている。

出土品、縄文時代の打製石器の石材（サヌカイト片）、古墳時代後期の須恵器、中世の土師器、瓦器などがある。古墳時代後期の須恵器は、6 世紀後半のもので、金山古墳が築造に際し、かなりの量の人力と時間が費やされ、活発な人間活動が繰り返されたためと考えられる。中世の瓦器や土師器の日常雑器は、最も出土量の多い遺物で、この時期にこの付近一帯において、池や用水路等の水利をそなえた水田開発が進み、多くの人々がこの地で生活を始めたことを物語っている。

体験発掘 今回の調査に合わせて、地元河南町教育委員会、千早赤阪村教育委員会、大阪府富田林土木事務所との共催事業で体験発掘を実施した。地元の皆様を中心に、300 人を超える参加を得た。また、南河内センタービルにおいて、体験発掘の調査成果展を開催し、出土品や発掘調査風景のパネルを展示した。



図 34 体験発掘



図 35 調査地点と金山古墳



図 36 調査地全景

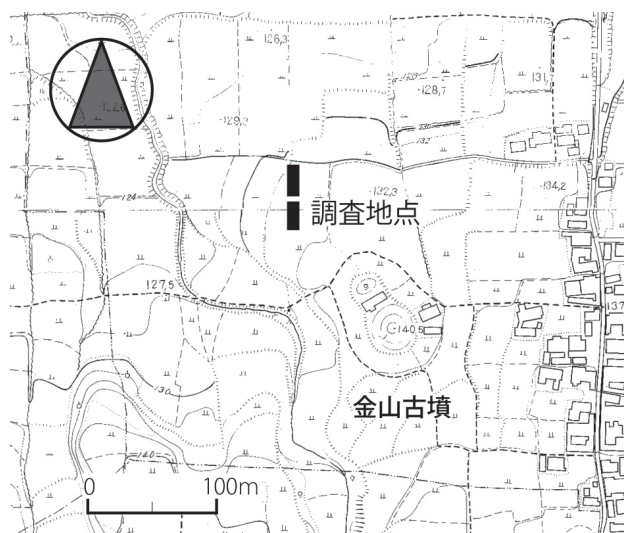


図 37 調査地位置図

たかぎ
高木遺跡（10056）

- (1) 河内長野市日野
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 島津知子（河内長野市教育委員会）・阪田育功

はじめに

当遺跡は、分布調査によりサヌカイトの散布が確認され、縄文時代の遺跡として周知されてきた。今回の調査は、ほ場整備事業に先立ち、平成15年度に実施した高向・高木地区の試掘調査の結果をふまえ、当該事業により遺構の損壊を受ける部分について、本調査を実施したものである。ふたつの調査区620㎡を対象に、平成22年11月16日から平成23年1月31日にかけて現地調査を実施した。

調査成果

重機による表土掘削を行った後、人力による包含層掘り下げ、遺構検出を行った。耕土（層厚約0.2m）、床土（層厚約0.05m）直下で褐色砂を埋土とする遺構を検出した。遺構面を形成する黄褐色細砂～シルト（層厚約0.6m）には縄文土器片の混入が認められた。なお、下層遺構を確認するために、遺構面を掘り下げたところ、こぶし大の礫を多く含む黄褐色粗砂が確認できたが、遺構は検出されなかった。

1区では土坑、ピット、溝、2区では土坑、ピット、落ち込みなどが検出されたが、遺構の深度が浅く、耕作により上部が削平されていると考えられる。

遺構に伴う遺物が少なく、時期の特定は困難であるが、1区において、焼土の混じる土坑の最上層で瓦器の破片、落ち込み状遺構から奈良時代の須恵器の壺、遺構面堆積土から磨耗した縄文土器が出土し、2区において、落ち込みから古代から中世の布目瓦、遺構精査中にサヌカイトの石鏃や縄文土器が出土したことから、調査地周辺に、縄文から中世にかけて、断続的に集落が営まれていたと考えられる。

まとめ

今回の調査では、1区の土坑から奈良時代の所産とみられる須恵器の壺が出土したことが注目される。石川を挟んだ対岸の高向神社南遺跡では、古代の木炭窯が検出されており、古代の集落がこの一帯に存在していたことが判明した。

また、2区の落ち込みより古代から中世の所産とみられる瓦が多数出土しており、周辺に寺院が造営されていた可能性が高まった。高木遺跡の周辺には、奈良時代の集落遺跡である高向遺跡が所在しており、奈良時代の集落分布を考える上で貴重な成果がえられた。



図38 調査位置図

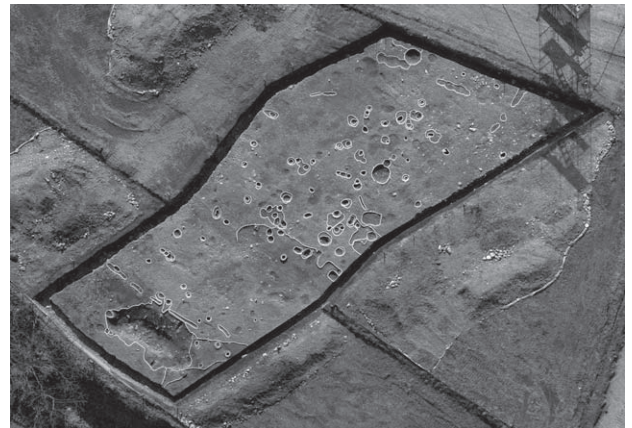


図39 1区航空写真



図40 2区航空写真

おおい
太井遺跡（10058）

- (1) 河内長野市小深
- (2) 府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」
- (3) 西川寿勝

はじめに

河内長野市南東の金剛山から流れ出す石見川沿いの水田をほ場整備する事業に先立ち、平成 18 年度に試掘調査を実施した。その結果、太井遺跡・奥田井遺跡・鳩原遺跡・川上神社遺跡などで遺構・遺物が確認された。太井遺跡は事業の最深部（標高 320m 前後）に位置し、22 年度より発掘調査を継続して実施することとなった。

太井遺跡は金剛山から流れ出る石見川が形成した溪谷の兩岸、わずかな平坦面に位置する。

大沢道（現国道 310 号線）は南側平坦面のもっとも高所に位置する。大沢道は東高野・西高野・中高野の三街道が一本になる河内長野市の七ツ辻から観心寺を通過して、千早城の眼下を大沢峠へぬけ、高野山に至る古道として知られる。

現地調査は平成 22 年 10 月～22 年 12 月に実施した。調査区は 270㎡に及ぶ。

調査成果



図 41 調査区位置図

調査の結果、顕著な遺構は確認されなかった。遺物は縄紋時代後期前葉（北白川上層式 2 期）の土器・サヌカイト剥片、須恵器、中近世の土器・陶磁器など、コンテナ 2 箱である。

縄紋時代の遺物は調査区のもっとも高い水田からまとまって発見された。水田面形成時の客土に含まれるもので、調査区上方の宅地か、道路拡幅時に削られた土砂に由来すると考える。

縄紋土器は深鉢が大半で、内外面に条痕がよく残るもの、粗く磨消すものがある。その他、平行沈線・充填縄紋を施すもの、口縁を波状にするものや袋状に折り返すものもある。小型の深鉢か浅鉢だろう。

中世の土器は大半が在地の粘土による土師皿で、南北朝期と思われる小型化した瓦器碗が少量ある。他に、瓦質火鉢・土師質土器甕・常滑焼甕がある。

中国製磁器には 14 世紀ころと思われる青磁がある。小片だが良質の胎土で浙江省龍泉窯系と考える。近世の陶磁器は肥前磁器、瀬戸・美濃磁器がある。



図 42 調査区全景



図 43 出土縄紋土器

みやぞの
宮園遺跡（10061）

- (1) 堺市中区宮園町
- (2) 府営宮園住宅建替工事
- (3) 阿部幸一

はじめに

堺市中区宮園町に所在する府営宮園住宅は、敷地面積 21 ヘクタール、中層住宅 52 棟、戸数 2480 戸、約 10000 人が居住している。この団地は昭和 41～43 年に建設されたが、阪神大震災を契機に改定された耐震基準を下回ることやエレベーターが未設置であること等のことから建替整備が計画されている。住宅建設時に発掘調査は行われておらず、周知の遺跡外であったが、西に隣接して堀上町遺跡（奈良・中世）、宮園町東遺跡（中世）、東側には深井清水町 C 遺跡（古墳～中世）、深井清水町 A 遺跡（古墳・奈良・中世）、南側には東八田遺跡（中近世）などが立地しており、建て替え計画に伴い試掘調査を実施することとなった。

試掘結果

試掘調査は 30 箇所以上を予定していたが、増



図 44 調査地周辺図

改築時の土壌改良で無爪のバックホウでは掘削できなかった所があり、23 箇所を実施した。掲載した断面は A トレンチで、盛土、住宅開発までの耕作土（約 0.2 m）の下は、厚さ 0.5 m を測るオリーブ灰色粘質土で、古墳時代の須恵器片や中世の土師器、瓦質土器が出土している。他のトレンチでも耕作土の下はオリーブ灰色粘質土や黄灰色粘質土で平安時代前期から中世後期の黒色土器や土師器、瓦器等が出土した。また、数カ所で溝や土坑を検出したことから、住宅地の全域を遺跡として支障がないと判断された。

遺跡の範囲は、市教委が宮園小学校内や周辺道路の埋管敷設時に度々試掘や立会調査を実施したが遺構、遺物とも確認されていないとのことで、府営住宅敷地内とし、宮園遺跡と名付けて、遺跡台帳に登録した。



図 45 B トレンチ溝検出状況

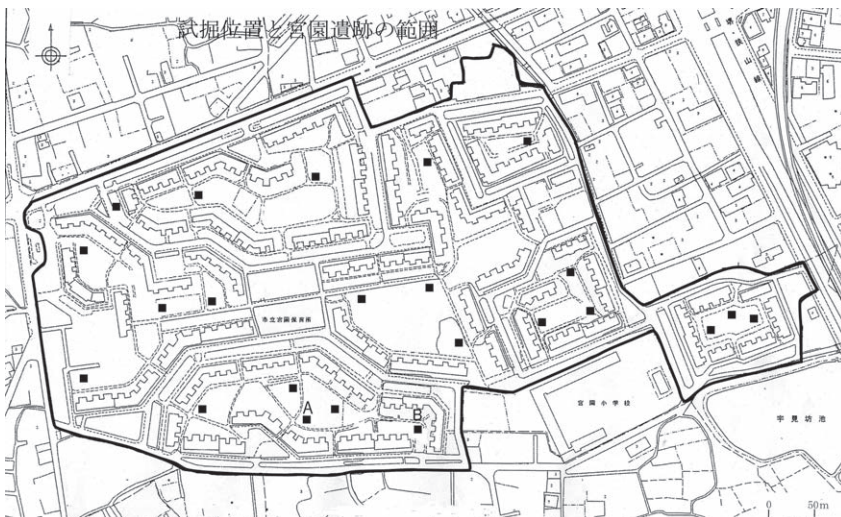


図 46 試掘の位置と新たに発見された遺跡の範囲

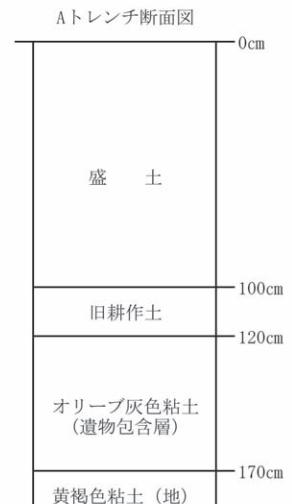


図 47 A トレンチ土層断面模式図

金龍寺旧境内跡（10087）

- (1) 高槻市成合南の町・宮が谷町・紅茸町
- (2) 近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）・主要地方道伏見柳谷高槻線建設工事
- (3) 岡本敏行・(財)大阪府文化財センター

はじめに

金龍寺旧境内跡は、今回新たに発見された遺跡である。発見の契機は、近畿自動車道名古屋神戸線建設工事（高槻～箕面間）および主要地方道伏見柳谷高槻線建設工事に伴う試掘調査によるもので、今回の調査がこれにあたる。

調査は、工事対象地内に22ヶ所のトレンチを設定し（図48）、土層の変化、遺構・遺物の有無を確認しながら機械と人力を用いて掘り下げた。

調査成果

調査対象地は、檜尾川中流の両岸に広がる高槻丘陵と谷底平野に立地する。周辺には紅茸山遺跡をはじめ弥生～古墳時代の遺跡が数多く点在し、北東側山中には延暦9年（790）創建と伝えられる金龍寺跡も存在する。調査対象地の東側には、その金龍寺への旧参道が隣接し、1丁ごとの町石が今も現存する。

調査の結果、調査対象地の南側、宮が谷地区は調査区13～15・18・19が西から東方向に舌状に延

びる尾根筋上に位置することが判明したが、名神高速道路の建設や住宅開発等によりすでに大規模な削平・改変が行われており、遺構・遺物は検出されなかった。調査区16・18の一部は深い谷筋にあたり、地山を確認することはできなかった。調査区20～22では檜尾川の形成による段丘地形と1m以上の段差がある段丘崖状の地形を検出したが、谷筋の調査区同様遺構は検出されなかった。遺物は明らかに混入である現代の盛土から奈良時代の須恵器杯片が1点出土したのみである。

また、成合地区に位置する調査区1・2・4～12・17は、檜尾川の河川敷もしくは檜尾川の旧河道そのものであることが判明し、湧水が著しく、やはり遺構・遺物は検出されなかった。ちなみにこの地域は、「ドタ」と地元で呼ばれ現在でも非常にぬかるんだ水田で、水田耕作にもかなりの支障を来しているようである。

しかし、調査区3の山裾部の高位地点で（扇状地状の堆積状況を示す）、ピット等の遺構および遺



図48 トレンチ配置図



図49 遺構・遺物が見つかった調査区3周辺遠景

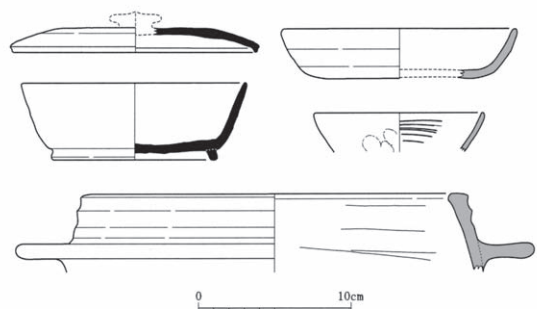


図50 調査区1・3出土遺物

物包含層を確認した。周辺の調査区も含めてかなりの遺物が出土した。遺物には、奈良時代の須恵器・土師器をはじめ中世の瓦器椀や瓦質羽釜などがあり(図 50)、別に時期不明(古代～中世?)の瓦片や調査区 2 からは漆器片なども出土している。

まとめ

調査区 3 周辺に古代～中世の遺跡が存在することが明らかになった。遺跡は、山裾に沿って北東側高位部分に広がっているものと思われる。

当該地は金龍寺跡へ向かう旧参道に接し、しかも出土遺物は金龍寺が隆盛を極めた時期と重なることから、金龍寺に関連した遺跡になる可能性が高いと考えられ、(事業者が)発見届けを提出したさいに高槻市教育委員会と協議を行った結果、町石が現存する旧参道も含めて「金龍寺旧境内跡」として「金龍寺跡」とは別に(金龍寺跡を含めて)新たに埋蔵文化財包蔵地として周知されるに至った(図 55)。

なお、金龍寺は初め安満寺と称し、盛時には 19 の坊舎があったとされ、天皇の行幸があるなどの巨刹であった。その後衰退したが康保元年(964)千観が再興し、その時に金龍寺と改称したとされる。戦国時代に兵火にあい焼失したが、豊臣秀頼により再建されている。桜の名所として『摂津名所図会』

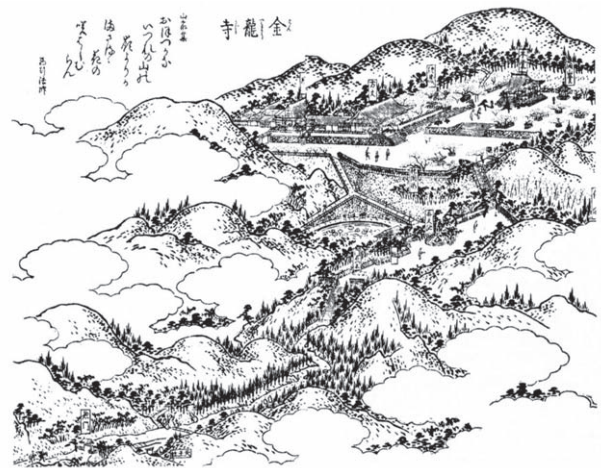


図 54 『摂津名所図会』に描かれた金龍寺

にも記されているが(図 54)、明治期には無住となり、さらに昭和 59 年(1984)の火災などもあって荒廃した。しかし、現在も石垣や礎石が残り、往時をしのばせている。

旧参道は、西国街道から成合の集落に入る手前で右折れし、谷筋に沿って登って行く。この道筋に町石が 11 基現存し、元は一丁から十三丁までであったと思われるが、現在一丁と三丁の町石がなくなっている。調査地周辺では二・四・五丁の町石を見ることができる(図 48・52・53)。



図 51 金龍寺跡



図 52 四丁町石



図 53 五丁町石



図 55 「金龍寺旧境内跡」遺跡範囲 *番号 26 が金龍寺跡

1. はじめに

柏原市立歴史資料館で開催された平成22年度夏季企画展「群集墳から火葬墓へ—河内の終末期群集墳—」（会期：平成22年7月10日～9月5日）に、誉田山14号墳・15号墳・20号墳の出土資料（土師器ミニチュア土器・板状土製品）の展示貸出を行った。貸出にあたって、これらの古墳の実測図・写真等の記録資料と出土遺物を整理したところ、新たな資料や知見が得られたので紹介することにした。

2. 概要

誉田山古墳群は、大阪府教育委員会が1971・1972年の2年次にわたり、柏原市・羽曳野市・太子町・河南町にまたがる「近飛鳥」と呼ばれてきた地域の分布調査を実施し、確認した古墳群である。古墳群は46基の円墳からなり、西名阪自動車道の南側、鉢伏山から北へのびる尾根上に東西約700m、南北800m、（柏原市旭ヶ丘～羽曳野市誉田・駒ヶ谷）、標高約50mから100mの範囲にかけて分布している。14号墳・15号墳・20号墳は、1971年から1972年にかけて発掘調査が実施された。

誉田山14号墳 標高約80mに立地し、墳丘は全壊状態であるが直径10mの円墳と推定されている。埋葬主体は、石室（石槨）の側壁の一段目（一部二段）を残すだけで構造まで知ることはできない

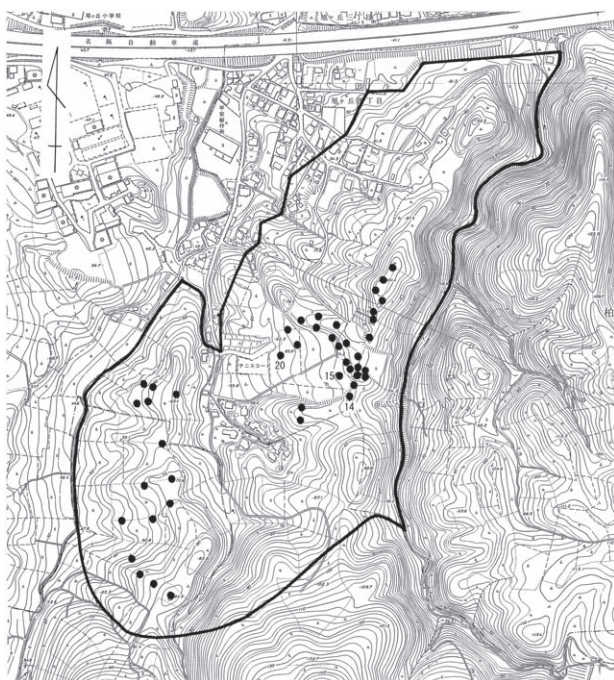


図56 誉田山古墳群位置及び分布(S=1/10,000)

が、北側壁に接して鉄釘や鏝が出土しており、長さ約2.2m、幅約0.6mの木棺が安置されたことが推定される。遺物の出土状況を見ると、両側壁側に須恵器長頸壺と須恵器高坏が位置し、木棺の正面にはミニチュア竈と甑が重なり、その左側にはミニチュア把手付き鍋と甕を重ねた状態で出土している。これらの遺物は、石室の主軸線に対し直交した一直線上に配置されており、南側壁端の石材抜き取り跡と見られる土壌内の切石も、この一連のものである可能性がある。南側壁の縦断図によると、この線上で床面が一段低くなっていることから、埋葬空間と墓前祭祀空間を意図して区画していたと考えられる。出土土器は7世紀初頭から中葉にかけてのものみられる。



図57 14号墳石室

誉田山15号墳 誉田山14号墳の北約30m、標高約80mに立地する。墳丘は半壊状態で直径8.6mの円墳と推定されている。埋葬主体は無袖式横穴石室（横口式石槨か）？である。側壁の石材の積み方をみると、仕切石を境にして様相が異なるが、比較的小さめの石を乱積みにする北側で奥壁面を垂直に積み上げて奥壁としたようである。

両側壁の縦断図によると、奥壁のある空間は側壁の下に礫が敷かれた状態であることから、床面にも礫が敷かれていたと推定される。仕切石までが埋葬空間・奥室とすると、仕切石から南を前室または羨道と見ることができる。遺物の出土状況は、入口付近で拳大の凝灰岩片が集中して出土し、仕切石付近に土器類が集中する傾向が見られることから、凝灰岩製の石棺か石槨があって、土器類は副葬品であったことが推測されてくる。しかし、出土状況の断面図をみると入口に向けて傾斜しており、埋葬空間である奥室から凝灰岩片、土器類片は全く出土していない。



図 58 15号墳石室



図 59 15号墳羨道部遺物出土状況



図 60 同上詳細

出土遺物のなかで特筆されるものに板状土製品がある。出土状況断面図によると、凝灰岩片の上に土器類（主に板状土製品）が乗った状態にあるようにもみえる。調査時の解釈としては、奥室にあった凝灰岩製構造物を破壊して前室へ廃棄し、構造物の下面、すなわち床面にあった板状土製品を前室に片付けた結果としての堆積状況と考えたのではないだろうか。

板状土製品について見ると、方形ないし長方形を呈し、一辺または三辺が裁断することで成形するもの（Ⅰ類）と、楕円（小判）形から長円形を呈し、へら状工具を使うか手捏ね未調整のもの（Ⅱ類）に

大分類できる。Ⅱ類は法量と形態から容易に細分できるが、Ⅰ類には裁断面がみられることからわかるように、焼成前に裁断されていて、図示した10・11と未掲載分33・34は二分割、未掲載分25・27は四分割の内2点、図示した8・14と未掲載分7は四分割以上の内3点などが接合関係にあるが、8のようなタイプが存在することから、4分割をさらに分割した8分割例もあるようである。

板状土製品は従来土師質埴とされてきたが、厚さは1cm前後と薄く、形状も湾曲して直線的でないものが多いので、普遍的な甕とするには異質としかいえないところがある。出土土器は7世紀中葉とみられる。

誉田山20号墳 標高約65mに立地し、墳丘は円墳で半壊状態にあつたらしく、直径12.8mと推定されている。右片袖式横穴石室の玄門部天井石を一石残すだけで、玄室奥壁も失っているが、羨道部閉塞石や排水溝などは比較的良好に残存している。

土器類は、土師器盤（9）が羨道閉塞石付近で出土しているが、ほとんどは羨道から墓道にかけての出土である。土師器小型壺（7）と鉄器類（10）～（20）が玄室出土とされている。横穴式石室の構造からみると6世紀後半に想定できるが、出土土器は7世紀前半と考えられる。

3. おわりに

誉田山14号墳・15号墳・20号墳は1971年から1972年にかけて発掘調査が実施されが、報告書刊行の機会を得ないままになっていた。

小稿では、これら3基の古墳の詳細を一覧表にして記載した。土師器ミニチュア土器・板状土製品・横口式石槨？など「近飛鳥」という地域を特長付ける資料が見られ、誉田山古墳群の特異性や終末期古墳の葬制を検討する上で好資料であるものといえよう。しかし、15号墳の石室構造が横穴式石室であるのか横口式石槨であるのか検討の余地を残すもの

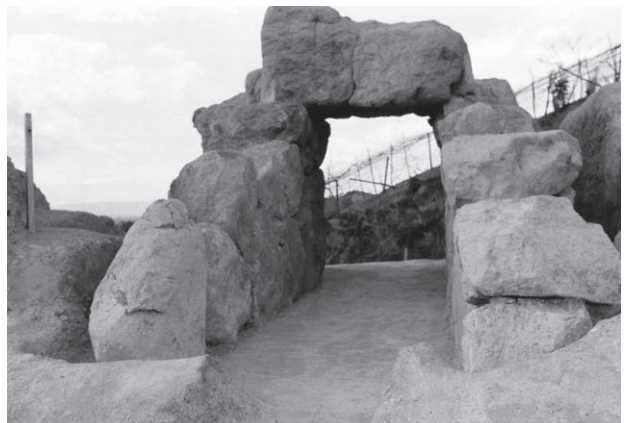


図 61 20号墳石室

であり、また、板状土製品は埴と位置付けられたりもしたが、それらがどのように用いられていたのか改めて議論されるべきものであるといえよう。

本文の執筆にあたり、水野正好氏、松田正昭氏、安村俊史氏には多くのご教示をいただいた。記して感謝いたします。（三宅正浩・亀島重則・館邦典）

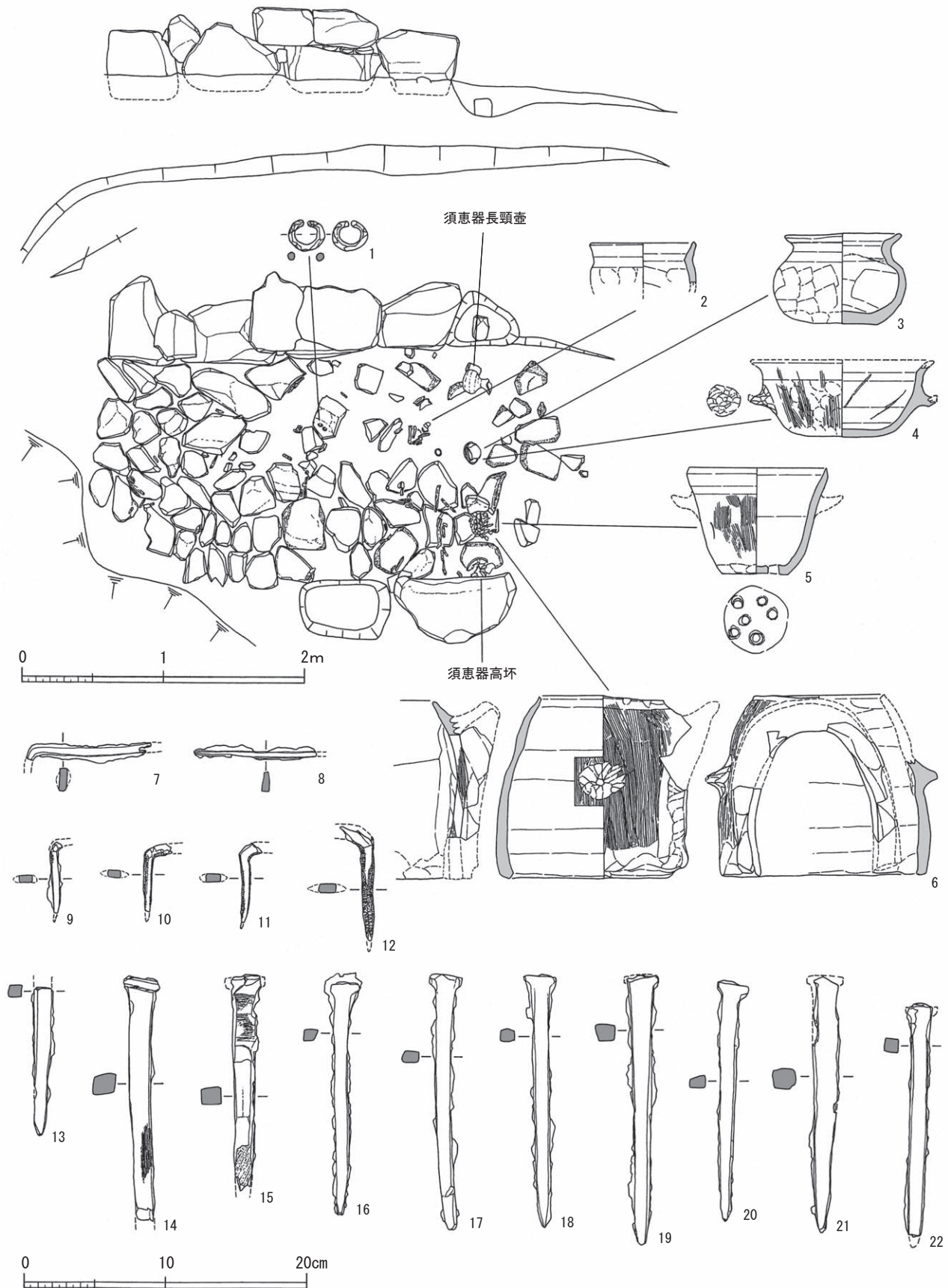


図 62 誉田山 14 号墳石室実測図及び出土遺物

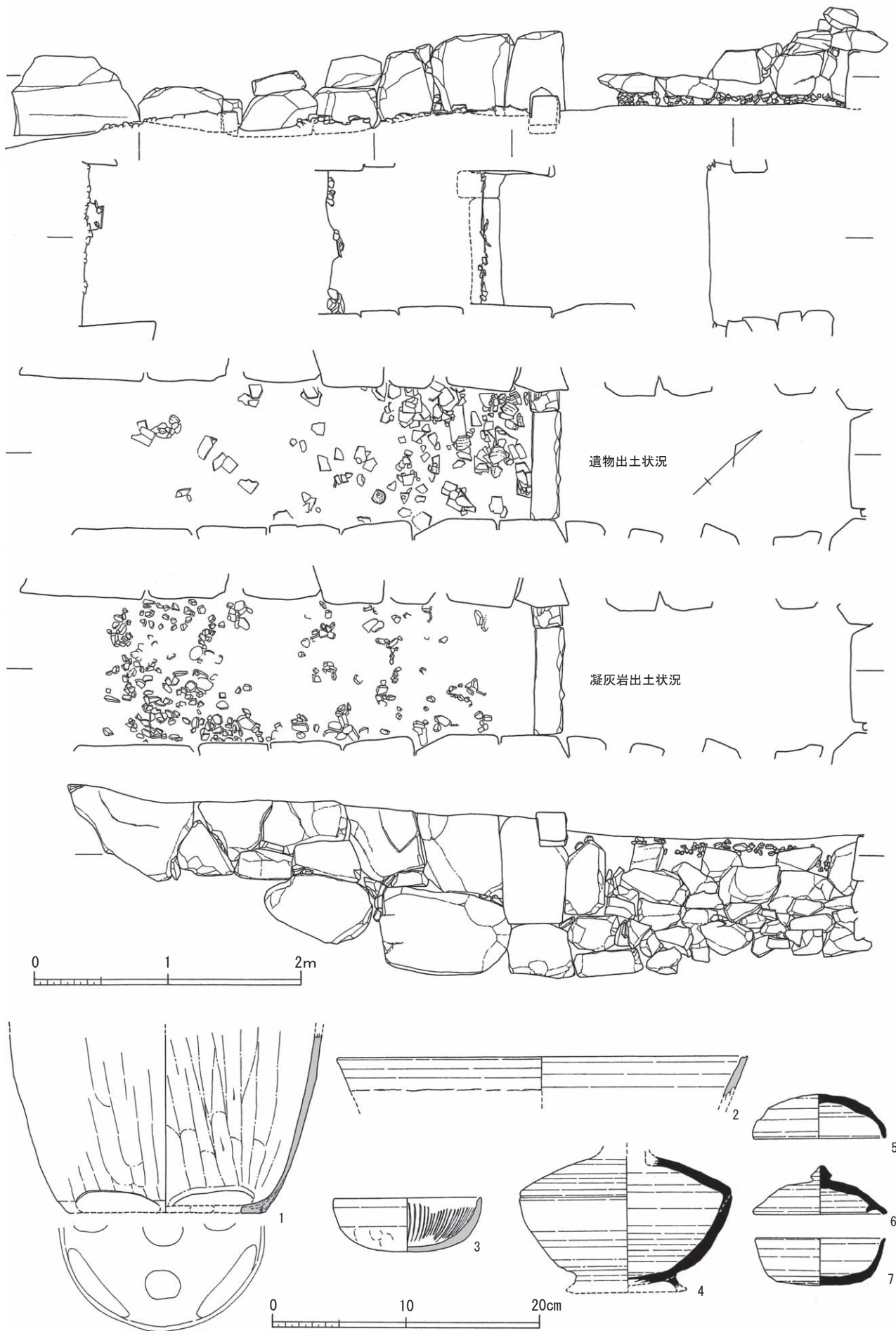


图 63 誉田山 15 号墳石室実測図及び出土遺物 (1)

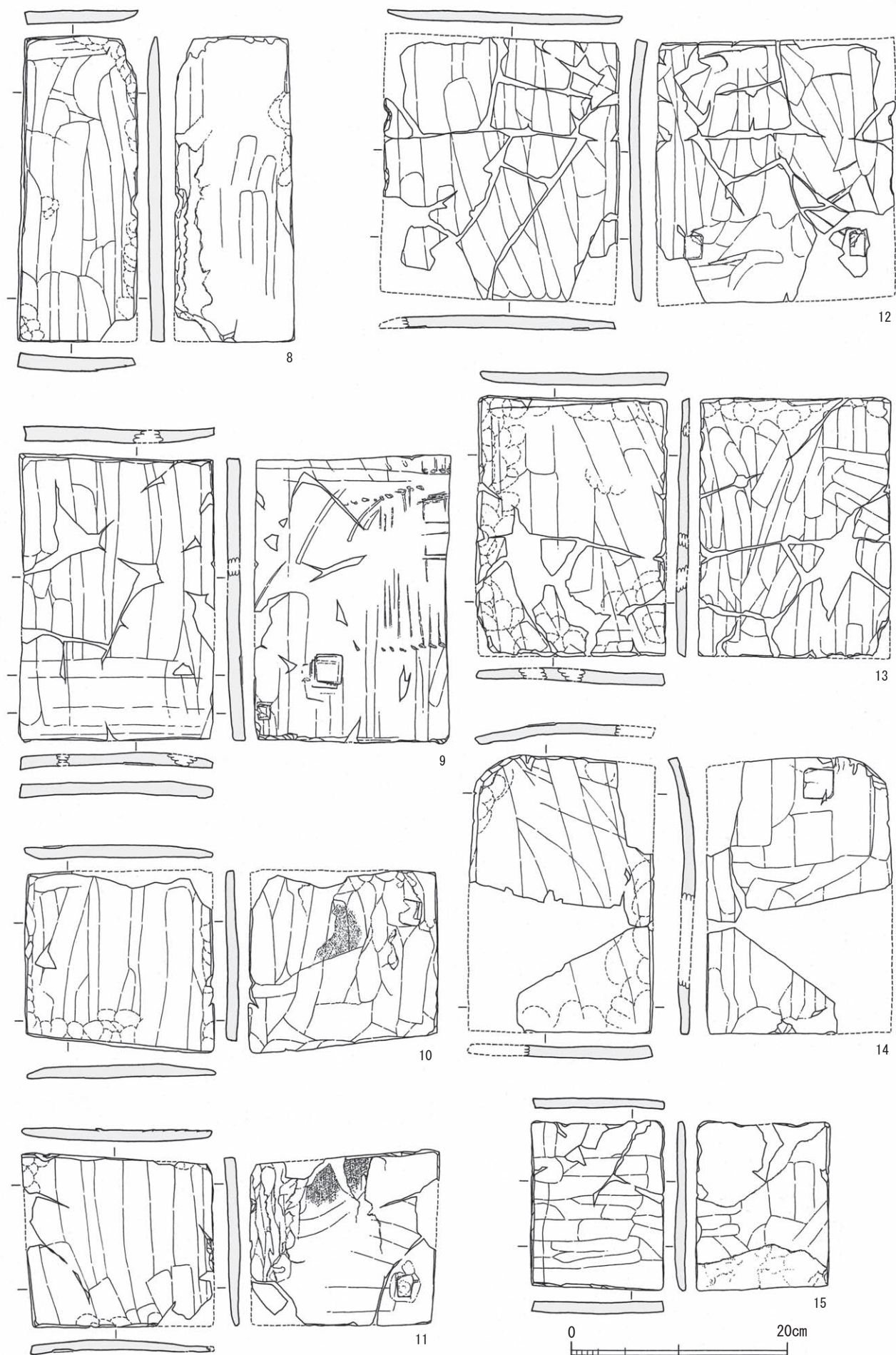


图 64 誉田山 15 号墳出土遺物 (2)

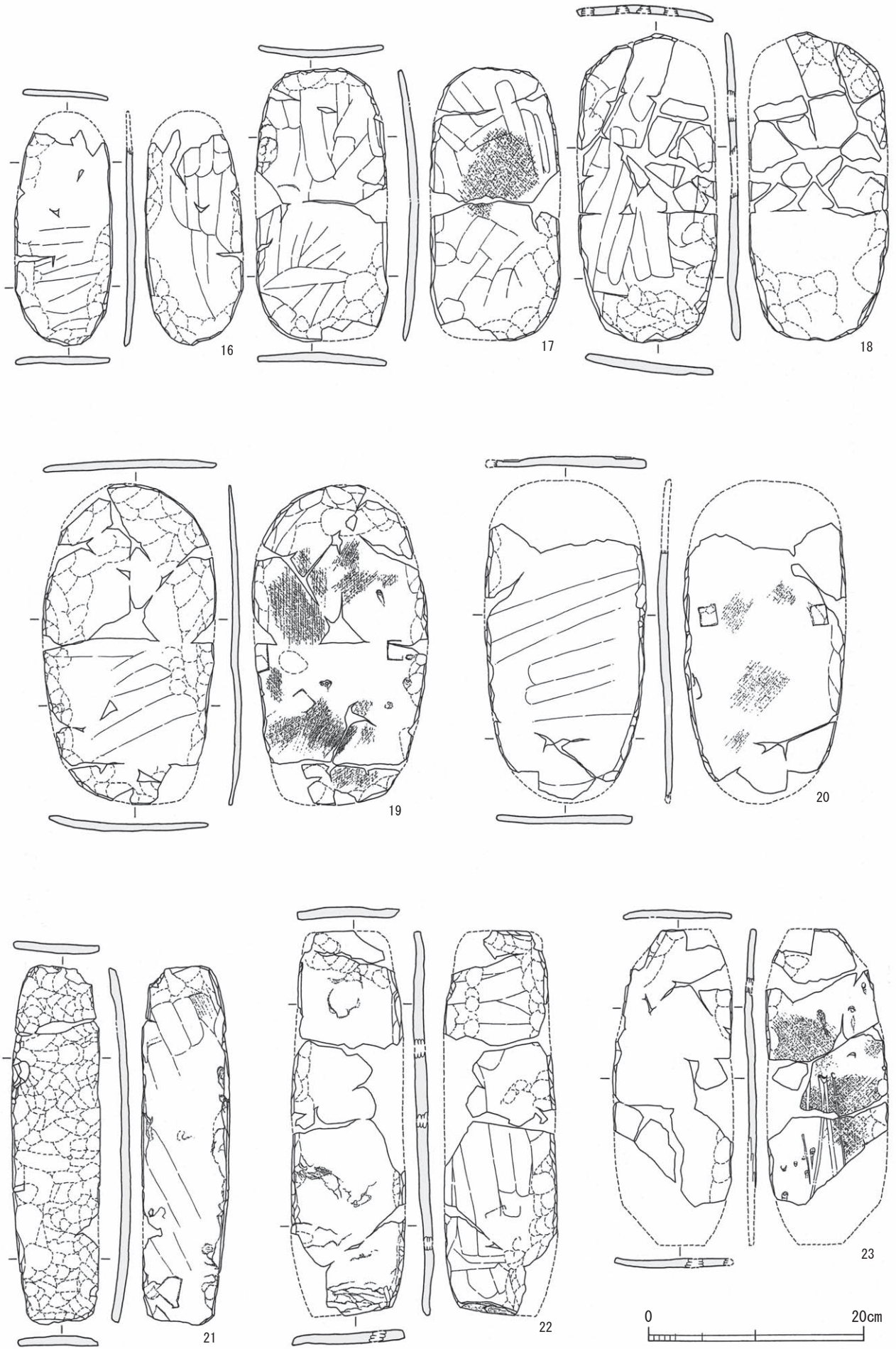


图 65 誉田山 15 号墳出土遺物 (3)

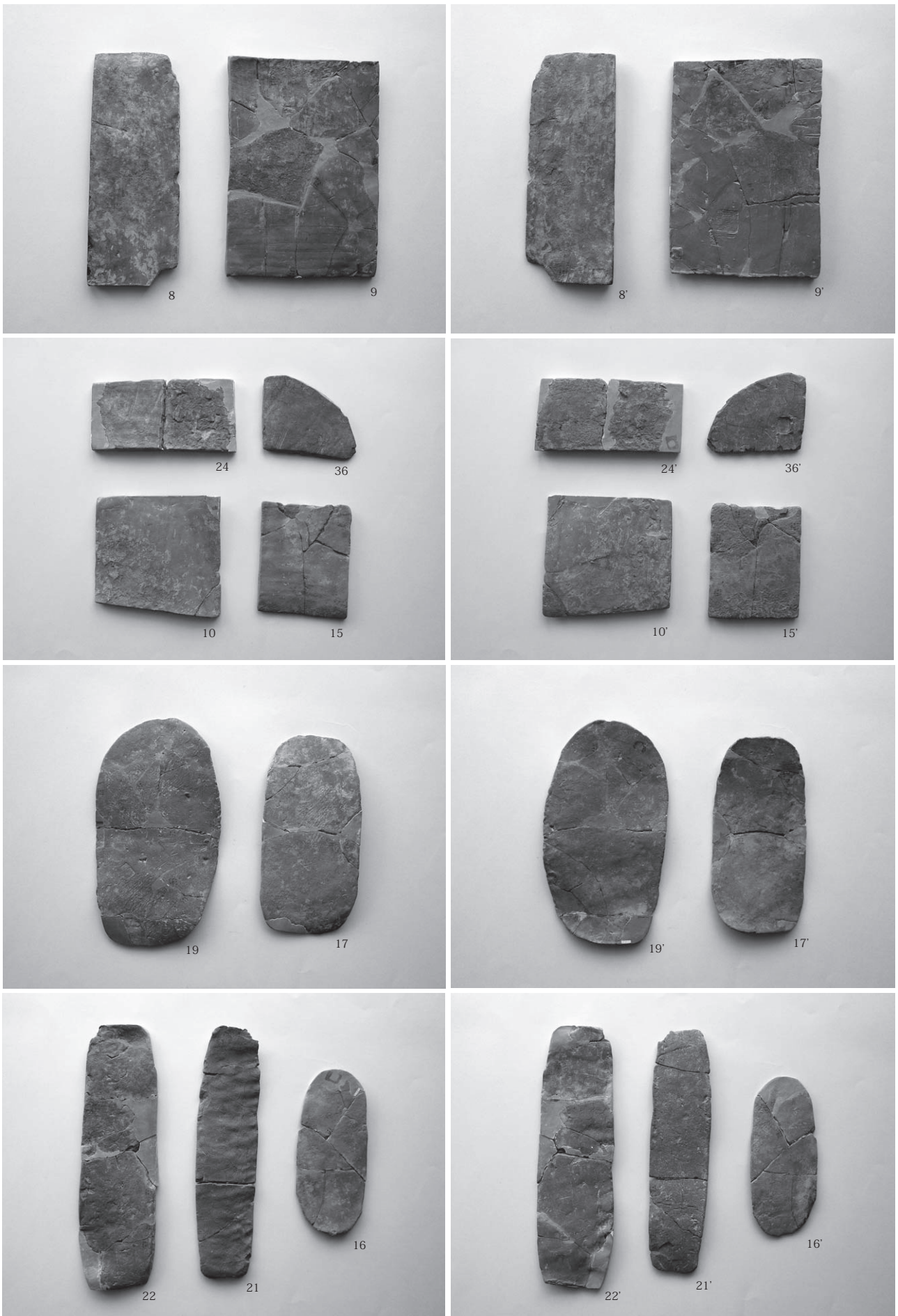


图 66 誉田山 15 号墳出土板状土製品

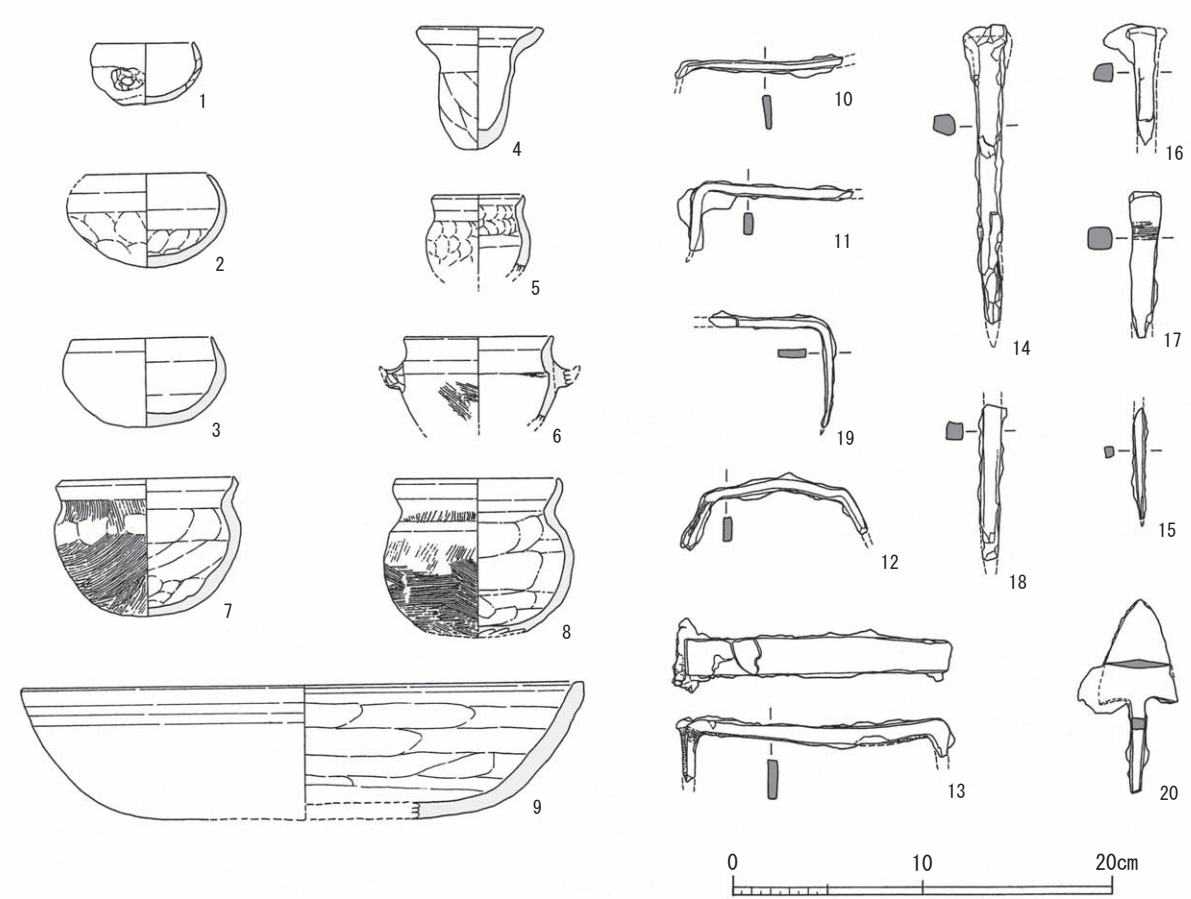


图 67 誉田山 20 号墳石室実測図及び出土遺物

表7 菅田山古墳群観察表

菅田山 14号墳																	
墳形	石室形式	主軸(開口)方向	法量(m)						側壁を残すのみだが、埋葬状況はよく残している。								
			羨道長	羨道幅	羨道高さ	玄室長	玄室幅	玄室高さ									
円墳?	-	N-60°-E	3.8	1.1	-	2.1	1.05	-									
出土遺物観察表																	
*遺物の法量単位はcm。()でとじているものは欠損値である。																	
No.	器種	長さ	幅	厚さ	取上 No.	口径	器高	胎土			色調						
1	金環							2.5 × 2.1 × φ0.5									
2	土師器 ミニチュア壺							7.4 (2.9)			長石微粒を含む。 やや密						
3	ミニチュア壺							8.2 6.5			内外面 2.5YR4/6 赤褐色						
4	ミニチュア把手付鍋							- (5.0)			内外面 2.5YR5/8 明赤褐色						
5	ミニチュア壺							9.6 2.6			外面 2.5YR5/8 明赤褐色						
6	ミニチュア壺							-			内面 10R4/6 赤色						
7	鏡	(8.6)	1.6	0.6	No.22	19	鉄釘	18.9	1.5	(0.9)	No.26-1	30	鉄釘	(14.6)	1.2	1.2	No.10
8	鏡	(8.7)	1.2	0.4	No.13	20	鏡	16.7	1.1	0.8	No.26-2	31	鏡	(7.6)	0.8	0.7	No.10-1
9	鏡	(5.0)	1.0	0.5	No.27	21	鏡	(17.9)	1.7	1.4	No.21-1	33	鏡	(5.0)	0.8	0.7	No.10-2
10	鏡	(4.8)	1.0	0.6	No.3	22	鏡	(16.1)	1.1	0.9	No.21-2	34	鏡	(8.2)	1.4	1.0	No.10-3
11	鏡	(5.6)	1.0	0.7	No.5		未掲載分			35	鏡	(5.0)	0.9	0.6	No.12-1		
12	鏡	(8.1)	1.2	0.7	No.11	23	鉄釘	(4.8)	0.6	0.6	No.1	36	鏡	(7.4)	(1.4)	(0.7)	No.12-2
13	鉄釘	(10.5)	1.0	0.8	No.1-1	24	鏡	(4.2)	1.0	0.6	No.1-2	37	鏡	(6.7)	1.1	1.0	No.12-3
14	鏡	(17.1)	1.6	1.4	No.1-2	25	鏡	(2.6)	0.9	0.9	No.1-3	38	鏡	(9.5)	1.0	0.8	No.16
15	鏡	(15.1)	1.4	1.3	No.14	26	鏡	(4.2)	0.6	0.4	No.1-4	39	鏡	(7.9)	1.2	1.2	No.19-1
16	鏡	16.1	1.0	0.8	No.17	27	鉄釘	17.2	1.4	0.9	No.6・7	40	鏡	(7.6)	1.0	0.6	No.19-2
17	鏡	17.9	1.0	0.8	No.23	28	鏡	(6.5)	1.2	1.1	No.7	41	鉄釘	(6.7)	0.9	0.9	No.20
18	鏡	17.9	1.1	1.0	No.24	29	鏡	(6.5)	1.0	0.8	No.9						
菅田山 15号墳																	
墳形	石室形式	主軸(開口)方向	法量(m)						石室の中程に仕切石があり、凝灰岩片が散乱しているため石郭が存在した可能性がある。								
円墳?	無袖式?	N-46°-E	-	-	-	3.5+α	1.6	-									
出土遺物観察表																	
*遺物の法量単位はcm。()でとじているものは欠損値である。実番号(実測番号)は新番号。																	
No.	器種	長さ	幅	厚さ	取上 No.	口径	器高	胎土			色調						
1	土師器 甕							18.9 (13.4)			精良密						
2	1と同一個体							30.5 (3.6)			石英粒を含む。 精良密						
3	土師器 壺							11.4 4.0			精良密						
4	須恵器 長頸壺							- (9.7)			1~2mmの長石・石英・チャートを含む						
5	須恵器 壺蓋							9.6 3.6			長石の微粒を含む。精良密						
6	須恵器 壺身							9.6 4.4			長石の微粒を含む。精良密						
7	須恵器 壺身							9.6 4.4			内外面 N4/0 灰色						
8	板状土製品	I-a	28.2	11.0	1.4	11		25	板状土製品	I-c	25.5	20.0	1.0	7・12・16・22・27			
9	"	I-b	26.1	13.1	1.1	17・19・2・3・6		26	"	I-e	15.4	12.3	0.9	33 実5			
10	"	I-d	16.6	17.4	1.0	スタンプ痕あり。		27	"	I-b	22.8	13.9	1.0	2・10・16・19・29・30 実32スタンプ痕、方形突起あり。			
11	"	I-d	16.1	17.6	1.0	スタンプ痕あり。		28	"	I-c	23.4	21.5	1.5	3・13 実26			
12	"	I-c	24.8	21.8	1.0	7・11・12・13スタンプ痕あり。		29	"	I-b	28.0	19.6	1.2	12・17・21 実31 方形突起あり。			
13	"	I-b	24.1	17.6	1.0	6・9・10・14・15スタンプ痕あり。		30	"	I-b	20.8	14.2	1.3	実1			
14	"	I-b	25.5	17.1	1.2	13・16・18スタンプ痕あり。		31	"	I-?	(10.5)	11.4	0.7	9 実6			
15	"	I-e	15.4	12.3	0.9	31・32		32	"	I-b	25.5	17.1	1.2	31・32 実12			
16	"	II-a	(19.9)	9.1	0.7	7・13		33	"	I-d	12.3	20.8	1.0	5・13・15 実30スタンプ痕あり。			
17	"	II-b	25.3	12.1	0.8	10・12・16・17・18		34	"	I-d	16.2	20.9	0.9	6・7・11・17・26			
18	"	II-b	28.6	12.8	0.8	10・12・16・17・18		35	"	I-d	21.9	21.6	1.0	13・20・21 実29スタンプ痕あり。			
19	"	II-c	(25.0)	15.0	0.7	10		36	"	I-?	(11.6)	(11.2)	0.9	スタンプ痕あり。			
20	"	II-c	29.4	16.4	0.7	2・6・8スタンプ痕あり。		37	"	II-b	(28.2)	12.7	0.9	16・17・20 実18スタンプ痕あり。			
21	"	II-c	33.0	8.2	0.9	2スタンプ痕あり。		38	"	II-c	(25.4)	15.2	1.0	6・9・10・18・19 実23スタンプ痕、刺突痕あり。			
22	"	II-d	36.0	9.6	1.0	2・13・33		39	"	II-d	(25.5)	11.2	0.8	12・13 実22			
23	"	II-e	23.4	10.2	0.8	3・6・8・11・12		40	"	II-d	22.7	6.8	0.9	6・10 実4			
24	"	I-b	(19.0)	10.4	1.3	30・29 実7		41	"	II-e	(17.3)	9.6	0.8	7 実11			
菅田山 20号墳																	
墳形	石室形式	主軸(開口)方向	法量(m)						玄室奥壁・天井部が失われ、羨道部天井石が1つ残っている。								
円墳	右片袖式	N-23°-W	4.0	1.3	1.6	-	2.8	-									
出土遺物観察表																	
*遺物の法量単位はcm。()でとじているものは欠損値である。																	
No.	器種	長さ	幅	厚さ	取上 No.	口径	器高	胎土			色調						
1	土師器 ミニチュア壺							5.2 3.3			内背面 2.5YR8/8 褐色						
2	ミニチュア壺							8.3 5.9			精良密						
3	ミニチュア壺							7.5 4.7			内外面 10R5/8 赤色~2.5Y7/4 浅黄色						
4	ミニチュア長胴壺							7.0 6.3			内外面 2.5YR6/8 褐色						
5	ミニチュア壺							4.8 (3.4)			内外面 10YR4/8 赤色~10R7/3 にぶい黄褐色						
6	ミニチュア把手付壺							7.8 (4.6)			内面 7.5YR4/1 褐灰色						
7	小型甕							9.8 7.3			外面 2.5YR5/8 明赤褐色						
8	小型甕							8.8 8.2			内外面 10YR4/8 赤色						
9	盤							26.9 7.0			外面 2.5YR5/8 明茶褐色						
10	鏡	(10.0)	4.2	0.6	玄室内	17	鏡	(8.0)	1.3	1.2	玄室内	23	鏡	(4.6)	1.2	0.6	玄室内
11	鏡	(8.6)	1.1	0.5	"	18	鏡	(8.4)	1.0	1.0	"	24	鏡	(8.7)	1.7	0.6	"
12	鏡	(9.8)	1.2	0.4	"	19	鏡	(11.1)	1.8	0.6	"	25	鏡	(8.7)	1.8	0.5	"
13	鏡	13.8	2.1	0.4	"	20	鏡	10.1	4.1	0.4	"	26	鏡	(9.2)	1.3	0.8	"
14	鉄釘	(15.8)	(1.3)	(1.3)	"	未掲載分			27	鉄釘	(7.4)	0.7	0.6	"			
15	鏡	(5.6)	0.6	0.4	"	21	鏡	(6.6)	1.5	0.5	"						
16	鏡	(6.3)	(1.0)	1.0	"	22	鏡	(4.2)	0.8	0.4	"						

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業

■ 研修事業

文化財調査事務所では、毎年研修事業を実施している。今年度は JICA より依頼を受けて、海外からの博物館学芸員の留学生を受け入れ、発掘調査現場での外業作業、調査事務所においては内業作業として文化財の保管、活用に至る研修を実施した。他にも調査事務所では職場体験（インターンシップ）として、高校生（府立千里青雲高校、府立西成高校、府立泉大津高校）や地元の堺市立赤坂台中学校の研修も実施した。また芹生谷遺跡の発掘現場では、富田林市立藤陽中学校から職場体験に訪れ、研修を実施した。

■ 文化財の活用事業

文化財調査事務所が保管する出土品等の考古資料を博物館等の展示施設に貸し出す以外に、独自のテーマで博物館の一角を利用して小規模な展示をしている。調査事務所や泉大津収蔵庫のあるテクスピア大阪のホールでは、地元の埋蔵文化財の紹介、文化財の PR を兼ねて小規模な展示をしている。

府立近つ飛鳥博物館では、発掘調査成果の中でも比較的ホットな情報を中心に「スポット展示」として3回、府立弥生文化博物館では、府内の主要な弥生時代の遺跡を紹介する「弥生プラザ」として2回実施した。また、近つ飛鳥博物館野の「スポット展示」にあわせて、博物館の主催する「土曜講座」の中で展示品の解説や講義を実施した。

■ 発掘調査成果の公開事業

今年度も発掘調査現場（和泉寺跡、大町遺跡、寺田遺跡、芹生谷遺跡）を広く府民の皆さまに公開し、調査成果の説明会を現地において実施したのが4件あった。和泉寺跡、芹生谷遺跡の調査では、現場の公開に合わせて和泉寺跡では小学生を対象に、芹生

谷遺跡では一般府民を対象に「体験発掘」を実施した。特に芹生谷遺跡では、地元の河南町教育委員会、千早赤阪村教育委員会と事業者である大阪府富田林土木事務所と共催したイベントとして大々的に実施した。また「体験！芹生谷遺跡の発掘調査成果展」を南河内センタービルにおいて開催し、体験発掘で出土した土器や石器、調査風景の写真パネルなどを展示した。

ミヤケ北遺跡の調査成果については、調査地周辺の環境等の問題で、現地での公開、説明会を実施することができなかった。しかし、ミヤケ北遺跡は町内初の縄文時代の集落遺跡であり、南河内地域でも大変貴重な遺跡の調査であることから、太子町教育委員会と共催で太子町立竹内街道歴史資料館においてミヤケ北遺跡の調査成果を中心に、「南河内の縄文展」を開催した。展示会の開催期間中には、「歴史講座」として「ミヤケ北遺跡の調査成果」、「南河内の縄文時代」と題した講演会を企画し、講義を調査事務所の職員がおこなった。



図 69 芹生谷遺跡での発掘体験風景



図 68 寺田遺跡現地説明会風景



図 70 「南河内の縄文展」展示風景

■ 出かける博物館事業（調査事務所の実施分）

各地のイベントに参加して府立博物館のPR活動をしたのが4件、歴史講座や講演会に講師を派遣したのが16件、遺跡、歴史的記念物、博物館等の施設を案内（歴史ウォーキング）する講師を派遣したのが10件であった。また、歴史講座、講演会や歴史ウォーキングは、公共団体、NPO団体、市民団体などさまざまな団体から依頼があり、依頼件数も増加していることから「出かける博物館事業」としてかなり定着してきた観がある。

さらに、高等学校（府立泉大津高校、府立岸和田高校）や大学（京都橘大学）の授業にも講師として職員を派遣したのが3件あった。特に、泉大津高校では「情報科学」の授業（3クラス、24時間）を担当し、泉大津高校が所蔵する考古資料のデータベースを作成し、学校のホームページに「考古資料室」として搭載した。

■ その他の事業

文化財調査事務所の活用として、事務所が所蔵する考古資料を内外の研究者による検討会が実施され

た。特に今年度は葦屋北遺跡の発掘調査報告書が刊行されたこともあって、韓国の研究者からも注目を集め、葦屋北遺跡出土遺物の検討が活発に行われた。

その他、府立博物館（弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、狭山池博物館）の開催する大型イベントには、人的応援を行なっている。また、近つ飛鳥博物館で開催された「おおさかを掘る」－最新発掘調査の成果－において葦屋北遺跡と衣ヶ谷古墳の調査成果を調査担当者が発表している。（橋本高明）

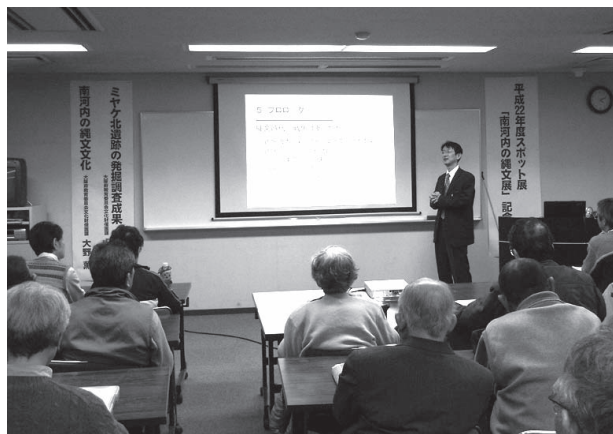


図 71 歴史講座講演会風景

表 8 平成 22 年度普及・啓発・公開事業一覧表（1）

事業	事業名	実施日	実施場所	内容	対象	備考
研修事業	JICA 研修	22.7.5～7	文化財調査事務所 和泉寺跡調査現場	博物館学芸員留学生の研修	留学生	
	インターンシップ研修	22.8.9～11	文化財調査事務所	文化財に関する高校生の職業体験 府立高校（千里青雲、泉大津、西成）	高校生	
	職場体験学習	22.11.8	芹生谷遺跡	富田林市立藤陽中学校の職場体験授業	中学生	
	職場体験学習	23.2.3～4	文化財調査事務所	堺市立赤坂台中学校の職場体験授業	中学生	
文化財活用事業	スポット展示「王権と馬飼－四條畷市葦屋北遺跡の調査成果－」	22.3.20～4.9	近つ飛鳥博物館	報告書刊行に伴い、府教委所蔵の重要遺物・未公開遺物を展示	一般	
	スポット展示「和泉市和泉寺跡調査成果速報」	22.4.9～5.9	近つ飛鳥博物館	和泉寺跡の発掘調査で出土した文字瓦等を中心とした展示	一般	
	土曜講座「和泉市和泉寺跡の調査成果」	22.4.24	近つ飛鳥博物館	土曜講座に講師を派遣。和泉寺跡の発掘調査成果速報	一般	
	スポット展示「古墳時代の木材事情－八尾市久宝寺遺跡出土の木製遺物－」	22.9.18～10.13	近つ飛鳥博物館	保存処理が完了した木製品・木材を速報的に展示	一般	
	土曜講座「古墳時代の木材事情」	22.9.25	近つ飛鳥博物館	土曜講座に講師を派遣。 久宝寺遺跡出土の木製品、木材から古墳時代の資源利用を考える	一般	
	弥生プラザ展示「銅鐸づくりのムラの土器」	22.9.4～23.5	弥生文化博物館	府教委所蔵の東奈良遺跡の方形周溝墓出土供献土器を展示	一般	
	弥生プラザ展示「おくるうつわ」	～22.8.6	弥生文化博物館	府教委所蔵の府中遺跡の方形周溝墓出土供献土器を展示	一般	
	テクスピア大阪ホール展示 須恵器－炎が生みだす造形－	～22.9.14	テクスピア大阪	泉大津収蔵庫のある当館で、文化財のPRを兼ねて小規模な展示	一般	
	テクスピア大阪ホール展示 古の蓋－百濟寺跡出土瓦－	22.9.14～			一般	
	文化財調査事務所ホール展示 陶器窯跡群展	22.9.14～23.2.4	文化財調査事務所	事務所のホールを利用して、小規模な展示	一般	
文化財調査事務所ホール展示 泉州の縄文展	23.2.4～	一般			赤阪台中学校職場体験	

表9 平成22年度普及・啓発・公開事業一覧表(2)

事業	事業名	実施日	実施場所	内容	対象	備考
発掘調査成果の公開事業	和泉寺跡発掘調査現地公開	22.7.23～24	調査現場	現場及び文字瓦等公開。小中学生対象発掘体験	一般	
	和泉寺跡発掘体験	22.7.23	調査現場	竹べらを用いて、古墳時代遺物包含層を掘る	小学校高学年	
	大町遺跡現地公開	22.10.16	調査現場	府営住宅建設に伴う発掘調査	一般	
	寺田遺跡現地公開	22.12.25	調査現場	府営住宅建設に伴う発掘調査	一般	
	芹生谷遺跡現地公開	22.11.13・14・20・21	調査現場	国道建設に伴う発掘調査	一般	地元河南町教育委員会、千早赤阪村教育委員会、事業者大阪府富田林土木事務所と共催事業
	芹生谷遺跡発掘体験	22.11.13・14・20・21	調査現場	竹べらなどで中世の遺物包含層を掘る		
	芹生谷遺跡調査成果展	23.3.15～29	南河内府民センタービル	発掘体験での出土品や遺跡の解説、調査風景のパネル展示	一般	
	南河内の縄文展	23.3.2～27	太子町立竹内街道歴史資料館	太子町ミヤケ北遺跡の資料を中心に南河内の縄文文化を広く紹介する。	一般	太子町教育委員会と共催事業
	歴史講座「ミヤケ北遺跡の発掘調査成果」	23.3.21	太子町立竹内街道歴史資料館	展示に伴う「歴史講座」に講師を派遣	一般	
	歴史講座「南河内の縄文文化」	23.3.21	太子町立竹内街道歴史資料館	展示に伴う「歴史講座」に講師を派遣	一般	
でかける博物館事業(調査事務所実施分)	建築家の視点－復元建物を見る－	22.5.22	池上曽根史跡公園	「弥生博夏季企画展」関連泉大津市事業。復元建物設計者が史跡公園を案内する	一般	
	建築家の視点－池上曽根遺跡の施設を見る－	22.5.29	池上曽根史跡公園 池上曽根弥生学習館	「弥生博夏季企画展」関連泉大津市事業。弥生文化博物館、弥生学習館、史跡公園情報館の設計者が各施設を案内する	一般	
	建築家の視点－式内社を見る－	22.6.5	池上曽根史跡公園 曽根神社ほか	「弥生博夏季企画展」関連泉大津市事業。泉大津市文化財保護審議委員が周辺の式内社を案内する	一般	
	池上曽根遺跡史跡ウォーク	22.7.4	池上曽根史跡公園	弥生博夏季企画展を活用した市民グループの企画に講師を派遣	一般	
	弥生の杜 音・楽市	22.9.12	池上曽根史跡公園	弥生文化博物館体験学習コーナー出展	一般	
	歴史講座「和泉寺跡の調査成果」	22.10.17	和泉市いずみの国歴史館	特別展「和泉国誕生－平城遷都1300年！和泉国のはじまりを探る！－」関連歴史講座に講師を派遣	一般	
	弥生の杜 音・楽市	22.10.30～31	池上曽根史跡公園	弥生文化博物館体験学習コーナー出展	一般	
	「関西文化の日」池上・曽根遺跡史跡ツアー	22.11.13、14	弥生文化博物館、史跡公園・泉大津市立弥生学習館	史跡公園のガイドツアーに講師を派遣	一般	
	池上曽根ふれあいまつり	22.5.5	池上曽根弥生学習館	弥生学習館の「弥生鳥瞰」関連事業への弥生文化博物館出展	一般	
	シンポジウム「邪馬台国」論争は決着したのか	22.11.13	泉大津市民会館大ホール	弥生博冬季特別展関連。市主催シンポ運営応援	一般	
	「歴史へんろー神仏習合と神社祭祀」	23.2.12	弥生文化博物館ほか	弥生博冬季企画展関連、泉大津市、弥生博共催ウォークイベント応援	一般	
	講演「弥生の動物利用」	23.2.19	弥生文化博物館	弥生博と大阪府環境農林水産総合研究所との共同企画「人と生き物のかかわり 今昔」に講師を派遣	一般	
	講演「食料獲得の道具」	23.3.19	環境農林水産総合研究所	弥生博と大阪府環境農林水産総合研究所との共同企画「人と生き物のかかわり、今昔」に講師を派遣	一般	
	講演「マキムク遺跡、出現と終焉が語るもの」	22.5.24	大阪歴史博物館	シンポジウム「追検証 邪馬台(やまと)国からヤマト王権へ」に講師を派遣	一般	
	講演「マキムク遺跡の大型建物－卑弥呼の宮室にせまる－」	22.6.13	堺市立泉北すえむら資料館	市民学習グループの講演に講師を派遣	一般	
	講演「半島に進出した倭国の軍団」	22.11.28	堺市立泉北すえむら資料館	市民学習グループの講演に講師を派遣	一般	
	大庭寺遺跡出土の銅印について－律令制下の帰化系氏族私印－	23.2.20	堺市立泉北すえむら資料館	歴史連続講座「須恵器・陶邑のなぞを探る」第1回に講師を派遣	一般	
	陶工の集落・陶器南遺跡について	23.3.6	堺市立泉北すえむら資料館	歴史連続講座「須恵器・陶邑のなぞを探る」第2回に講師を派遣	一般	

表 10 平成 22 年度普及・啓発・公開事業一覧表 (3)

事業	事業名	実施日	実施場所	内容	対象	備考
で か け る 博 物 館 事 業 (調 査 事 務 所 実 施 分)	須恵器の陶工はどこから来たのか	23.3.20	堺市立泉北すえむら資料館	歴史連続講座「須恵器・陶邑のなぞを探る」第 3 回に講師を派遣	一般	
	泉北歴史探訪	23.2.18	堺市立泉北すえむら資料館ほか	市民学習グループのウォークイベントに講師を派遣	一般	
	孝徳天皇と太平塚古墳 —磯長谷の王陵を考える—	22.11.6	太子町立竹内街道歴史資料館	資料館の歴史講座に講師を派遣	一般	
	泉大津高校「情報科学」授業	22.5 ~ 6、23.1	府立泉大津高校	情報コースの授業と土器作り、勾玉作りの実習等に講師を派遣	高校 2 年生	3 クラス、計 25 回授業。焼成実験
	日本古代史研究と落合文庫の『後漢書』『三国志』	22.12.3	府立岸和田高校	落合文庫活用国際人材育成コース出前授業に講師を派遣	高校 2 年生	
	堺環濠都市遺跡 SKT960 遺跡に関すること	22.6.12	堺市立少林寺小学校	案内板設置に伴う講演会に講師を派遣	一般	
	特別講義 「学芸業務の機能と実際」	22.7.8	京都橋大学	博物館機能論の講義に講師を派遣	大学生	
	講演「マキムク遺跡の大型建物— 卑弥呼の宮室にせまる—」	22.8.21	岸和田市立公民館	市民学習グループの講演に講師を派遣	一般	
	講演 「河内キリシタンと—向門徒—」	22.11.7	大東市立西部図書館	市民学習グループのミニシンポジウムに講師を派遣	一般	
	講演 「大東は文化の交差点」	23.3.26	大東市立生涯学習センター	市民学習グループの講演に講師を派遣	一般	
	特別講演会 「土偶と縄文時代のマツリ」	22.10.24	八尾市文化会館 (プリズムホール)	八尾市埋蔵文化財調査センター秋季企画展特別講演会「やおの旧石器時代と縄文時代—やおに海があったころのくらし—」に講師を派遣	一般	
	「縄文時代の人・暮らし・マツリ」	23.2.9	河内長野市ノバティホール	市の考古学講座に講師を派遣	一般	
	堺環濠都市遺跡 —都市境を防衛した濠—	23.1.7	堺市女性センター	堺女性大学「堺考古学・歴史探訪」講座に講師を派遣	一般	
	堺環濠都市遺跡 —茶人屋敷跡?—	23.2.4			一般	
	大東市立図書館講座見学会	22.5.6	河内往生院ほか現地	市民グループの現地見学に講師を派遣	一般	
	陶邑ウォーキング —オオタタネコの故郷を歩く—	22.10.26	大野寺土塔、陶邑窯跡群など	市民グループのイベントに講師を派遣	一般	
	暗越奈良街道ウォーク	22.11.6	難波宮跡から枚岡神社	(財)大阪府みどり公社主催ウォーキングイベントの歴史ガイドとして講師を派遣	一般	
	富田林ふれあいまつり	22.11.23	石川河川敷公園	弥生・近つ飛鳥両博物館出展応援	一般	
	そ の 他 の 事 業	蒨屋北遺跡出土製塩土器検討会	22.11.28	文化財調査事務所	研究者グループ「塩の会」資料調査	研究者
蒨屋北遺跡出土土器見学会		22.12.2	文化財調査事務所	韓国高麗大学教授ら資料調査	研究者	
陶邑窯跡群出土資料検討会		22.12.4	文化財調査事務所	研究グループ「窯業史研究会」資料調査	研究者	
夏季企画展「いずみの高殿発掘 15 年 弥生鳥瞰」—池上曾根に 生きた人びと—		22.5.22 ~ 7.4	弥生文化博物館	和泉・泉大津両市と弥生博共同事業、教科書に載った池上曾根遺跡と大型建物に焦点を当てた展示	一般	
安藤忠雄講演会		23.2.27	近つ飛鳥博物館	無料入館日のイベント応援	一般	
考古学セミナー 「紀元前 52 年の世界」		22.6.12	弥生文化博物館	夏季企画展関連	一般	
特別講演会		22.6.19	弥生文化博物館	夏季企画展関連	一般	
弥生フェスティバル		23.3.23 ~ 31	弥生文化博物館	無料入館日のイベント応援	一般	
「狭山池下流域の歴史」 シリーズ		通年	狭山池博物館	企画立案、遺物貸出、講師派遣等で協力	一般	
冬季特別展「歴史発掘おおさか」 —大阪府発掘調査最新情報—		23.1.22 ~ 3.13	近つ飛鳥博物館	府教委所蔵資料の出品・調査担当者による図録執筆	一般	
四条畷市部屋北遺跡 —古墳時代の馬飼いのムラー		23.2.6	近つ飛鳥博物館	冬季特別展関連。調査成果報告会「おおさかを掘る」—最新発掘調査の成果—に講師を派遣	一般	
岸和田市衣ヶ谷古墳 —泉州で最後に造られた古墳—		23.2.6	近つ飛鳥博物館	冬季特別展関連。調査成果報告会「おおさかを掘る」—最新発掘調査の成果—に講師を派遣	一般	

収蔵遺物の再点検—緊急雇用促進事業—

はじめに

ここ数年、収蔵庫の統廃合があり遺物収蔵コンテナの移動が重なった。公益法人大阪府文化財センターからの収蔵遺物返却をはじめ、大阪府立泉北考古資料館の廃止や外環状線高架下の収蔵庫が橋脚の補強のため撤去、志紀収蔵庫は土地売却のため移転を余儀なくされたことによる。東大阪収蔵庫の立ち退きも始まっていて、これまで移動させたコンテナは約 100,000 箱あり、さらに、今後毎年 10,000 箱ずつ移動させる予定となっている。

緊急雇用促進事業の活用

収蔵遺物の保管場所がたびたび変わり、貸出依頼や見学希望があっても遺物の保管場所を確定するのに手間暇がかかることになっていた。そのため緊急雇用事業を使い遺物収納コンテナのデータ化を実施することにした。22年度は約 25,000 箱の点検を行ったが、すべてを再点検データ化するには今後数年かかる。

22年度は未登録であったコンテナと泉大津収蔵庫のすべての保管遺物、および泉北収蔵庫保管遺物の一部の再点検データ化を実施した。

コンテナの箱番号はこれまでいろいろな機会にコンテナ番号を黒マジックで箱に書き込まれていくつもの番号が振られていた。今回も同じようにマジックで記入すると混同する可能性があるので、シールを貼ることとした。白地に黒で番号を記入している。ただし、一か所では確認が困難なことやシールの粘着力が無くなって落ちてしまうことも考えられるので、コンテナ表側と裏側に夫々貼るのと一枚はコンテナ内側に貼ることとした。これで落ちててもコンテナの中にとどまっているのでコンテナ番号は確認できる。合計 3 枚貼っている。

収蔵遺物コンテナ一覧表には旧コンテナ番号があればすべて記入するほか、遺跡名、遺跡略号、調査年月日、地区名、遺構名、土層名、収蔵遺物の名前、残存率（8割以上）保管場所を記入した。それ以外にも注記されていることなどはできる限り備考欄等に記入することとした。特に残存率を記入したことは展示活用や分析活用など、活用の仕方考えるのに有効であろうと考えてのことである。

今回の収蔵遺物の再点検で、これまで報告されていたが不明であった重要な遺物や、あることすら判らなかつた遺物、すぐにでも展示に提供できる遺物が判明した。逆に、一括遺物などで記録上のコンテ

ナ数が足りないものもあり、今後点検確認を行う必要のあるものも出てきた。少し息の長い作業になるが、活用のための重要な基礎作業であり、調査事務所の仕事の大きな柱の一つになると確信している。

今後の課題

今後の課題としては収蔵遺物の映像データ化が必要なことである。可視的に遺物の検索ができるようになればホームページへの掲載などで展示遺物の確認や特定が素早くできる。また、だれにでも遺物の閲覧が可能になり、活用の幅が格段に増加する。また、一刻も早い恒久的な収蔵庫の確保が望まれる。そうでなければ再整理の繰り返しを余儀なくされる可能性が高まる。金属製品の中には錆で崩壊寸前のものもあり、早急に保存処理をする必要がある。

(玉井 功)



図 72 点検後の再収納状況（泉大津収蔵庫）



図 73 コンテナの外内に貼られた番号を記入したシール

平成 22 年度研究会等及び資料

1. 研究会・検討会

1-1. 研究会

古墳出現期土器研究会

日時 2010年9月4日・5日(日)

大町遺跡・和泉寺跡出土土器の検討

会場 大阪府教育委員会文化財調査事務所

塩の会

日時 2010年11月28日(日)

部屋北遺跡(古墳時代中・後期)の製塩土器の検討

会場 大阪府教育委員会文化財調査事務所

窯業史研究会

日時 2010年12月4日(土)

陶邑窯跡群TK230-Iの検討

会場 大阪府教育委員会文化財調査事務所

1-2. 調査・研究等のスライド検討会

第1回 2010年10月13日(水)

「和泉寺跡・府中遺跡の調査結果」 土屋みづほ

第2回 2010年11月10日(水)

「安松田遺跡と瓦」 三木 弘

第3回 2010年12月8日(水)

「久宝寺遺跡の調査結果」 宮崎 泰史

第4回 2010年1月12日(水)

「高井田横穴群の調査」 林 日佐子

第5回 2011年3月9日(水)

「フランスの文化・観光戦略における‘公式ラベル’」

広瀬 雅信

2. 所蔵資料

2-1. 埋蔵文化財(整理箱数)

・北部収蔵庫(摂津市烏飼) 3,276箱

・泉北収蔵庫(高石市綾園) 38,293箱

・東大阪収蔵庫(東大阪市長田東) 53,504箱

・文化財調査事務所(堺市南区竹城台) 6,771箱

・泉大津収蔵庫(泉大津市旭町) 13,521箱

・泉佐野収蔵庫(泉佐野市日根野) 27,115箱

・近つ飛鳥博物館(河南町大字東山) 7,762箱

合計 150,242箱

2-2. 民俗文化財

・文化財調査事務所

谷口家資料 221点

上辻家資料 132点

守田コレクション 約200点

上平家資料 150点

畑野家資料 68点

三宅家資料 一括

大恩寺資料 一括

前西家資料 22件

2-3. 美術工芸品

・文化財調査事務所

田中家文書 一括(5箱/4,100点)

3. 写真・図面その他の資料

・文化財調査事務所

図面資料 4,780ケース

写真資料 7,438ケース

台帳 1,783冊

パネル 789点

4. 図書

・文化財調査事務所他

調査報告書等 45,038冊

—— 平成 22 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧 ——

大阪府埋蔵文化財調査報告

2010 - 1 『大和川今池遺跡』

2010 - 2 『国府遺跡』

2010 - 3 『高木遺跡』

2010 - 4 『鮎川・ミクリ遺跡』

2010 - 5 『府中遺跡』

2010 - 6 『中野北遺跡Ⅱ』

2010 - 7 『安松田遺跡Ⅲ』

2010 - 8 『甲田南遺跡』

2010 - 9 『芹生谷遺跡』

2010 - 10 『府中遺跡Ⅱ』

2010 - 11 『倉治遺跡』

概要報告

『奥田井遺跡発掘調査概要』

年報

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報14』

平成 22 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

申請者	遺跡	資料内容・点数	目的（展示内容等）
1 国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石庖丁 3 計 3 点	総合展示 『稲と倭人』
2 大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	青金 1 鋤 1 計 2 点	常設展示 『中世の土地開発と狭山池』
3 大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)	大坂城跡	美濃焼小鉢 1・天目茶碗 1・鉄釉丸椀 1・鉄釉皿 2・灰釉折縁皿 1・灰釉菊皿 1・灰釉皿 1・志野向付 1・皿 1・中国製白磁 1・青花皿 1・ベトナム製色絵皿 1・金箔瓦 4 計 17 点	常設展示 (リフレッシュコーナー)
4 大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禅寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器甕 1 土師器 5 (直口壺 2・小形丸底壺 1・高杯 1・台付甕 1) 土師器甕 1 須恵器 9 (杯身 1・有蓋高杯蓋 3・有蓋高杯身 3・はそう 1・壺 1) 須恵器片コンテナ 1 計 17 点 (コンテナ数を含む)	授業・展示
5 大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦 1・飾瓦 1・軒平瓦 1・文字入り平瓦 1・軒丸瓦 1・天目茶碗 1・須恵器短頸壺 1・分銅 1・白磁香炉 1・美濃水滴 1・鳥文青花大皿 1・鐔 1・筭 1 計 13 点	授業・展示
6 大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦 10・軒平瓦 8・斧瓦 3・雁振瓦 1・瓦器椀 7・土師皿 11・すり鉢 1・土師質羽釜 1・陶磁器 5・硯 1 計 48 点	授業・展示
7 大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺 2、須恵器 15 (杯 5・高杯 3・碗 1・甕 4・こね鉢 1・その他 1)、韓式系土器甕 1、土師器 13 点 (壺 3・甕 2・高杯 3・碗 1・皿 4)、瓦器 34 (碗 31・皿 1・火鉢 1・釜 1)、磁器碗 1、砥石 1、木製品 5 (下駄 2、箸 2、人形首 1)、土錘 1、キセル 1、加工骨 1 計 75 点	授業・展示
8 大阪府立四条畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪 3、須恵器 3 (短頸壺 1・甕 1・提瓶 1) 弥生土器 32 (壺 7・長頸壺 1・無頸壺 1・無頸壺蓋 1・鉢 3・鉢蓋 1・甕 7・台付鉢 2・台付甕 1・器台 3・高杯 3・手焙り形土器 2)、黒色土器椀 1、土師器壺 2、須恵器 7 (平瓶 1・無蓋高杯 1・蓋杯蓋 1・蓋杯杯身 2・はそう 1・壺 1)、砥石 4、石鏃 5 計 57 点	授業・展示
9 大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器壺 1・長頸壺 1・無頸壺 1・壺蓋 1、土師器壺 1、須恵器有蓋高杯 1・高杯蓋 1・杯身 1・杯蓋 1・はそう 1、円筒埴輪 1・蓋形埴輪 6、勾玉 4・紡錘車 2、臼玉 8 計 31 点	授業・展示
10 大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器 9 (壺 2・甕 2・鉢 2・蓋 3)、磨製石斧 5 計 14 点	授業・展示
11 能勢町歴史資料室	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器甕 1 須恵器 4 (杯身 1・杯蓋 2・円面硯 1)、土師器高杯 1 黒色土器椀 2、土師器小皿 3 弥生土器 8 (土器片 1・甕 3・無頸壺 1・鉢 1・蓋 1・高杯 1)、土師器 7 (壺 1・甕 3・器台 1・杯 2)、須恵器 5 点 (杯 2・甕 3)、石庖丁 4・石斧 3・石錘 1・石鏃 7 計 46 点	能勢町歴史資料室 (能勢町ふるさと会館内) 常設展示

12	豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器椀 7・瓦器片 20、土師皿 4、須恵器片 3、砥石 1 計 35 点	豊能町立郷土資料館 常設展示
13	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦 1、平瓦 1、緑釉陶器片 2、緑釉瓦片 6、窯道具 6 計 16 点	常設展示 『桓武朝平安宮瓦窯』
14	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅 1 計 1 点	図書館展示室常設展示
15	堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器 33 (椀 27・皿 6)、土師器皿 1、瓦質羽釜 1、鑄型片 29、鞆羽口 18、鉄製刀子 1、青銅製品 2、鉄塊系遺物 7、砥石 7 計 99 点	常設展示 『河内鑄物師』
16	太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具 (レプリカ) 一式 計 1 式	常設展示 (第2展示室)
17	池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米 (No.286) 1ケース 計 1 ケース	常設展示
18	和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曽根遺跡	弥生土器 12 (高杯 1・壺 7・甕 2・蛸壺形土器 2) 軒丸瓦 6・軒平瓦 5 有舌尖頭器 2、子持勾玉 2 点、滑石製勾玉 1 点・紡錘車 1 点 文字瓦 6 点、軒丸瓦 8、軒平瓦 1、石製巡方 1 平瓦 (人物画像) 1・文字瓦 4、軒丸瓦 1、軒平瓦 1 平瓦 2・軒平瓦 1・軒丸瓦 3 弥生土器 15 (甕 1・水差形土器 1・高杯 3・鉢 3・壺 7)、木製品 24 点 (男茎 <レプリカ> 1・広楯 <レプリカ> 1・高杯 1・把手付鉢 1・鉢 1・斧の柄 1・布巻具 1・用途不明品 1・小型四脚付盤 2・臼 1・臼 <レプリカ> 1・杓子 2・杓子 <レプリカ> 1・楯 3・楯 <レプリカ> 1・簪 5)、石製品 23 点 (錘 2・大型石庖丁 2・環状石斧 2・石斧 9・石槍 5・投弾 3)、ヒスイ勾玉 1・管玉 5・ガラス玉片 3、イノシシの下顎骨 1・鹿角 1・骨製ヤス 2・骨器未製品 5・銅鏃 2・八稜鏡 1 計 141 点	常設展示
19	宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器 109 計 109 点	常設展示コーナー 『考古学研究所』
20	吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦 1、軒平瓦 1、緑釉瓦片 2、トチン 2 計 6 点	社務所玄関ロビーに展示
21	交野市教育委員会	大谷窯跡	須恵器 24 須恵器片 21 (遺物袋) 計 45 点 (遺物袋を含む)	常設展示
22	大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器 18 点 (椀 13・皿 5)、青磁 4・土釜瓦 6・土師器 11 (皿 10・壺 1)、須恵器 11・瓦質皿 2・瓦質釜 2・常滑甕 3・軒丸瓦 3・軒平瓦 2、瓦器椀片・土師器片 7 袋 (遺物袋) 計 69 点 (遺物袋を含む)	常設展示
23	箕面市立郷土資料館	箕面経塚	和鏡 3・壺 1、銅銭 4、青白磁合子 2、青白磁子壺 1、褐釉壺 1 計 11 点	常設展示
24	奈良国立博物館	新堂廃寺 河内寺 百濟寺 高宮廃寺	軒丸瓦 7、鴟尾片 2、榿先瓦 1 軒丸瓦 2、軒先瓦 2 軒丸瓦 1 軒丸瓦 1 計 16 点	常設展示 (西新館考古展示室)
25	高槻市立今城塚古代歴史館	太田茶臼山古墳	円筒埴輪 3 計 3 点	常設展示 「倭の五王と三島」

実物資料・複製資料短期貸出

貸出先(申請者)	遺跡	資料名/点数	展覧会/掲載図書名称
1 柏原市立歴史資料館	菅田山 14号墳 菅田山 15号墳 菅田山 20号墳	土師器ミニチュア土器 4・埴 6・土師器ミニチュア土器 5 計 15点	夏季企画展 「群集墳から火葬墓へー河内の終末期群集 墳ー」
2 堺市博物館	陶器遺跡	瓦器椀 9 東播磨系こね鉢 1 土師質へそ皿 1 瓦質羽釜 7 土師質皿 2 凝灰岩製砥石 1 計 21点	企画展「ムラを守るー考古学から見た激動の南北朝」
3 大阪府立弥生文化博物館	池上曾根遺跡	弥生土器広口壺 5・細口壺 1・水差 1・高杯 1・段状口縁壺 2・無頸壺 1・広口短頸壺 3・壺 2・把手付鉢 2・甕 1・大型石庖丁 2・碧玉製管玉 1・管玉 3・棒状製品(管玉?) 1・ガラス玉 1・ローラー形磨き石 1・環状石斧 2・環状石斧未成品 1・扁平片刃石斧 1・薄型両刃石斧 1・投弾 1・ヒスイ勾玉 1・軽石製ウキ 1・木製把手付鉢(府指定) 1・木製斧の柄 1・木製鋤 2・木製杓子(レプリカ) 1 計 40点	春季企画展「いずみの高殿 発掘 15年ー池上曾根に生きた人々ー」
4 財交野市文化財事業団	大谷北窯	須恵質陶棺 2 須恵器蓋 1 計 3点	企画展示 「交野が原の須恵器」展
5 大阪府立近つ飛鳥博物館	寺田遺跡 総持寺遺跡 29号墳 総持寺遺跡 31号墳	鉄斧 1 軽石 1 鉄滓 15 鞆羽口 1 家形埴輪 1 鶏形埴輪 1 計 20点	夏季企画展「古墳てなあに?ー『こふん』なにになぜ教室ー」
6 国立歴史民俗博物館・ 国立民族学博物館	陶色窯跡群TK 13 陶色窯跡群TG 207 陶色窯跡群KM 12 薮屋北遺跡	須恵器 12(高杯 4・杯身 1・杯蓋 2・はそう 2・提瓶 1・器台 2) 須恵器 4(杯蓋 2・高杯 1・はそう 1) 高杯 1 木製鞍 1・轡 1・木製輪鍔 1・U字形板状土製品 1・移動式竈 1・羽釜 1・鳥足文タタキ須恵器甕 1・須恵器 3(はそう 1・杯 1・高杯 1)・韓式土器 1・土師器甕 1・製塩土器(須恵質) 6・製塩土器(土師質) 3 計 38点	連携展示 「アジアの境界を越えて」
7 生駒市教育委員会	陶色窯跡群	須恵器 49点 計 49点	特別展 「はつくつこま 2010」
8 大阪府立狭山池博物館	高木遺跡 堀遺跡 河合遺跡	土師器杯 2・須恵器 7(杯 2・壺 2・硯 3)・軒平瓦 1・海獣葡萄鏡 1 羽釜 3・瓦器椀 1・土師器 9(杯 8・皿 1)・黒色土器 A2・白磁 1・須恵器 6(壺 3・杯)・埴輪 B1・高杯 1・風字硯 1・神功開寶 1平瓦 2・軒丸瓦 1・軒平瓦 1 土師器(杯 4・皿 1・甕 1・把手付甕 1・ミニチュア甕 2)・須恵器甕 1・木製人形 5・木製横櫛 1・木製下駄 2・木製皿 2・木製槽 1・木製長方形曲物蓋 1・木製円形曲物蓋 7・木製円形曲物底 1・木製柄 1・木製建築部材(敷居) 1・木製板材 1・木製組立部材 1 計 76点	秋季企画展「古代西除川沿いの集落景観」
9 大阪府立弥生文化博物館	東奈良遺跡	弥生土器 3(壺 2・器台 1) 計 3点	弥生プラザ「銅鐸づくりのムラの土器ー茨木市東奈良遺跡の方形周溝墓供献土器ー」
10 四條畷市教育委員会	薮屋北遺跡	馬埋葬土坑(SK940)レプリカ 計 1点	レプリカ製作(なわて水みらいセンター管理棟事務所展示スペースに展示)
11 大阪府立近つ飛鳥博物館	中野北遺跡 (中野北 1号墳)	須恵器長頸壺 1 計 1点	「富田林市民ふれあいまつり&農業祭&商工祭」での展示

12	大阪府立近つ飛鳥博物館	銭塚古墳 唐櫃山古墳 衣ヶ谷古墳 部屋北遺跡	円筒埴輪 2・蓋形埴輪 1 円筒埴輪 3・蓋形埴輪 1 須恵器 5 (杯蓋 5・杯身 1・杯 3・高杯 4・長頸壺 1) 土師器 蓋 2 (蓋 1・杯 1) 馬下顎骨 1・陶質土器 (鳥足文) 1・須 恵器 6 (杯蓋 1・高杯蓋 1・杯身 1・高杯 1)・韓式系土器平 底鉢 4・韓式系土器高杯 2・鉄製鑿 1・鉄斧 1・小型刀子 1・ 刀子 1・鹿角製刀装具 1	計 33 点	冬季特別展「歴史発掘おお さかー大阪府発掘調査最新 情報ー」
13	奈良大学	シシヨツカ古墳	ガラス玉 148	計 148 点	元素分析によるガラスの材 質・製作技法の研究
14	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	東郷遺跡	特殊器台 1	計 1 点	特別陳列「埴輪のはじまりー 大和の特殊器台とその背景」
15	兵庫県立考古博物館	四ツ池遺跡 池上曾根遺跡	高杯 (レプリカ) 1 二脚盤 1 点・把手付椀 1	計 3 点	特別展「木のうつわ、六千 年の技」
16	高槻市立しろあと歴史館	大坂城跡 高槻城跡	金箔押軒丸・軒平瓦 14 金箔押軒平瓦 1	計 15 点	春季特別展「城下町高槻の はじまりー信長・秀吉・家康 の戦略」
17	徳島県立博物館	茨田安田遺跡	木偶頭 (レプリカ) 1	計 1 点	企画展「人形・ひとがたー 祈りから遊びまでー」
18	高槻市立 今城塚古代歴史館	総持寺遺跡 部屋北遺跡	円筒埴輪 3・須恵器 5 (杯蓋 1 杯 1 把手付鉢 1 有蓋高杯蓋 1・ 有蓋高杯 1) 製塩土器 4・陶質土器甕 1・韓式系土器 3 (甑 1・平鉢 1・把 手付鍋 1)・土師器長胴甕 1・鞍 (レプリカ) 1・U 字形板状 土製品 1・鎌 1・刀子 1・鍛冶関連遺物 1	計 22 点	開館記念特別展 「三島と古 代淀川水運 I ー 初期ヤマト王権から継体大王 の登場までー」

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

依頼者	撮影掲載貸出	種類	遺跡	資料内容/点数	目的/掲載誌
1 ミネルヴァ書房	掲載	写真カラー	陶器遺跡群	須恵器 (6世紀後半) 集合 1 計 1 点	松田慶「古墳時代の道具」(松 藤和人・門田誠一編『よくわか る考古学』)
2 柏原市立歴史資料館	撮影 掲載	写真カラー	誉田山 14 墳 誉田山 15 号墳 誉田山 20 号墳	土師器ミニチュア土器 4・埴 6・土師器ミニ チュア土器 5 計 15 点	平成 22 年度夏季企画展「群集 墳から火葬墓へー河内の終末 期群集墳ー」展示図録
3 堺市博物館	貸出 掲載	写真カラー 写真モノクロ パネル	陶器遺跡	調査区全景航空写真 2・遺構写真 2 計 4 点	平成 22 年度企画展「ムラを守 るー考古学から見た激動の南北 朝ー」広報資料
4 大阪府立弥生文化博物館	貸出	文書 写真	池上曾根遺跡	和泉市教委・市史編纂委員会要望書 1・和 泉市議会保存要望決議 1・「池上弥生式遺跡 を守る会」趣意書 1・範囲確認調査結果、建 設省、和泉市、府土木部、文化財保護委員 会保存依頼 1・第 1 回関西考古学関係者懇 談会議事録 1・第 2 回関西考古学関係者懇 談会議事録 1・日本考古学協会決議 (要望 書?) 1 池上・四ツ池月報 1~17 揃 1・鳥 形木製品発見ニュース (読売 S 44.8.14) 1・ 池上遺跡の史跡指定について 1・池上遺跡 方形周溝墓 S1164 写真 1 計 11 点	平成 22 年度春季企画展「いず みの高殿発掘 15 年 弥生鳥瞰 ー池上曾根遺跡に生きた人びと ー」広報資料

5	東京法令出版株式会社	掲載	写真カラー	陶器窯跡群TG 61 全景 1 号窯（移築復原）		計 1 点	「定番素材をクッキング！中学校社会科授業展開事例集 歴史」
6	株式会社吉川弘文館	掲載	写真カラー	津堂城山古墳	長持形石棺	計 1 点	岸本直文『史跡で読む日本の歴史2 古墳時代』
8	株式会社小学館	貸出 掲載	写真モノクロ	陶器窯跡群	須恵器集合（重文）	計 1 点	高橋照彦「国のなりたち」第1巻旧石器時代～飛鳥時代 平川南編『Jr. 日本の歴史』
9	国立歴史民俗博物館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡 陶器窯跡（TG207・KM12 号窯）	土師器竈 1・馬具 1 須恵器集合 1	計 3 点	『歴博』161号
10	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	津堂城山古墳	長持形石棺 1	計 1 点	『藤井寺市広報』7月号
11	交野市文化財事業団	貸出 掲載	写真カラー	大谷北窯跡	遺構 7・須恵質陶棺 1・須恵器 2	計 10 点	企画展示「交野が原の須恵器」 広報資料
12	塙書房	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	全景 2・住居跡 2・遺物出土状態 1・銭塚古墳第8トレンチ 2・埴輪集合 1・北玉古墳 5	計 13 点	藤田道子「蔀屋北遺跡出土の製塩土器の一考察」（栄原永遠男編『日本古代の王権と社会』）
13	個人	掲載	写真カラー	百済寺跡	軒平瓦 1・軒丸瓦 1	計 2 点	「河内百済寺の造瓦組織と王権」（『ヒストリア』大阪歴史学会）
14	藤井寺市郷土研究会	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳 津堂城山古墳	修羅 1 長持形石棺 1	計 2 点	「百舌鳥・古市古墳群」写真パネル展
15	藤井寺市教育委員会	掲載	写真カラー	墓山遺跡 青山 4 号墳	人物埴輪 1 猪形埴輪 1	計 2 点	インターネットのホームページでの旧石器時代遺跡紹介
16	河出書房新社	掲載	写真カラー	池上曾根遺跡	鳥形木製品 5	計 5 点	武末純一他『列島の考古学－弥生時代』
17	和泉書院	掲載	図面	新庄遺跡	遺構平面図 4	計 4 点	石尾和仁『中世集落景観と生活文化－阿波からのまなざし－』
18	大阪府立狭山池博物館	貸出 掲載	写真カラー	掘遺跡 高木遺跡 河合遺跡	調査区全景・遺構など 7 調査区全景・遺構など 15 曲物 1・墨書土器 1・木製品 1・遺構 4	計 29 点	秋季企画展「古代西除川沿いの集落景観」展示図録
	大阪府立狭山池博物館	貸出 掲載	写真カラー	大和川今池遺跡	遺構 1	計 1 点	秋季企画展「古代西除川沿いの集落景観」展示図録
19	大阪府立弥生文化博物館	撮影 掲載	写真カラー	崇禅寺遺跡	素環頭大刀 1 計 1 点		常設展示資料の画像作成
20	大阪府立近つ飛鳥博物館	掲載	写真カラー	堂山古墳群	古墳全景 1・鉄製品出土状況 1・甲冑 1・玉類集合 1・須恵器集合 1	計 5 点	秋季特別展『鉄とヤマト王権－邪馬台国から百舌鳥・古市古墳群の時代へ－』
21	株式会社人事通信社	貸出 掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅 1	計 1 点	藤井寺市民まつり「しゅらまつり」の広告
23	株式会社小学館	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況 1	計 1 点	特別展『馬は船に乗って－蔀屋北遺跡の馬飼集合団遺跡から－』
23-2	株式会社小学館	掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	馬埋葬土坑 1	計 1 点	特別展『馬は船に乗って－蔀屋北遺跡の馬飼集合団遺跡から－』

24	大阪府立弥生文化博物館	貸出 掲載	写真カラー	東奈良遺跡	調査区全景 1・調査状況 2・供献土器出土状況 1	計 4 点	弥生プラザ「銅鐸づくりのムラの土器－茨木市東奈良遺跡の方形周溝墓供献土器－」広報資料
25	池田市立歴史民俗資料館	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡 南天平塚古墳 桜塚古墳群	鑿轡 1・輪鏝 1・木製鞍 1 第 1 主体部木棺の残存状況・昭和 10 年区画整理事業前の状況 1 馬具装着図 1	計 5 点	特別展『古墳時代の猪名川流域』展示図録
26	朝日新聞出版	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群 KM128 号窯	須恵器集合 1	計 1 点	朝日ジュニアシリーズ「新週刊マンガ日本史」第 3 号
28	四條畷市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	馬埋葬土坑 (SK 940) 1	計 1 点	なわて水みらいセンター」管理棟での展示
29	個人	掲載	写真カラー	はざみ山遺跡	旧石器時代の住居跡 1	計 1 点	兵庫県高齢者大学での講演資料
30	風響社	掲載	図面 写真カラー	蔀屋北遺跡	馬具 1・馬骨 1	計 2 点	諫早直人『騎馬文化東漸の道』
31	(株) 中央公論社	掲載	写真カラー	西町奉行所	調査状況 2	計 2 点	藪田 貫『武士の町 大坂』
32	(株) 十象舎	掲載	写真カラー	大坂城跡	太閤柵 1	計 1 点	週刊『戦国武将データファイル』第 36 号
33	(株) 雄山閣	貸出 掲載	写真カラー	弁天山 C1B2 号墳	三角縁神獣鏡 1 方格規矩鏡 1	計 3 点	水野正好・白石太郎・西川寿勝『邪馬台 (ヤマト) 国』
34	株式会社フォト・オリジナル	貸出 掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器甕 1	計 1 点	中学生社会科教材『中学実力練成テキスト歴史』
35	大阪歴史教育者協議会堺支部	掲載	写真カラー	南花田遺跡	竪穴状遺構 (SK26-50) 1	計 1 点	『歴史探検堺』
36	藤井寺市教育委員会	貸出 掲載	写真モノクロ 写真カラー	津堂城山古墳 三ツ塚古墳	石棺出土状況 1 衝立形埴輪 1 修羅出土状況 1	計 3 点	古市古墳群の紹介冊子
37	個人	撮影 掲載	写真カラー	池上曾根遺跡	鳥形木製品 1	計 1 点	重森功『民族の指紋』
38	大阪府立近つ飛鳥博物館	掲載	写真カラー	中野北 1 号墳	石室 1	計 1 点	「富田林市民ふれあいまつり&農業祭&商工祭」での展示パネル
39	四條畷市教育委員会	撮影貸出	計測	蔀屋北遺跡	馬埋葬土坑 1・井戸枠出土状況 1	計 2 点	『歴史とみどりのまち ふるさと四條畷』
40	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	図面 写真カラー	衣ヶ谷古墳 唐櫃山古墳 銭塚古墳 山城廃寺 蔀屋北遺跡	須恵器・土師器集合 1・耳環 1・鉄釘集 1・石室 1 古墳検出状況 1・蓋形埴輪 1・円筒埴輪集合 1 円筒埴輪検出状況 1 蓋形埴輪集合全景 1 集落域検出状況 1・真上 1・須恵器集合 1・馬下顎骨 1	計 13 点	冬季特別展 『おおさか一大阪府発掘調査最新情報一』広報資料
41	(株) エディトリアルハウス	貸出 掲載	図面	三ツ塚古墳	修羅出土状況 1	計 1 点	『図解入門 ペアリングの基本と仕組み』
42	兵庫県立考古博物館	貸出 掲載	写真モノクロ	四ツ池遺跡	高杯 1	計 1 点	春季特別展『古墳時代の王権と祭祀－導水施設と埴輪群像』
43	高槻市立今城塚古代歴史館	貸出 掲載	写真カラー	シンヨツカ古墳 今城塚古墳	石槨 1 空中写真 1 昭和 32 年当時の写真 1	計 3 点	『グラフィック view』第 68 号

44	河出書房新社	掲載	写真カラー	葎屋北遺跡	馬埋葬土坑 1・鑿轡 1・輪鍔 1・木製鞍 1 計 4 点	右島和夫・千賀久『列島の考古学—古墳時代』
45	吹田市教育委員会	掲載	写真カラー	吉志部瓦窯跡	単弁十六葉蓮華文軒丸瓦 1・平瓦 1・緑釉陶器片 2・緑釉瓦 6・窯道具 6 計 16 点	『吉志部瓦窯跡出土資料整理報告書』
46	鳥取県埋蔵文化財センター	掲載	写真カラー	シシヨツカ古墳	シシヨツカ古墳近景 1 計 1 点	青谷上寺地遺跡ミニフォーラム記録集 鳥取県埋蔵文化財センターのホームページ
47	高槻市立しろあと歴史館	撮影 掲載	写真カラー	大坂城跡 高槻城跡	金箔押軒丸瓦・軒平瓦 14 金箔押軒平瓦 1 計 15 点	春季特別展『城下町高槻のはじまり—信長・秀吉・家康の戦略』
48	柏原市教育委員会	撮影 掲載	図面 写真カラー	高井田鳥坂寺跡	塔跡平面実測図 1・金堂正面据置家形石棺実測図 1・高井田鳥坂寺金堂跡遺構実測図 1・高井田鳥坂寺講堂跡遺構実測図 金銅製飾金具 2・金銅製仏具 1・金銅製金具 2・金銅製蝶番 1・樽仏 2 計 12 点	『高井田廃寺跡（鳥坂寺跡）発掘調査報告書』
49	(株) 日本標準	掲載	写真カラー	三ツ塚古墳	修羅出土状況 1 計 1 点	小学校教材『社会科資料集 6 年』
50	(有) ザ・ライトスタッフオフィス	掲載	写真カラー	池上曾根遺跡	木製二脚付き盤 1 計 1 点	古閑炯作『新・やまと物語』（一・二巻）新人物往来社
51	(株) 博宣インターナショナル	撮影 掲載	写真カラー	大坂城跡	金箔押軒丸瓦・軒平瓦 4 計 4 点	NHK 大河ドラマ『江—姫たちの戦国—』
52	高槻市教育委員会	掲載	図面	史跡今城塚古墳	史跡今城塚古墳写真台帳 1 計 1 点	高槻市立今城塚古代歴史館常設展示パネル・常設展示図録
53	(株) Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1 計 1 点	『エブリスタディ小6』4月号
54	高槻市教育委員会	貸出 掲載	図面 写真カラー	葎屋北遺跡	北東住居域全景 1・馬埋葬土坑 1・大溝E 090001 全景 1・木製鞍 1・U字形板状土製品 1 計 5 点	高槻市立今城塚古代歴史館常設展示パネル・常設展示図録
55	四條畷市教育委員会	掲載	写真カラー	葎屋北遺跡	井戸E 090805 検出状況 1・馬埋葬土坑 1 計 2 点	屋外復元レプリカ・説明版
56	窯業史研究会	撮影 掲載	写真モノクロ	陶邑窯跡群 TK230- I号窯	須恵器 42（花瓶 2・壺口縁部 8・壺 11・鉢 6・焼台 7・杯 2・椀 4・甕 2） 計 42 点	木村理恵編『平安時代須恵器の生産と流通—陶邑窯跡群TK230 — I号窯を中心に』
57	(有) 青垣出版	掲載	写真カラー	シシヨツカ古墳	石室 1・亀甲繫文銀象嵌円頭大刀柄頭 1 計 2 点	轟井忠義『奈良を知る 日本書記』
58	(財) 交野市文化財事業団	掲載	図面	堂山1号墳	須恵器 5 計 5 点	『ヤマト政権の生産基盤を掘る！』
59	高槻市教育委員会	貸出 掲載	写真カラー	葎屋北遺跡	須恵器・土師器集合 1 計 1 点	高槻市立今城塚古代歴史館常設展示パネル・常設展示図録
60	(株) Z会	掲載	写真カラー	陶邑窯跡群	須恵器集合 1・樽形はそう 1 計 2 点	『エブリスタディアドバノスト小5 社会 スタンダード』6月号 『エブリスタディアドバノスト小5 社会 ハイレベル』6月号

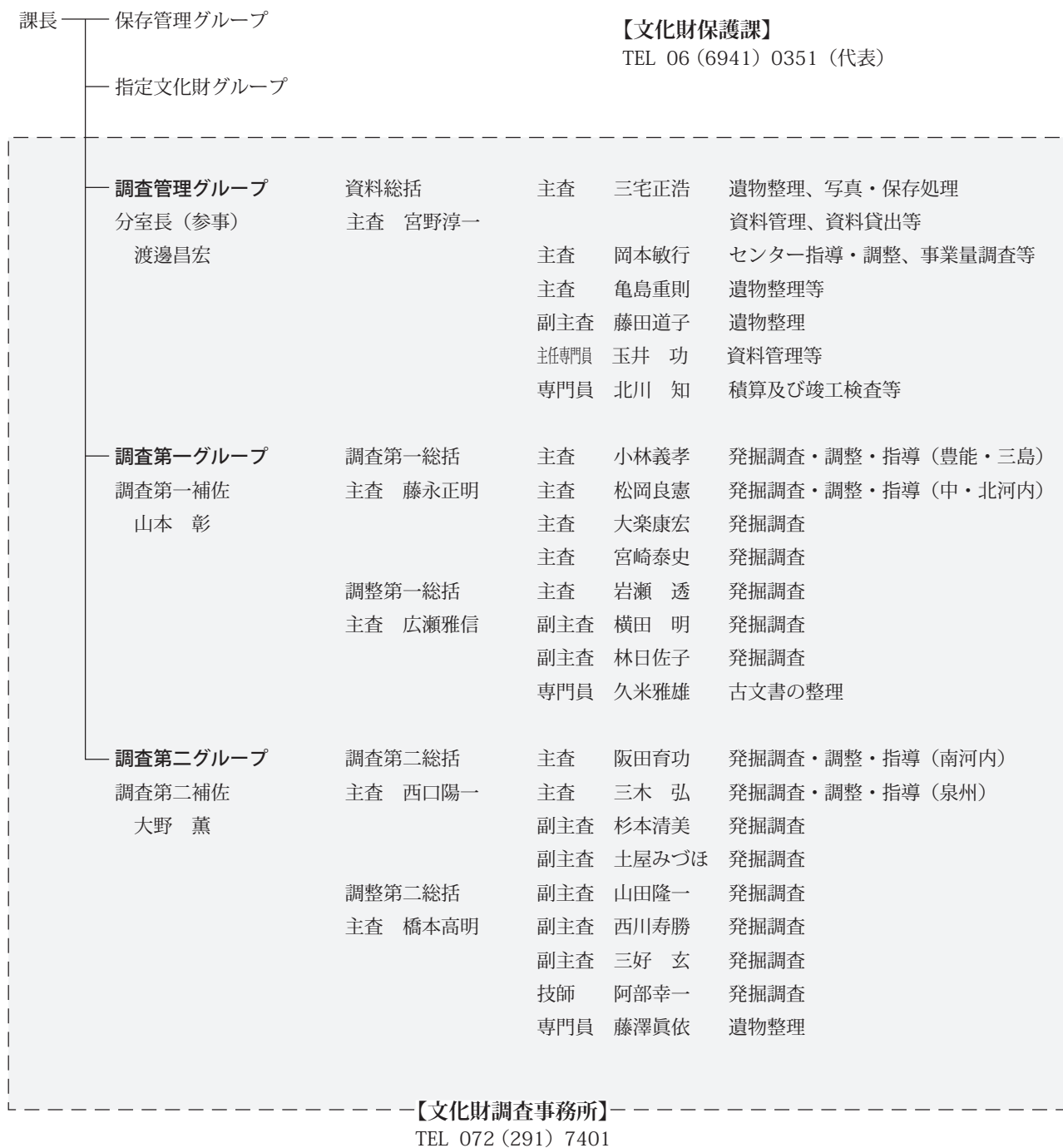
資料閲覧

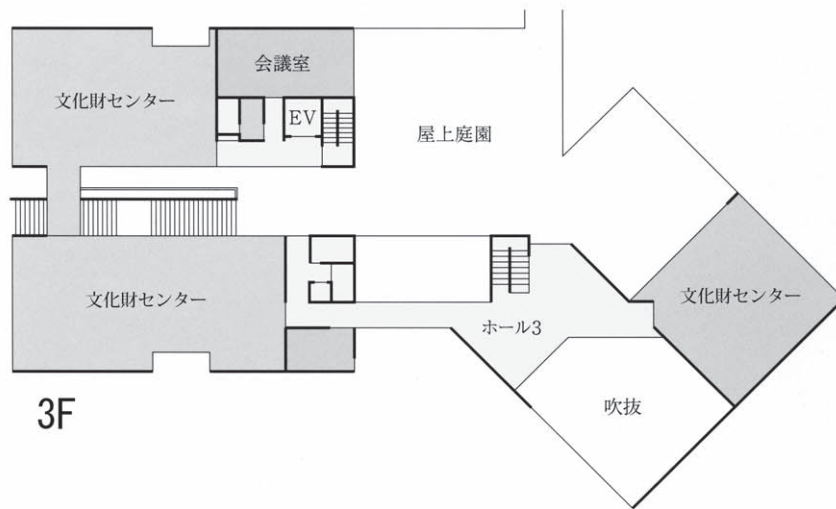
申請者(所属)	遺跡	資料内容	保管場所	目的
1 堺市博物館	陶器遺跡・陶器南遺跡	瓦器碗・土師器・瓦質羽釜・ 瓦質播鉢	泉北収蔵庫	展示
2 大阪府立狭山池博物館	河合遺跡	須恵器・土師器・木製品	文化財調査事務所	展示
3 交野市教育委員会	大谷窯	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
4 柏原市歴史資料館	菅田山古墳群	土師器・埴	文化財調査事務所	展示
5 交野市教育委員会	大谷窯	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
6 大阪大学大学院	陶邑窯跡群ON 22・ON 220・ ON 223 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
7 大阪大学大学院	倉治遺跡	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
8 同志社大学大学院	土師の里遺跡・錦織南遺跡	石器	泉北収蔵庫	学術研究
9 大阪府立近つ飛鳥博物館	寺田遺跡	鉄斧・韃羽口	文化財調査事務所	展示
10 同志社大学大学院	田井中遺跡	石器	泉北収蔵庫	学術研究
11 奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230- I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
12 安城市教育委員会	田井中遺跡	弥生土器	文化財調査事務所	学術研究
13 大阪大学大学院	陶邑窯跡群ON 22・ON 220・ ON 223 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
14 韓国・慶南発展研究院	蔀屋北遺跡	韓式系土器	文化財調査事務所	学術研究
15 大阪府立近つ飛鳥博物館	堂山古墳	写真資料	文化財調査事務所	展示
16 田原本町総務部企画財政室	田井中遺跡	弥生土器	文化財調査事務所	学術研究
17 生駒市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
18 四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	馬埋葬土坑レプリカ	東大阪収蔵庫	展示
19 関西大学	蔀屋北遺跡	木製琴・琴柱	文化財調査事務所	学術研究
20 奈良大学大学院	陶邑窯跡群ON地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	展示
21 大阪大学大学院	陶邑窯跡群ON 22・ON 220・ ON 223 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
22 生駒市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	展示
23 大阪府立狭山池博物館	堀遺跡・高木遺跡	土師器・須恵器・木製品	文化財調査事務所	展示
24 大阪府立門真西高等学校	雁屋遺跡	手焙形土器	文化財調査事務所	学術研究

25	京都大学大学院	陶邑窯跡群TK4号窯	瓦・陶磁器類	泉佐野収蔵庫	学術研究
26	大阪府立近つ飛鳥博物館	堂山1号墳	須恵器	文化財調査事務所	展示
27	京都大学大学院	陶邑窯跡群TK 305 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
28	奈良大学大学院	陶邑窯跡群ON 22・ON 220・ON 223 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
29	大阪大学大学院	陶邑窯跡群ON 22・ON 220・ON 223 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
30	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230- I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
31	大阪大谷大学	陶邑窯跡群TK 230- I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
32	大阪大谷大学	向泉寺	瓦	大阪府立三国ヶ丘高等学校	学術研究
33	大阪大谷大学	向泉寺	瓦	大阪府立三国ヶ丘高等学校	学術研究
34	大阪大谷大学	向泉寺	瓦	大阪府立三国ヶ丘高等学校	学術研究
35	京都大学大学院	陶邑窯跡群TK 305 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
36	古墳出現期土器研究会	大町遺跡・和泉寺跡	土師器	文化財調査事務所	学術研究
37	大阪大谷大学	向泉寺	瓦	東大阪収蔵庫	学術研究
38	京都大学大学院	TK 305 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
39	大阪府立狭山池博物館	堀遺跡・河合遺跡・高木遺跡	土師器・須恵器・木製品	文化財調査事務所	展示
40	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230- I 号窯	瓦	文化財調査事務所	学術研究
41	四條畷市教育委員会	薮屋北遺跡	馬埋葬土坑レプリカ	東大阪収蔵庫	展示
42	京都大学大学院	陶邑窯跡群TK 305 号窯	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
43	兵庫県立考古博物館	池上曾根遺跡・四ツ池遺跡	木製品	弥生文化博物館	展示
44	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	学術研究
45	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	展示
46	関西大学大学院	シンヨツカ古墳	漆棺	文化財調査事務所	学術研究
47	大阪府立近つ飛鳥博物館	衣ヶ谷古墳・唐櫃山古墳・薮屋北遺跡・銭塚古墳	須恵器・土師器・埴輪・鉄器	文化財調査事務所	学術研究
48	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	学術研究
49	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	学術研究
50	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230- I 号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
51	京都大学大学院	府中遺跡	縄文土器	文化財調査事務所	学術研究

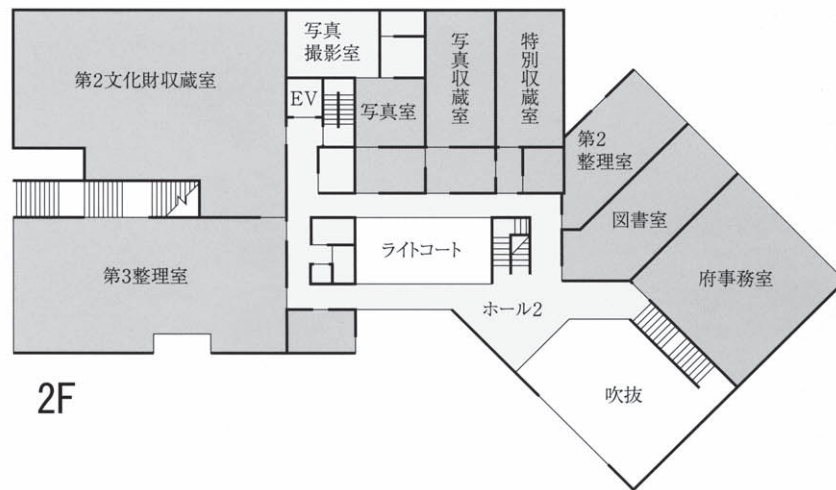
52	奈良文化財研究所	土師の里遺跡	土師器	文化財調査事務所	学術研究
53	奈良県橿原考古学研究所 附属博物館	東郷遺跡	特殊器台	文化財調査事務所	学術研究
54	塩の会	蔀屋北遺跡	製塩土器	文化財調査事務所	学術研究
55	韓国・中部考古学研究所	蔀屋北遺跡	土師器・須恵器・韓式系土器	文化財調査事務所	学術研究
56	窯業史研究会	陶邑窯跡群TK 230- I号窯・ MT-5号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
57	奈良大学	シシヨツカ古墳	ガラス玉	文化財調査事務所	学術研究
58	奈良大学大学院	陶邑窯跡群ON地区窯跡	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
59	高槻市立しろあと歴史館	高槻城跡・大坂城跡	金箔瓦	文化財調査事務所	展示
60	大阪大学大学院	陶邑窯跡群	須恵器	泉佐野収蔵庫	学術研究
61	徳島県立博物館	茨田安田遺跡	木偶頭	大阪府立茨田 高等学校	展示
62	柏原市歴史資料館	鳥坂寺跡	埴仏・金属器	文化財調査事務所	出版
63	花園大学大学院	小島東遺跡	製塩土器	泉北収蔵庫	学術研究
64	高槻市教育委員会	太田茶臼山古墳	埴輪	文化財調査事務所	展示
65	大阪大谷大学大学院	堂山1号墳	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
66	愛媛県埋蔵文化財調査 センター	蔀屋北遺跡	製塩土器	文化財調査事務所	学術研究
67	花園大学大学院	小島東遺跡	製塩土器	泉北収蔵庫・ 文化財調査事務所	学術研究
68	高槻市埋蔵文化財調査 センター	総持寺遺跡・蔀屋北遺跡	須恵器・韓式系土器・埴輪・ 鉄製品	文化財調査事務所	展示
69	大阪大谷大学大学院	堂山1号墳	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
70	奈良文化財研究所	陶邑窯跡群TK 230- I号窯	須恵器	文化財調査事務所	学術研究
71	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群TK 73号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
72	和泉市教育委員会	禅寂寺・池田寺	写真資料	文化財調査事務所	出版
73	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群TK 73号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
74	大分市歴史資料館	お亀石古墳・シシヨツカ古墳	瓦・須恵器	文化財調査事務所	展示
75	大阪大谷大学大学院	陶邑窯跡群TK 73号窯	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
76	奈良大学大学院	大坂城跡	須恵器	泉大津収蔵庫	学術研究
77	大阪文化財研究所	大坂城跡	須恵器	泉大津収蔵庫	展示
78	奈良大学大学院	陶邑窯跡群	地図・図面類	文化財調査事務所	学術研究

平成 22 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

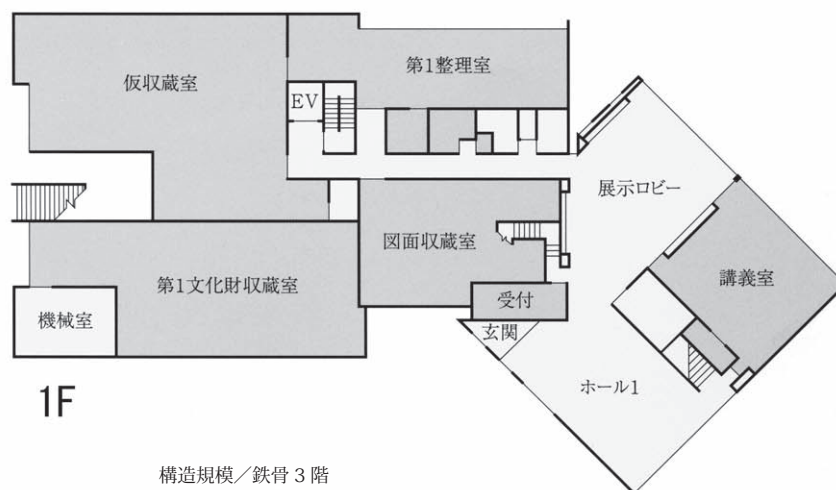




3F



2F



1F

構造規模／鉄骨3階
敷地面積／4,504.76㎡
延床面積／4,739.22㎡

図74 文化財調査事務所平面図

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 15

発行日 平成 23 年 11 月 30 日

発 行 大阪府教育委員会

〒 540-8571

大阪市中央区大手前 2 丁目

TEL 06-6941-0351 (代表)

編 集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒 590-0105

堺市南区竹城台 3 丁 21-4

TEL 072-291-7401

印 刷 (株) 近畿印刷センター

〒 582-0001

柏原市本郷 5 丁目 6 番 25 号

TEL 072-972-5918